

415

23



工 6L 50

415-23

火 大 震 大 東 關

帖 真 寫 念 記

大 正
13. 2. 27
購 求



更始

一新

素水篆題



序 文

大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東ノ地大ニ震ヒ倏忽大厦摧ケ高樓倒レ衆人驚愕ノ間劫火四方ニ起リテ炎焰天ヲ焦シ沿海ノ地或ハ海嘯ニ襲ハル、アリ一朝ニシテ多年集積ノ文物ヲ蕩除シ老若男女十數萬ノ生靈ヲ奪ヒ去ル嗚呼悽慘眞ニ言語ニ絶ス而シテ其ノ間ニ於テ或ハ以テ殷鑑トシ或ハ以テ嚴戒トナスヘク管ニ一場ノ出來事トシテ看過スヘカラサルノ事象頗ル多シ

茲ニ東京圖案印刷株式會社長黒田久吉氏此ノ戰慄スヘキ大慘狀ヲ後世ニ記念セムガ爲岡田紅陽氏ガ當時千辛萬苦シテ實狀ヲ撮影シタル寫眞ヲ骨子トシ之ニ幾多ノ増補ヲ加ヘテ記念寫眞帖ヲ編成シ以テ之ヲ梓ニ上セントス蓋シ此ノ編タル觀ル者ヲシテ未曾有ノ慘狀ヲ髣髴セシムルト共ニ災禍襲來ノ間ニ現ハレタル無限ノ鑑戒ヲ後世ニ貽ス有力ナル資料ノ一タルヘキヲ信ス

大正十二年十二月一日

東京府知事 宇佐美勝夫

目次

記事

詔書

關東戒嚴司令部條令、關東戒嚴司令官、流言浮説取締令、支拂猶豫令、暴利取締令、帝都復興審議會、帝都復興院官制、復興院任命

罹災の概況、東京近縣震害大要、東京市各區燒失戸數人口、死傷者の數、三殿下薨去、東京市内燒失倒壊せる主なる建物、横濱市燒失地區、九月一日より十四日までの震動數、震火災損害額、列國の同情

口繪

列車轉覆

鎌倉八幡宮唐門の倒壊

災後の横濱居留地

淺草興行街と折れたる十二階

(原色版)

(原色版)

(原色版)

(原色版)

京橋の高所より見たる京橋、日本橋、深川方面の慘狀……………(四枚續)

帝都災前の盛觀

挿話 大地震から餘震の數、大島異狀なし、南伊豆は平穩

宮城二重橋……………一

東京驛……………二

帝國劇場と警視廳……………三

八重洲町通り……………四

銀座通り……………五

日本橋……………六

日比谷公園……………七

靖國神社……………八

増上寺山門……………九

泉岳寺義士の墓……………一〇

上野公園の櫻……………一一

上野廣小路……………一二

上野不忍池……………一三

……………一四

淺草仲見世……………一五

淺草公園……………一六

淺草觀音堂……………一七

三大呉服店……………一八

國技館……………一九

吉原遊廓……………二〇

東京及び其附近

挿話 警官の機轉で助かつた新大橋、倒壊した燈臺、傳書鳩の殊勳

東京横濱兩市燒失地域圖……………(石版刷)

丸の内の火災と火中の警視廳……………二二

燃へつゝある帝國劇場と内部の燒跡……………二三

火に追はるゝ群衆……………二四

その夕の雲……………二五

内務省の燒跡……………二六

文部省の燒跡……………二七

鐵道省と其附近……………二八

大藏省と其附近……………二九

| | |
|--------------|----|
| 農商務省の残骸 | 二九 |
| 逓信省と汐留驛附近 | 三〇 |
| 印刷局 | 三一 |
| 帝室林野管理局 | 三二 |
| 皇城周囲の被害 | 三三 |
| 日比谷公園有樂門外 | 三四 |
| 新橋驛と萬世橋驛 | 三五 |
| 東京帝國大學 | 三六 |
| 日本橋附近と魚河岸 | 三七 |
| 日本橋通りと丸善の慘狀 | 三八 |
| 京橋より銀座方面を望む | 三九 |
| 京橋より東京驛方面を望む | 四〇 |
| 廢墟の如き銀座街 | 四一 |
| 銀座より見たる丸の内方面 | 四二 |
| 大破せる二大建築 | 四三 |
| 崩壊せる内外ビルディング | 四四 |
| 焼失せる三大呉服店 | 四五 |
| 築地と木挽町附近 | 四六 |
| 新川より見たる越中島方面 | 四七 |
| 茅場町より三越方面を望む | 四八 |
| 茅場町より兜町方面を望む | 四九 |
| 新富座附近 | 五〇 |
| 大厦皆空し | 五一 |
| 赤坂田町の倒壊家屋 | 五二 |
| 市ヶ谷見附の路面龜裂 | 五三 |
| 愛宕下と泉岳寺 | 五四 |
| 靖國神社と神田遠望 | 五五 |
| 九段下と三番町附近 | 五六 |
| ニコライ堂の残骸と駿河臺 | 五七 |
| 神田小川町通り | 五八 |
| 神田神保町附近 | 五九 |
| 焼落ちたる神田橋 | 六〇 |

神田明神燒跡より下谷、
淺草、本所方面を望む (四枚續)

| | |
|-----------------|-------|
| 神田明神の燒跡 | 六一 |
| 神田須田町附近 | 六二 |
| 萬世橋より見たる外神田方面 | 六三 |
| 上野廣小路 | 六四 |
| 湯島臺より上野を望む | 六五 |
| 上野附近と淺草を望む | 六六 |
| 淺草仲見世と觀音境内 | 六七 |
| 花川戸より淺草觀音遠望 | 六八 |
| 淺草本願寺と其鐘樓 | 六九 |
| 淺草藏前 | 七〇 |
| 淺草橋附近 | 七一 |
| 吾妻橋の殘骸 | 七二 |
| 兩國橋と橋畔より見たる淺草方面 | 七三 |
| 燒失大破せる永代橋 | 七四 |
| 人形町通り水天宮 | 七五 |
| 本所相生町と國技館 | 七六 |
| 深川八幡宮と不動堂 | 七七 |
| 月島及相生橋の燒跡 | 七八 |
| 洲崎遊廓 | 七九 |
| 府下砂町の倒壊家屋 | 八〇 |
| 吉原遊廓 | 八一 |
| 千住瓦斯タンク附近 | 八二 |
| 大森の倒壊家屋 | 八三 |
| 全潰大破せる鶴見總持寺 | 八四、八五 |
| 六郷附近 | 八六 |
| 川崎大師の鐘樓 | 八七 |
| 川崎附近 | 八八、八九 |
| 穴守稻荷橋 | 九〇 |

災後所見

挿話 再生三生の老人、十年の腰わけが立つ、火事の火
と蠅燭の火

| | |
|---------------|---------|
| 雲井町附近 | 一一五 |
| 地藏坂より龜の橋方面を望む | 一二六 |
| 眞金町附近 | 一二七 |
| 横須賀市の慘狀 | 一二八、一二九 |
| 米ヶ濱より見たるパラック | 一三〇 |

函嶺附近

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 挿話 被服廠跡の泥中から、何が幸なるか判らぬ、 旋風で大川の真中へ | |
| 小山富士紡績會社の慘狀 | 一三三 |
| 酒匂川附近 | 一三三 |
| 酒匂橋 | 一三三 |

| | |
|-------------|-------|
| 二重橋前の罹災民 | 九一 |
| 軍隊の炊出し | 九二 |
| 尋ね人の貼札 | 九三 |
| 郷里へ急ぐ人々 | 九四、九五 |
| 救援の物資東京に到る | 九六、九七 |
| 海陸より盛に到れる食糧 | 九八 |
| 震餘雜觀 | 九九 |

| | |
|-------------------|---------|
| 三萬二千の死者を生じた本所被服廠跡 | 一〇〇、一〇一 |
| 火藥爆破 | 一〇二 |

| | |
|------------|-----|
| 災後の生活(その一) | 一〇三 |
|------------|-----|

| | |
|------------|-----|
| 災後の生活(その二) | 一〇四 |
|------------|-----|

| | |
|------------|-----|
| 災後の生活(その三) | 一〇五 |
|------------|-----|

| | |
|--------------|----|
| 茅場町より兜町方面を望む | 四九 |
| 新富座附近 | 五〇 |
| 大厦皆空し | 五一 |
| 赤阪田町の倒壊家屋 | 五二 |
| 市ヶ谷見附の路面龜裂 | 五三 |
| 愛宕下と泉岳寺 | 五四 |
| 靖國神社と神田遠望 | 五五 |
| 九段下と三番町附近 | 五七 |
| ニコライ堂の残骸と駿河臺 | 五七 |
| 神田小川町通り | 五八 |
| 神田神保町附近 | 五九 |
| 焼落ちたる神田橋 | 六〇 |

| | |
|-------------|-------|
| 洲崎遊廓 | 七九 |
| 府下砂町の倒壊家屋 | 八〇 |
| 吉原遊廓 | 八一 |
| 千住瓦斯タンク附近 | 八二 |
| 大森の倒壊家屋 | 八三 |
| 全潰大破せる鶴見總持寺 | 八四、八五 |
| 六郷附近 | 八六 |
| 川崎大師の鐘樓 | 八七 |
| 川崎附近 | 八八、八九 |
| 穴守稻荷橋 | 九〇 |

災後所見

挿話 再生三生の老人、十年の腰わけが立つ、火事の火と蠅の火

| | |
|-------------------|---------|
| 二重橋前の罹災民 | 九一 |
| 軍隊の炊出し | 九二 |
| 尋ね人の貼札 | 九三 |
| 郷里へ急ぐ人々 | 九四、九五 |
| 救援の物資東京に到る | 九六、九七 |
| 海陸より盛に到れる食糧 | 九八 |
| 震餘雜觀 | 九九 |
| 三萬二千の死者を生じた本所被服廠跡 | 一〇〇、一〇一 |
| 火藥爆破 | 一〇二 |
| 災後の生活(その一) | 一〇三 |
| 災後の生活(その二) | 一〇四 |
| 災後の生活(その三) | 一〇五 |
| 災後の生活(その四) | 一〇六 |

横濱及横須賀

挿話 あるぞく、大喜び、不幸からでた幸、日蓮の託題目

野毛山より見たる横濱市街 (四枚綴)

| | |
|-------------|---------|
| 火災前の正金銀行附近 | 一〇七 |
| 横濱驛 | 一〇八 |
| 櫻木町驛 | 一〇九 |
| 神奈川縣廳 | 一一〇 |
| 正金銀行と其附近 | 一一一 |
| 横濱取引所 | 一一二 |
| 横濱會館 | 一一三 |
| 横濱海岸通りと其附近 | 一一四、一一五 |
| 横濱税關附近 | 一一六、一一七 |
| 本町及びその附近 | 一一八、一二九 |
| 伊勢佐木町附近 | 一二〇 |
| 横濱公園附近 | 一二一 |
| 豊國橋より吉田橋を望む | 一二三 |
| 馬車道通り | 一二三 |
| 辨天橋畔より見たる燒原 | 一二四 |

函嶺附近

挿話 被服廠跡の泥中から、何が幸となるか判らぬ、旋風で大川の真中へ

| | |
|---------------|---------|
| 雲井町附近 | 一二五 |
| 地藏坂より龜の橋方面を望む | 一二六 |
| 眞金町附近 | 一二七 |
| 横須賀市の慘狀 | 一二八、一二九 |
| 米ヶ濱より見たるバラツク | 一三〇 |
| 小山富士紡績會社の慘狀 | 一三一 |
| 酒匂川附近 | 一三二 |
| 酒匂橋 | 一三三 |
| 酒匂川棧橋 | 一三四 |
| 小田原十字街 | 一三五 |
| 小田原驛前 | 一三六 |
| 小田原車庫附近 | 一三七 |
| 小田原紡績會社の慘狀 | 一三八 |
| 倒壊せる小田原の二銀行 | 一三九 |
| 小田原御用邸 | 一四〇 |
| 閑院宮御用邸 | 一四一 |
| 小田原城外(その一) | 一四二 |
| 小田原城外(その二) | 一四三 |
| 小田原城内 | 一四四 |
| 倒壊せる鴨宮驛 | 一四五 |
| 箱根湯本驛附近の震害 | 一四六、一四七 |
| 箱根山中地這りと崩壊 | 一四八、一四九 |
| 崩壊せる宮の下 | 一五〇 |
| 富士屋ホテル | 一五一 |
| 底倉と小涌谷 | 一五二 |
| 箱根町 | 一五三 |
| 箱根枯木坂 | 一五四 |
| 蘆の湖附近 | 一五五 |
| 石橋鐵橋 | 一五六 |

國府津以東

挿話 身替りの靴、金時計とバナ、三つ、藩士グーの音も出ぬ

東海道線大磯東方の列車顛覆……………一五七

國府津附近……………一五九、一六〇

國府津驛附近……………一六〇、一六一

墜落せる馬入川鐵橋と假橋架設工事……………一六三、一六四

馬入川の渡船聯絡……………一六四、一六五

藤澤遊行寺の倒壊……………一六六、一六七

藤澤大鋸橋附近……………一六六

鎌倉御用邸……………一六九

鶴ヶ岡八幡宮……………一七〇

鎌倉六地藏と大佛……………一七一

鎌倉小町附近と小學校……………一七二

全潰せる寶戒寺……………一七三

由比ヶ濱の慘狀……………一七四

房州方面

挿話 腹の中の七時間、娘の代りに母の嫁入り、お寺さん口あんぐり

那古町の慘狀……………一七五

那古町の全壊家屋……………一七六

船形町の燒跡……………一七七

北條町の慘狀……………一七八、一七九

北條八幡神社……………一八〇

北條驛の列車顛覆……………一八二

北條町の食糧配給……………一八三

館山町の倒壊家屋……………一八三

野嶋岬燈臺の崩潰……………一八四

詔書

朕神聖ナル宗祖ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑒ミ皇考中興ノ宏謨ヲ繼承シテ
 昔テ愆ヲサラムコトヲ庶幾シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ宗祖ノ神祐ト國民ノ協力
 トニ賴リ世界空前ノ大戰ニ處シ尙克ク小康ヲ保ツヲ得タリ

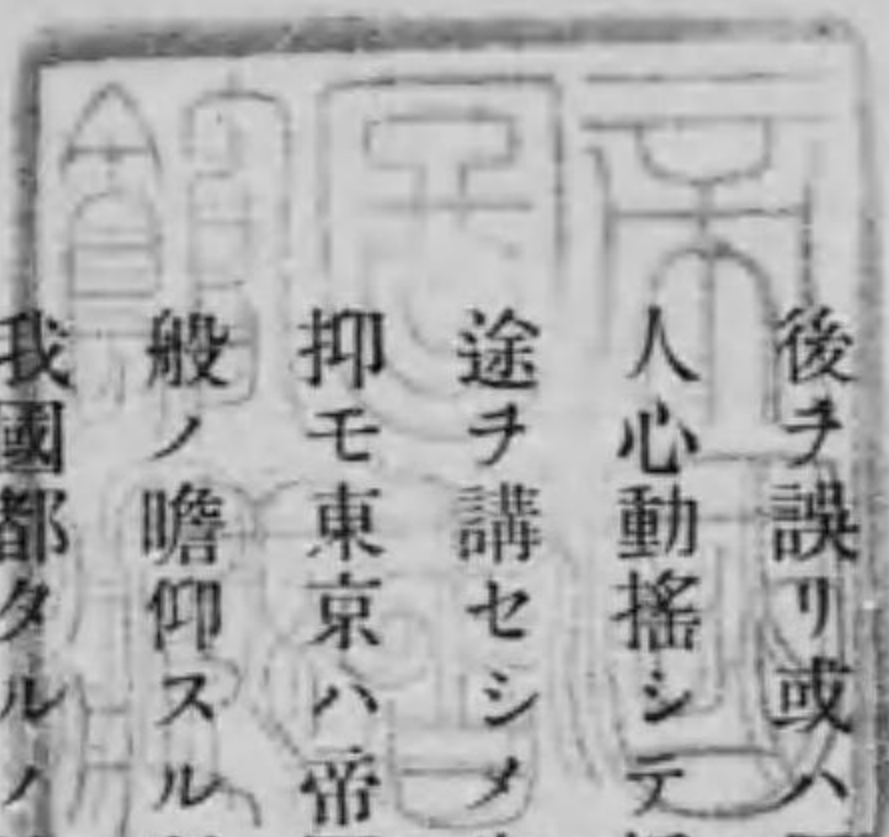
奚ソ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其ノ震動極メテ峻烈ニシテ家屋ノ潰倒男
 女ノ慘死幾萬ナルヲ知ラス剩ヘ火災四方ニ起リテ炎焰天ニ冲リ京濱其他ノ市邑一夜
 ニシテ焦土ト化ス此ノ間交通機關杜絶シ爲ニ流言飛語盛ニ傳ハリ人心恟々トシテ倍
 々其慘害ヲ大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災ニ較フレハ寧口凄愴ナルヲ想知セシム
 朕深ク戒愼シテ己マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速カニ人事ヲ
 盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルノミ凡ソ非常ノ秋ニ際シテハ非常ノ果斷ナカルヘ
 カラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前

詔書

朕神聖ナル宗祖ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑒ミ皇考中興ノ宏謨ヲ繼承シテ
肯テ愆ヲサラムコトヲ庶幾シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ宗祖ノ神祐ト國民ノ協力
トニ賴リ世界空前ノ大戰ニ處シ尙克ク小康ヲ保ツヲ得タリ

奚ソ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其ノ震動極メテ峻烈ニシテ家屋ノ潰倒男
女ノ慘死幾萬ナルヲ知ラス剩ヘ火災四方ニ起リテ炎焰天ニ冲リ京濱其他ノ市邑一夜
ニシテ焦土ト化ス此ノ間交通機關杜絶シ爲ニ流言飛語盛ニ傳ハリ人心恟々トシテ倍
々其慘害ヲ大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災ニ較フレハ寧口凄愴ナルヲ想知セシム

朕深く戒愼シテ己マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速カニ人事ヲ
盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルノミ凡ソ非常ノ秋ニ際シテハ非常ノ果斷ナカルヘ
カラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前
後ヲ誤リ或ハ個人若ハ一會社ノ利益保障ノ爲ニ多衆災民ノ安固ヲ脅スカ如キアラハ
人心動搖シテ抵止スル所ヲ知ラス朕深く之ヲ憂惕シ既ニ在朝有司ニ命シ臨機救濟ノ
途ヲ講セシメ先ツ焦眉ノ急ヲ拯フテ以テ惠撫慈養ノ實ヲ舉ケムト欲ス



抑モ東京ハ帝國ノ首都ニシテ政治經濟ノ樞軸トナリ國民文化ノ源泉トナリテ民衆一
般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其ノ舊形ヲ留メスト雖依然トシテ
我國都タルノ地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進
ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢面目ヲ新ニセサルヘカラス惟フニ我カ忠良ナル國民
ハ義勇奉公朕ト共ニ其慶ニ賴ラムコトヲ切望スヘシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ
特殊ノ機關ヲ設定シテ帝都復興ノ事ヲ審議調査セシメ其ノ成案ハ或ハ之ヲ至高顧問
ノ府ニ諮ヒ或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬遺算ナキヲ期セムトス

在朝有司能ク朕カ心ヲ心トシ迅ニ災民ノ救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁遏シ民心ヲ安定
シ一般國民亦能ク政府ノ施設ヲ翼ケテ奉公ノ誠悃ヲ致シ以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕
前古無比ノ天殃ニ際會シテ郵民ノ心愈切ニ寢食爲ニ安カラス爾臣民其レ克ク朕カ意
ヲ體セヨ

御名 御璽
攝政 名

大正十二年九月十二日

各 大 臣 副 署



關東戒嚴司令部條例

朕關東戒嚴司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月十二日

內閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛
陸軍大臣 男爵 田中義一

勅令第四百號

第一條 關東戒嚴司令官ハ陸軍大將又ハ中將ヲ以テ之ニ親補シ天皇ニ直隸シ東京府及其附近ニ於ケル鎮戍警備ニ任ズ

關東戒嚴司令官ハ其任務達成ノ爲前項ノ區内ニ在ル陸軍軍隊ヲ指揮ス

遞信大臣 犬養 毅

司法大臣 平沼騏一郎

鐵道大臣 山之内 一 次

大藏大臣 井上準之助

勅令第四百三號

出版通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス暴行騷擾ソノ他生命身體若クハ財產ニ危害ヲ及ホスヘキ犯罪ヲ煽動シ安寧秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮說ヲナシタル者ハ十年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

支拂 猶 豫 令

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝

關東戒嚴司令部條例

朕關東戒嚴司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月十二日

內閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛

陸軍大臣 男爵 田中義一

勅令第四百號

第一條 關東戒嚴司令官ハ陸軍大將又ハ中將ヲ以テ之

ニ親補シ天皇ニ直隸シ東京府及其附近ニ於ケル鎮戍警備ニ任ズ

關東戒嚴司令官ハ其任務達成ノ爲前項ノ區内ニ在ル

陸軍軍隊ヲ指揮ス

第二條 關東戒嚴司令官ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍

大臣ノ區處ヲ受ク

第三條 關東戒嚴司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

參謀長 參謀 副官 主計 軍醫 陸軍司法事務

官 下士 判任文官

第四、五、六條(略)

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス當分ノ內東京衛

戍司令官ノ職務ハ之ヲ停止ス

關東戒嚴司令官

陸軍大將正四位勳一等功三級 福田雅太郎

補關東戒嚴司令官

(九月三日任命)

陸軍大將從三位勳一等功二級 山梨 半造

補關東戒嚴司令官

(九月二十日任命)

陸軍大將 福田雅太郎

免關東戒嚴司令官

流言浮説取締令

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ治安維持ノタメニスル罰則ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月七日

內閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛

外務大臣 子爵 後藤 新平

文部大臣 岡野敬次郎

海軍大臣 財部 彪

陸軍大臣 男爵 田中 義一

農商務大臣 男爵 田 健次郎

遞信大臣 犬養 毅
司法大臣 平沼騏一郎
鐵道大臣 山之内 一夫
大藏大臣 井上準之助

勅令第四百三號

出版通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス暴行騷擾ソノ他生命身體若クハ財產ニ危害ヲ及ホスヘキ犯罪ヲ煽動シ治安秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮説ヲナシタル者ハ十年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

支拂猶豫令

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲期間延長ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月七日

各 大臣 副 署

勅令第四百四號

第一條 大正十二年九月一日以前ニ發生シ同日ヨリ同年同月三十日マテノ間ニ於テ支拂ヲ爲スベキ私法上ノ金錢債務者カ東京府、神奈川縣、靜岡縣、埼玉縣、千葉縣及ビ震災ノ影響ニ因リ經濟上ノ不安ヲ生スル處アル勅令ヲ以テ指定スル地區ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノニ付テハ三十日間其支拂ヲ延期ス

但債務者ガ其ノ他區外ニ他ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ該營業所ノ取引ニ關スル債務ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

震災ノ影響ニ依リ必要アル時ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ハ大正十二年十月一日以後ニ支拂ヲナスベキ私法上ノ金錢債務ニ付之ヲ適用スルコトヲ得前項規定中三十日ノ期間ハコレヲ延長スルコトヲ得

第二條 左ニ掲タル支拂ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セ

- 一、國府縣其ノ他公共團體ノ債務ノ支拂
- 二、給料及ヒ勞銀ノ支拂
- 三、給料及ヒ勞銀ノ支拂ノタメニスル銀行預金ノ支拂
- 四、前項以外ノ銀行預金ノ支拂ニシテ一口百圓以下ノモノ

第三條 手形其他之ニ準スヘキ有價證券ニ關シ大正十二年九月一日ヨリ同年同月三十日マテノ間ニ第一條ニ規定スル地區ニオイテ權利保存ノタメニナスヘキ行爲ハソノ行爲ヲナスヘキ時期ヨリ三十日內ニコレヲナスニ因リテソノ效力ヲ有ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

暴利取締令

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ生活必需品ニ關スル暴利取締ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月七日

各大臣 副書

勅令第四百五號

震災ニ際シ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ生活必需品ノ買占若クハ賣惜ヲ爲シ又ハ不當ノ價格ニテ其ノ販賣ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ生活必需品ノ品目ハ命令ヲ以テ之ヲ指定ス
附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝都復興審議會

官制

勅令第四百十八號(九月十九日)

第一條 帝都復興審議會ハ内閣總理大臣ノ諮詢ニ應シ帝都其他ノ震災地ノ復興ニ關スル重要ナル案件ヲ審議ス

第二條 帝都復興審議會ハ帝都其他ノ震災地ニ關スル重要ナル案件ニツキ内閣總理大臣ニ建議スル事ヲ得

第三條 帝都復興審議會ハ總裁一名委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 總裁ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ、委員ハ國務大臣、國務大臣タリシ者、親任官又ハ學識經驗アル者ノ内ヨリ之ヲ勅命ス

第五條 總裁ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル總裁事

故アル時ハ内閣總理大臣ノ指名スル委員其職務ヲ代理ス

第六條 帝都復興審議會ニ幹事長一名幹事若干名ヲ置ク

第七條 幹事長ハ委員ノ内ヨリ之ヲ勅命ス、庶務ヲ處理ス

第八條 幹事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス、幹事長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條 委員ハ國務大臣ノ禮遇ヲ受ク(即日施行)

委員

帝都復興審議委員ハ九月十九日左ノ如ク任命サレタ

内閣總理大臣伯爵 山本權兵衛

(官制第四條ニヨリ別ニ辭令ヲ用ヒラレズ)

內務大臣子爵 後藤 新平

文部大臣 岡野敬次郎

海軍大臣 財部 彪

陸軍大臣男爵 田中 義一

農商務大臣男爵 田 健治郎

逓信大臣 犬養 毅

司法大臣 平沼騏一郎

外務大臣男爵 伊集院彦吉

鐵道大臣 山之内 一夫

大藏大臣 井上準之助

政友會總裁子爵 高橋 是清

憲政會總裁子爵 加藤 高明

樞密顧問官伯爵 伊東巳代治

子爵 澁澤 榮

日本銀行總裁 市來 乙彦

貴族院議員 江木 千之

大石 正巳

貴族院議員子爵 青木 信光

貴族院議員 和田 豊治

帝都復興審議會委員被仰付(各通)

帝都復興審議會委員子爵 後藤 新平

帝都復興審議會幹事長被仰付

內務次官 塚本 清治

內閣書記官長 樺山 資英

法制局長官 松本 丞治

帝都復興審議會幹事被仰付(各通)

帝都復興院官制

勅令第四百二十五號(九月廿七日)

第一條 帝都復興院ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ東京

及ヒ橫濱ニオケル都市計畫、都市計畫事業ノ實行及

ヒ市街地建築物法ノ施行ソノ他復興ニ關スル事務ヲ

掌ル

帝都復興院ハ前項ノ外臨時物資供給令ノ施行ニ關ス

ル件ヲ掌ル

第二條 帝都復興院ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁(親任)▲副總裁二人(勅任)▲技監一人(勅任)▲

理事七人(勅任)▲書記官專任十五人(奏任)▲事務官

專任三十人(奏任)▲技師專任百五人(奏任、内十人ヲ

第二十一條 帝都復興院ハ評議會ヲ置ク、評議會ハ總裁ノ諮詢ニ應シ重要事項ヲ調査審議ス

第二十二條 評議員ハ會長一人、評議員若干人ヲ以テ

コレヲ組織ス、特別ノ事項ヲ調査審議スルタメ必要

アル時ハ臨時評議員ヲ置クコトヲ得

第二十三條 會長、評議員及ヒ臨時評議員ハ内閣總理

大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニオイテコレヲ命ス

第二十四條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル

第二十五條 評議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請

ニ依リ内閣ニオイテコレヲ命ス、幹事ハ會長ノ指揮

ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第二十六條 評議會ニ書記ヲ置ク内閣ニオイテコレヲ

命ス、書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリコレヲ施行ス

勅任トナスコトヲ得)▲屬專任百五十人(判任)▲技

手專任三百五十人(判任)

前項事務官ノ外内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳

高等官ノ内ヨリ内閣ニオイテ事務官ヲ命ズルコトヲ

得

第三條 帝都復興院ニ總裁官房及ヒ左ノ六局ヲ置ク

計畫局▲土地整理局▲建築局▲土木局▲物資供給局

▲經理局

第四條 總裁官房ニオイテハ機密人事文書其ノ他各局

ニ屬セザル事項ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 計畫局ニオイテハ都市計畫ソノ他復興計畫ニ

關スル事務ヲ掌ル

第六條 土地整理局ニオイテハ土地ノ區劃整理ソノ他

土地ノ整理ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 帝都復興審議會ハ帝都其他ノ震災地ニ關スル重要ナル案件ニツキ内閣總理大臣ニ建議スル事ヲ得

第三條 帝都復興審議會ハ總裁一名委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 總裁ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ、委員ハ國務大臣、國務大臣タリシ者、親任官又ハ學識經驗アル者ノ内ヨリ之ヲ勅命ス

第五條 總裁ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル總裁事故アル時ハ内閣總理大臣ノ指名スル委員其職務ヲ代理ス

第六條 帝都復興審議會ニ幹事長一名幹事若干名ヲ置ク

第七條 幹事長ハ委員ノ内ヨリ之ヲ勅命ス、庶務ヲ處理ス

第八條 幹事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス、幹事長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

帝都復興審議會幹事長被仰付
 内務次官 塚本 清治
 内閣書記官長 樺山 資英
 法制局長官 松本 丞治

帝都復興審議會幹事被仰付(各通)
 帝都復興院官制

勅令第四百二十五號(九月廿七日)

第一條 帝都復興院ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ東京及ヒ橫濱ニオケル都市計畫、都市計畫事業ノ實行及ヒ市街地建築物法ノ施行ソノ他復興ニ關スル事務ヲ掌ル

帝都復興院ハ前項ノ外臨時物資供給令ノ施行ニ關スル件ヲ掌ル

第二條 帝都復興院ニ左ノ職員ヲ置ク
 總裁(親任)▲副總裁二人(勅任)▲技監一人(勅任)▲理事七人(勅任)▲書記官專任十五人(奏任)▲事務官專任三十人(奏任)▲技師專任百五人(奏任、内十八ヲ

勅任トナスコトヲ得)▲屬專任百五十人(判任)▲技師專任三百五十人(判任)

前項事務官ノ外内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ内ヨリ内閣ニオイテ事務官ヲ命ズルコトヲ得

第三條 帝都復興院ニ總裁官房及ヒ左ノ六局ヲ置ク
 ▲經理局
 ▲計畫局 ▲土地整理局 ▲建築局 ▲土木局 ▲物資供給局

第四條 總裁官房ニオイテハ機密人事文書其ノ他各局ニ屬セザル事項ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 計畫局ニオイテハ都市計畫ソノ他復興計畫ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 土地整理局ニオイテハ土地ノ區劃整理ソノ他土地ノ整理ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 建築局ニオイテハ市街地建築物法ノ施行ソノ他建築ニ關スル事項ヲ掌ル

第八條 土木局ニオイテハ都市計畫事業ソノ他ノ復興事業ノ實行ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 物資供給局ニオイテハ臨時物資供給令ノ施行ソノ他復興事業ニ要スル諸材料ノ調達ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 經理局ニオイテハ豫算決算其ノ他諸會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 第二條職員ノ外任務ニ參與セシムルタメ參與及ヒ參事ヲ置ク參與及ヒ參事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニヨリ各省高等官又ハ學識經驗アル者ノ内ヨリ内閣ニオイテコレヲ命ス、參與ハ勅任待遇參事ハ奏任官ノ待遇トス但本官ヲ有スル者ニツイテハ本官ノ受ケル待遇ニ依ル

第十二條 總裁ハ所屬職員ヲ統率シ院務ヲ總理シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第十三條 副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ總裁事故アル時ハ内閣總理大臣ノ指名シタル副總裁ソノ職務ヲ代理ス

第十四條 技監ハ技術ヲ統理ス

第十五條 局長ハ局長ヲ置キ理事ヲ以テコレニ充ツ

第十六條 理事ニシテ局長タラサルモノハ長官ノ命ヲ受ケ院務ヲ掌ル

第十七條 書記官及ヒ事務官ハ長官ノ命ヲ受ケ事務ヲ掌ル

第十八條 技師ハ長官ノ命ヲ受ケ技術ヲ掌ル

第十九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第二十條 技手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ技術ニ從事ス

第二十一條 帝都復興院ヘ評議會ヲ置ク、評議會ハ總裁ノ諮詢ニ應シ重要事項ヲ調査審議ス

第二十二條 評議員ハ會長一人、評議員若干人ヲ以テコレヲ組織ス、特別ノ事項ヲ調査審議スルタメ必要アル時ハ臨時評議員ヲ置クコトヲ得

第二十三條 會長、評議員及ヒ臨時評議員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニオイテコレヲ命ス

第二十四條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル

第二十五條 評議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニオイテコレヲ命ス、幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第二十六條 評議會ニ書記ヲ置ク内閣ニオイテコレヲ命ス、書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリコレヲ施行ス

復興院任命

| | |
|--------------------|--------------|
| 内務大臣 | 後藤 新平 |
| 兼任帝都復興院總裁 | |
| 北海道廳長官 | 宮尾 舜治 |
| 兼任帝都復興院副總裁兼任理事(各通) | |
| 土地整理局長ヲ命ス | 宮尾 舜治 |
| 物資供給局長ヲ命ス | 松木幹一郎 |
| 兼任帝都復興院書記官(三等) | |
| 總理局長心得ヲ命ス | 鐵道省參事官 十川 信一 |
| 任技監、兼任理事 | 直木倫太郎 |
| 任理事、建築局長ヲ命ス | 佐野 利器 |
| 兼任理事、計畫局長ヲ命ス | |
| | 社會局長官 池田 宏 |
| | 鐵道技師 太田 圓三 |
| 任帝都復興院技師(二等)(各通) | 內務技師 山田 博愛 |
| | 鐵道省參事官 金井 清 |
| 任帝都復興院書記官 | |
| 總裁官房事務取扱ヲ命ス | |

罹災の概況

時は大正十二年九月一日午前十一時五十八分天柱砕け地軸折れ、突忽として關東地方に襲來した安政以上の大地震は、東京を中心として横濱以南三浦半島全部、相模灘の沿岸藤澤、平塚、小田原より伊豆半島の熱海、伊東、北して箱根、山北、御殿場、沼津方面に及び、東は房總半島の西部沿岸地區、北は甲府方面に至る廣大なる區域に被害を與へ、之に海嘯と劫火の伴ふあり一朝にして幾十百萬の建築物を屠り、更に、幾十萬の生靈を葬り、又更に幾十億の財貨を焼き、通信交通機關を壊滅に歸せしめ、配電給水を瞬時に斷つた、蓋し有史以來の大天災、いかに最大級の文字を以てするも到底此の戦慄すべき悽愴なる光景は形容し得ずこと不可能である、然し人間は斯る非常時に於て、暴虐なる自然に對し、人間以上の強さを以つて一大集團を作り、最も勇敢に戦ひを挑みて此大混亂の中より直ちに秩序を整へ、壊滅より復興の若芽を育くむことを忘れぬ力を持つてゐる、斯くして廣汎なる區域に於ける幾多の文明は災前に優越を期しつゝ、急速に振起の曙光を放つてゐるのである、本書は此未曾有の混亂と騷擾との間に在りて殆ど奇蹟的に各種の材料を蒐集し、之を永久に記念して子々孫々に無限の訓戒を貽す好資料たらしめんとするのである、以下其大慘狀を後世に傳ふべき重なる事項を掲げて本書の完璧を期す。

東京近縣震害大要

戒嚴司令部調査(九月中旬)

| 地名 | 被害程度 | 被害家屋 | 死亡者數 |
|-----|------|---------|--------|
| 東京 | 著大 | 四二二、〇〇〇 | 七〇、〇〇〇 |
| 横濱 | 殆全滅 | 二二、〇〇〇 | 二四、〇〇〇 |
| 横須賀 | 同 | 一一、〇〇〇 | 五〇〇 |
| 川崎 | 稍大 | 五〇〇 | 一八〇 |
| 鶴見 | 同 | 三〇 | 一〇 |
| 神奈川 | 同 | 四〇 | 一二 |
| 戸塚 | 同 | 七〇〇 | 六〇 |
| 浦賀 | 同 | 一、五〇〇 | 二〇〇 |
| 三崎 | 同 | 七〇〇 | 六〇 |
| 葉山 | 同 | 一、一〇〇 | 二〇 |
| 鎌倉 | 著大 | 六、三〇〇 | 五〇〇 |
| 江の島 | 全滅 | — | — |
| 腰越 | 殆全滅 | 三一〇 | 七〇 |
| 藤澤 | 大 | 七、〇〇〇 | 三六〇 |

東京市各區燒失戸數人口

| 區名 | 燒失戸數 | 百分比 | 罹災人口 | 百分比 |
|-----|--------|-----|--------|-----|
| 麹町 | 三、三三 | 五五 | 一三、七〇〇 | 四 |
| 神田 | 四六、〇〇 | 九五 | 一三、五三三 | 四 |
| 日本橋 | 二六、〇七七 | 一〇〇 | 一五、三三三 | 四 |
| 京橋 | 四九、三九九 | 九七 | 一五、六九九 | 四 |
| 芝 | 二、五四六 | 四二 | 四、六二二 | 四 |
| 麻布 | 一、五 | — | 六 | — |
| 赤坂 | 二、三九九 | 一五 | 一〇、六五五 | 四 |
| 四谷 | 七、七二 | — | 二、一八五 | — |
| 牛込 | — | — | — | — |
| 小石川 | 一、五四 | — | 四、九二七 | — |
| 本郷 | 一〇、七六六 | — | 三〇、四七七 | — |

| | | | | |
|------|------|----------|----------|---|
| 茅ヶ崎 | 殆全滅 | — | — | — |
| 平塚 | 同 | — | — | — |
| 大磯 | 大 | 一、九〇〇 | — | — |
| 小田原 | 全滅 | 五、〇〇〇 | — | — |
| 真鶴 | 同 | — | — | — |
| 熱海 | 殆全滅 | 五五〇 | — | — |
| 伊豆伊東 | 稍大 | 一、三〇〇 | — | — |
| 箱根 | 殆全滅 | — | — | — |
| 湯本 | 同 | — | — | — |
| 御殿場 | 稍大 | 二、五〇〇 | — | — |
| 松田總領 | 同 | 二、〇〇〇 | — | — |
| 秦野 | 半燒失 | — | — | — |
| 磯原 | 一部燒失 | 二、八〇〇 | — | — |
| 厚木 | 大分燒失 | 一、〇〇〇 | — | — |
| 八王寺 | 稍小 | — | — | — |
| 下鶴間 | 殆全滅 | — | — | — |
| 二子 | 半數倒壊 | — | — | — |
| 市川 | 稍小 | — | — | — |
| 千葉 | 同 | — | — | — |
| 木更津 | 同 | — | — | — |
| 本郷 | 半數倒壊 | — | — | — |
| 北條附近 | 殆全滅 | — | — | — |
| 布良 | 同 | — | — | — |
| 南朝夷 | 全滅 | — | — | — |
| 勝浦 | 稍小 | — | — | — |
| 東金 | 同 | — | — | — |
| 成田 | 同 | — | — | — |
| 總計 | — | 約五五〇、〇〇〇 | 約一〇〇、〇〇〇 | — |

死傷者の數

| | | | | |
|----|-------|-----|--------|---|
| 下谷 | 三七、〇九 | 癸 | 一七〇、九八 | 癸 |
| 淺草 | 八二、三三 | 九 | 二二、九八 | 九 |
| 本所 | 三、〇二 | 九 | 二九、〇二 | 九 |
| 深川 | 四九、〇七 | 一〇〇 | 一七、〇七 | 九 |

燒失家屋計 四〇二、九一

(燒失前の三六、八五戸に對し六割四分)

罹災者計 一、五〇五、〇二

(燒失前の二、四三、五三二人に對し六割五分)

死傷者の數は全都を通じて夥しい數に上つたが死者傷者とも今に正確なる數は判明しない、警視廳の調査に

江戶橋、神田、下谷、淺草、本所、深川、京橋、芝、各郵便局、中央、丸の内、浪花、銀座、新橋、京橋、濱町、芝、神田、下谷、淺草、本所、墨田各電話局、大公使館、英國大使館(一部破損)、米國大使館、伊國大使館、佛國大使館、支那公使館、獨逸大使館(破損)、和蘭公使館、新聞通信社、萬朝社、二六、東京朝日、東京毎日、中央、讀賣、大勢、やまと、毎夕、國民、時事各新聞社、電通、帝通、博報堂、廣告社、弘報堂、萬年社、政黨本部、政友會本部、革新俱樂部、學校、帝國大學(圖書館、文、法、生理、醫化學、藥學教室、數學新教室、山上御殿)、明治大學、日本

東京近縣震害大要

戒嚴司令部調査(九月中旬)

| 地名 | 被害程度 | 被害家屋 | 死亡者數 |
|-----|------|--------|--------|
| 東京 | 著大 | 四二、〇〇〇 | 七〇、〇〇〇 |
| 横濱 | 殆全滅 | 二二、〇〇〇 | 二四、〇〇〇 |
| 横須賀 | 同 | 一一、〇〇〇 | 五〇〇 |
| 川崎 | 稍大 | 五〇〇 | 一八〇 |
| 鶴見 | 同 | 三〇 | 一〇 |
| 神奈川 | 同 | 四〇 | 一二 |
| 戸塚 | 同 | 七〇〇 | 六〇 |
| 浦賀 | 同 | 一、五〇〇 | 二〇〇 |
| 三崎 | 同 | 七〇〇 | 六〇 |
| 葉山 | 同 | 一、一〇〇 | 二〇 |
| 鎌倉 | 著大 | 六、三〇〇 | 五〇〇 |
| 江の島 | 全滅 | — | — |
| 腰越 | 殆全滅 | — | — |
| 藤澤 | 大 | 七、〇〇〇 | 七〇 |

東京近縣震害大要
 成田 同 六〇
 小 同 二〇
 總計 約五五〇、〇〇〇 約一〇〇、〇〇〇

東京市各區燒失戶數人口

| 區名 | 燒失戶數 | 百分比 | 罹災人口 | 百分比 |
|-----|--------|-----|--------|-----|
| 麹町 | 三、三三九 | 五 | 一三、七〇〇 | 四 |
| 神田 | 四、一〇〇 | 九 | 一三、五二二 | 五 |
| 日本橋 | 二六、〇七七 | 一〇〇 | 一五、三三三 | 一〇〇 |
| 京橋 | 四九、二九九 | 九七 | 一五、六六九 | 九七 |
| 芝 | 二、五八六 | 四 | 九、六六一 | 四 |
| 麻布 | 一、五 | — | 六 | — |
| 赤坂 | 二、三九九 | 一 | 一〇、六五五 | 一 |
| 四谷 | 七三 | — | 二、八五 | — |
| 牛込 | — | — | — | — |
| 小石川 | 一、五四 | — | 四、九二七 | — |
| 本郷 | 二、七六六 | — | 三、四九七 | — |

死傷者の數

死傷者の數は全都を通じて夥しい數に上つたが死者傷者とも今に正確なる數は判明しない、警視廳の調査によると

東京府内燒死者 五六、七七四 溺死者 一一、二三三
 壓死者 三、六〇八 負傷者 三一、六七二
 其外行衛不明者 四二、五五四

三殿下薨去

閑院宮第四王女寛子女王殿下(御年十八歲)
 小田原御別邸に御滞在中激震と同時に倒壊、御いたはしくも梁の爲め強打され給ひ、遂に薨去遊ばされた。
 東久邇宮第二王子師正王殿下(御年七歲)
 鶴沼吉村別荘に御滞在中激震の爲倒壊、室息薨去あらせられた。
 山階宮武彦王妃佐紀子女王殿下(御年二十歲御妊娠中)
 鎌倉由比ヶ濱の御別邸に御避暑中激震の爲倒壊、御避難の邊なく薨去遊ばされた。

東京市内燒失、倒壊せる主なる建物

御所 高輪御所、芝離宮、東伏見宮邸
 官署 逓信省、鐵道省、農商務省、内務省、文部省、大藏省、帝室林野局、貯金局、東京稅務監督局、維新史料編纂局、專賣局、專賣局東京支局(淺草)、特許局、大林區署、印刷局、會計検査院、中央職業紹介所、細菌検査所、電氣局、東京工廠、陸軍造營廠、海軍造兵廠、逓信官吏練習所、其他
 神田橋、幸橋、永代橋、厩橋、兩國橋各稅務署、麴町、神田、日本橋、京橋、芝、牛込(半壞)、下谷、淺草、本所、深川各區役所
 警察講習所、麴町、日比谷、錦町、西神田、外神田、久松、堀留、新塙橋、築地、北紺屋、月島、愛宕、上野、象潟、日本堤、南元町、七間町、相生、大平、原庭、向島、西平野、扇橋、洲崎、水上、各警察署

江戶橋、神田、下谷、淺草、本所、深川、京橋、芝各郵便局、中央、丸の内、浪花、銀座、新橋、京橋、濱町、芝、神田、下谷、淺草、本所、墨田各電話局
 大公使館 英國大使館(一部破損)、米國大使館、伊國大使館、佛國大使館、支那公使館、獨逸大使館(破損)、和蘭公使館
 新聞通信社 萬朝社、二六、東京朝日、東京毎日、中央、讀賣、大勢、やまと、毎夕、國民、時事各新聞社、電通、帝通、博報堂、廣告社、弘報堂、萬年社
 政黨本部 政友會本部、革新俱樂部
 學校 帝國大學(圖書館、文、法、生理、醫化學、藥學教室、數學新教室、山上御殿)、明治大學、日本大學、商科大學、專修大學、中央大學、海軍大學、慈惠院大學、國學院大學、日本齒科醫專、東京齒科醫專、女子高師、外國語、士官豫科 高等工業、獨逸協會專門校、曉星中學、佛英和女學、虎の門女學、大倉商業、岩倉鐵道、開成中學、東京商工中學、立教中學、府立第三中學、商船、文化學院、女子職業、攻玉舍中學、正則中學、錦城中學、中央商業、東洋音樂、水産講習所、工藝、工科、工手、職工、其他
 小學校百十七校
 病院 赤十字社(芝)、順天堂、明治、樂山堂、濱田、矢の倉、金杉、杏雲堂、長谷川、中原、聖路加、林、東京顯微鏡、鐵道、慈惠、東京、阿久津、井上眼科、日本橋、瀬川小兒科、東京施療其他
 社寺教會 神田明神、深川八幡、深川不動、平河天神、飯倉八幡、人形町水天宮、芝神明、日比谷大神宮、青松寺、築地本願寺、淺草本願寺、妙見寺、本覺寺、誓願寺、法恩寺、ニョライ會堂、本郷中央教會堂、天理教本部、救世軍本營、銀座教會、其他多數
 俱樂部會館 水交社、交詢社、同氣俱樂部、日本橋俱樂部、美術俱樂部、神田青年會館、中華民國青年會館、朝鮮青年會館、日本女子青年會館、中央佛教會館、明治會館、基督教聯合會館、日本電氣俱樂部、如水館、私立衛生會館、東京會館、其他
 劇場 帝國劇場、新富座、市村座、明治座、有樂座、神田劇場、公園劇場、十二階、國技館、本郷座、中央劇場、其他
 銀行 日本(半燒)、朝鮮、第一、第三、第百、安田、貯藏、三井、村井、十五、三十四、山口、加島、森村、渡邊、中井、西脇、今村、八十四、日本興業、日本勸業、丸ノ内、古河、東海、尾張屋、あかち、晝夜、川崎、神戸岡崎、山中、紅葉屋、豐國、日、

貯蓄、長岡、不動貯金、帝國商業、鴻池、小池、中澤、泰昌、日進、藤本ビル、早川ビル、其他多數
 會社商店 三井物産、三井鑛山、三井合名、鹽水港製糖、大日本製糖、明治製糖、東洋製糖、林本源製糖、新高製糖、大倉組、星製藥、第一相互ビル(一部)、内外ビル、郵船ビル(一部)、東京電燈、東京瓦斯、東京瓦斯電氣、東京電氣、信越電力、群馬電力、京濱電力、京成電氣、帝國電燈、富士瓦斯紡績、日本絹糸、日清紡績、東京紡績、東京麻糸、東京毛織、大日本紡績、帝國製麻、足利紡績、相模紡績、高田商會、長瀬商店、盤城セメント、日本製氷、日本火藥、日本銅管、日本麥酒鑛泉、日清製粉、東京製綱、東洋鐵網、日本人造肥料、富士製紙、淺野物産、淺野セメント、旭硝子、汽車製造、日本製鋼、北海道炭鑛汽船、大日本炭鑛、田中鑛山、藤倉電線、芝浦製作所、沖電氣、石川島造船、東京灣汽船、大阪商船、日米商會、東京精米、東京建物、東洋信託、中央證券、梁瀬商會、高田鑛業、秋田木材、三菱商事、織田信託、國際信託、大倉鑛業、大倉商事、日本土木、藤田組、日本倉庫、松竹キネマ、日活、國活、共益社、日本蓄音器、森永製菓、精養軒、東京株式、東京米穀、三共製藥、山下汽船、王子製紙、澁澤倉庫、渡邊倉庫、東神倉庫、日本倉庫、三菱倉庫、住友倉庫、日清生命、日華生命、日本火災、日の出生命、高砂生命、福徳生命、東洋生命、東京火災、帝國火災、三越、白木屋、松坂屋、松屋、高島屋各呉服店、明治屋、龜屋、資生堂、服部時計店、天賞堂、村松、山崎洋服店、伊東屋、博文館、ニンベン、西川、伴傳、山本、山本山、東京堂、富山房、同文館、三省堂、塚本商店、守谷商會、淺沼商會、濱口儀兵衛商店、長谷川商店、河合網商店、西川庄六商店、金山甚太郎商店、田邊元三郎商店、白石甚兵衛商店、國分商店、小西六本店、杉村商店、伊東胡蝶園、丸見屋商店、近藤利兵衛商店、平尾贊平商店、東京圖案、工場 芝浦製作所、服部時計製作所、日本電氣工場、沖電氣製作所、藤倉電線、古河伸銅所、芝浦瓦斯タング、國文舎、秀英舎、東京印刷、東洋印刷、築地活版製造所、博文館、凸版印刷其他多數

取引所 東京株式、東京米穀商品
 華族邸 西園寺公、島津公、山縣公、鍋島侯、井伊伯、上杉伯、戸田伯、松平伯、藤堂伯、久世子、松平子、岩崎子、三井男、大倉男、武井男其他
 停車場 上野、萬世橋、飯田町、兩國、新橋、濱松町

沙留、秋葉原、神田、御茶の水、水道橋、錦糸町
 車庫 新宿、濱松町、有樂町、龜澤町
 橋梁 既橋、吾妻橋、兩國橋、永代橋、相生橋、神田橋、鏡橋、外百八十二橋燒失、破損七十餘

横濱市燒失地區域

全部燒失町名
 海岸通、北仲通、本、元濱、南仲通、辨天通、太田、桐生、住吉、尾上、常盤、港、眞砂、境、山下、山手、元、石川、石川仲、北方、上野、千代崎、諏訪、萬代、不老、翁、壽、松影、吉濱、柳、吉田、福島、伊勢佐木、妻見、松ヶ枝、若竹、羽衣、浪華、蓬萊、長者、賑、久方、足曳、雲井、若葉、末吉、吉田、駿河、長島、山吹、富士見、山田、千歳、三吉、永樂、眞金、南吉田、清水、霞、英、初音、日之出、野毛、宮川、花咲戸部、月岡、老松、宮崎、伊勢、長住、緑、橋、高島、尾張、大野、棉花、
 一部燒失町名
 本牧、根岸、中村、堀ノ内、瀧頭、磯子、壽田、南太田、西戸部、表高島、久保、櫻木、西平沼、平沼、岡野、青木、鶴屋、淺間、神奈川、子安、森屋、

九月一日より 十四日迄の震動數

| 日 | 時 | 震動回数 | 日 | 時 | 震動回数 |
|---|-------|-------|----|-------|------|
| 一 | 日 夜半迄 | 三三回以上 | 八 | 日 正午迄 | 四三 |
| 二 | 日 正午迄 | 一三四 | 九 | 日 正午迄 | 四二 |
| 三 | 日 正午迄 | 二八九 | 十 | 日 正午迄 | 三三 |
| 四 | 日 正午迄 | 一七三 | 十一 | 日 正午迄 | 二一 |
| 五 | 日 正午迄 | 一四八 | 十二 | 日 正午迄 | 一七 |
| 六 | 日 正午迄 | 七八 | 十三 | 日 正午迄 | 一一 |
| 七 | 日 正午迄 | 四五 | 十四 | 日 正午迄 | 一五 |

震火災損害額

大震火災に對する總損害額は、容易に明確な數字を得られぬであらうが、最近大蔵省に於ては之を百一億圓と計算した。

列國の同情

震火災に就き米國を始め英、佛、獨、伊、白、和、匈、羅、埃、芬、露、支等の各國が、最も迅速の方法を以て多大の同情を寄與せられたことは、我國民の永遠に記憶して謝意を表さねばならぬ所である。

列



met with a similar fate.

露光量違いの為重複撮影

覆 顛 車 列



Overturnd train on the Tokaido line. Twenty-four trains were met with a similar fate.

激震によつて埋没或、顛倒した遺 列車は、客車九、貨車十五通計二十四列車に及び、即死百三十三名、重傷後死亡八名、重傷五十一名を算した。圖は東海道線に於ける遺難列車顛覆の惨状である。

山崎洋行、伊東屋、博文館、三友、西川、傳、山本、山本山、東京堂、富山房、同文館、三省堂、塚本商店、守谷商會、淺沼商會、濱口儀兵衛商店、長谷川商店、河合綱商店、西川庄六商店、金山甚太郎商店、田邊元三郎商店、白石甚兵衛商店、國分商店、小西六本店、杉村商店、伊東胡蝶園、丸見屋商店、近藤利兵衛商店、平尾贊平商店、東京圖案工場、芝浦製作所、服部時計製作所、日本電氣工場、沖電氣製作所、藤倉電線、古河伸銅所、芝浦瓦斯タング、國文舎、秀英舎、東京印刷、東洋印刷、築地活版製造所、博文館、凸版印刷其他多數
取引所 東京株式、東京米穀商品
華族邸 西園寺公、島津公、山縣公、鍋島侯、井伊伯、上杉伯、戸田伯、松平伯、藤堂伯、久世子、松平子、岩崎子、三井男、大倉男、武井男其他
停車場 上野、萬世橋、飯田町、兩國、新橋、濱松町

| | | | | |
|---|-------|-----|---------|----|
| 三 | 日 正午迄 | 二八九 | 十一日 正午迄 | 三三 |
| 四 | 日 正午迄 | 一七三 | 十一日 正午迄 | 二一 |
| 五 | 日 正午迄 | 一四八 | 十二日 正午迄 | 一七 |
| 六 | 日 正午迄 | 七八 | 十三日 正午迄 | 一二 |
| 七 | 日 正午迄 | 四五 | 十四日 正午迄 | 一五 |

震火災損害額

大震火災に對する總損害額は、容易に明確な數字を得られぬであらうが、最近大蔵省に於ては之を百一億圓と計算した。

列國の同情

震火災に就き米國を始め英、佛、獨、伊、白、和、匈、羅、澳、芬、露、支等の各國が、最も迅速の方法を以て多大の同情を寄與せられたことは、我國民の永遠に記憶して謝意を表さねばならぬ所である。

露光量違いの為重複撮影

總 覽 報 刊



山崎洋服店、伊東屋、博文館、三浦屋、西川、作傳、山本、山本山、東京堂、富山房、同文館、三省堂、塚本商店、守谷商會、淺沼商會、濱口儀兵衛商店、長谷川商店、河合綱商店、西川庄六商店、金山甚太郎商店、田邊元三郎商店、白石甚兵衛商店、國分商店、小西六本店、杉村商店、伊東胡蝶園、丸見屋商店、近藤利兵衛商店、平尾貫平商店、東京圖案、工場、芝浦製作所、服部時計製作所、日本電氣工場、沖電氣製作所、藤倉電線、古河伸銅所、芝浦瓦斯、シタ、國文舎、秀英舎、東京印刷、東洋印刷、築地活版製造所、博文館、凸版印刷其他多數
取引所 東京株式、東京米穀商品
華族邸 西園寺公、島津公、山縣公、鍋島侯、井伊伯、上杉伯、戸田伯、松平伯、藤堂伯、久世子、松平子、岩崎子、三井男、大倉男、武井男其他
停車場 上野、萬世橋、飯田町、兩國、新橋、濱松町

震火災損害額

大震火災に對する總損害額は、容易に明確な數字を得られぬであらうが、最近大蔵省に於ては之を百一億圓と計算した。

| 日 | 時間 | 損害額 |
|---|-------|-----|
| 一 | 日 正午迄 | 八九十 |
| 二 | 日 正午迄 | 一七三 |
| 三 | 日 正午迄 | 一七八 |
| 四 | 日 正午迄 | 一四八 |
| 五 | 日 正午迄 | 一四八 |
| 六 | 日 正午迄 | 七八 |
| 七 | 日 正午迄 | 四十五 |
| 八 | 日 正午迄 | 一五 |

列國の同情

震火災に就き米國を始め英、佛、獨、伊、白、和、匈、羅、澳、芬、露、支等の各國が、最も迅速の方法を以て多大の同情を寄與せられたことは、我國民の永遠に記憶して謝意を表さねばならぬ所である。

露光量違いの為重複撮影

鎌倉八幡宮唐門の壊倒



虫災として湘南唯一の名地たる鎌倉は、地震、水災、海嘯と相次ぐ被害の爲めに全滅の厄に瀕し、七百年前に於ける頼朝の跡は復た儼ぶべきよすがもない。鎌倉八幡宮の如きは牛墳の本殿を除くの外各部の社殿が倒潰大破した。圖は其唐門である。

Collapse of Karamon gate at Kamakura Hachimangu Shrine.

露光量違いの為重複撮影

破損の門唐宮幡人倉蔵

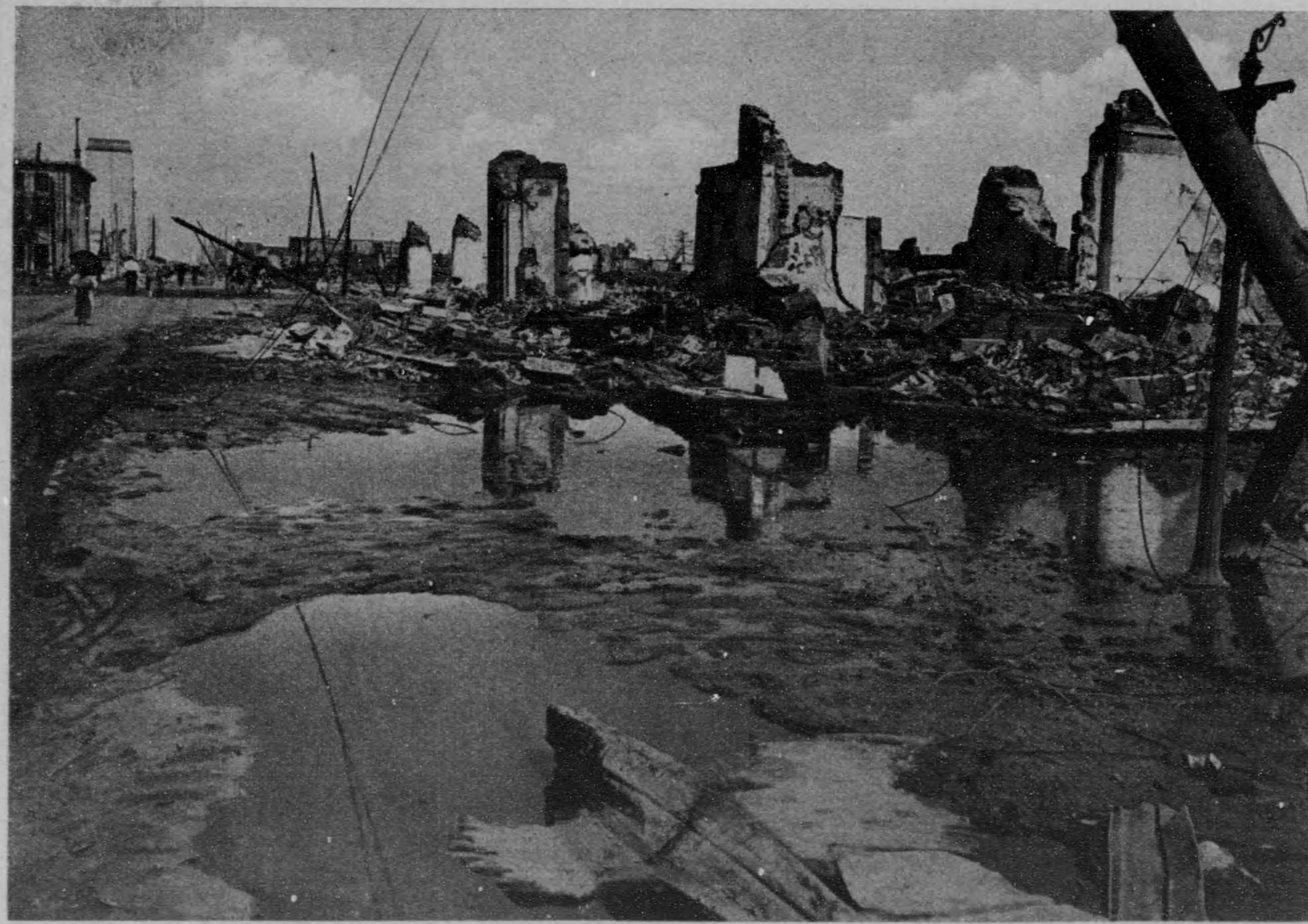


明治三十二年四月二十一日撮影

露光量違いの為重複撮影

地留居濱横の後災

震災當時、横濱在留外人の多くは各地に避暑中であつた爲め、死傷者は僅々百餘名に過ぎなかつたが、居留地の被害は激甚な極め地震と火災に亞くに海嘯を以てし、瀟洒壯麗の街觀今は既に跡方もない。英國領事、同商務官、佛國總領事、フェリス女學校長等が主なる犠牲者である。



Concession at Yokohama after the disaster of fires and tidal waves caused by the terrible earthquake.

露光量違いの為重複撮影

地留居濱横の後災



災當時、横濱居留外人の多きは各地に聞かす中であつた爲め、死傷者も亦々日増しに多くなつた。居留地の被害は概其を概め
地震と大津に並んで海嘯を以てし、東西壯麗の街並今は既に跡方ない。英國領事、同商務官、他國總領事、マエリス女學校長等
が主なる犠牲者である。

Concession at Yokohama after the disaster of fires and tidal waves caused by the terrible earthquake.

露光量違いの為重複撮影

階二十るたれ折と街行興草淺

激震と同時に東京名物の十二階凌雲閣は九階より倒落した。爲に開演中であつた附屬十二階劇場の發輪併發は全部即死し、其の多數の死傷者を生じ、瞬時にして火災を起した。かくて帝都唯一の觀衆境たる淺草六區の興行界はたちまちに猛火の重圍に陥り阿鼻叫喚の焦熱地獄と變じたのである。



Damages at Asakusa, the remains of theatres and the 12 storied tower which was broken down from nine stairs.

露光量違いの為重複撮影

階二十のたれ折と街行興草長



此の如く、同一の風景を異なる露光量で撮影し、比較対照する事は、写真の表現力を増進するに役立つ。此の如く、同一の風景を異なる露光量で撮影し、比較対照する事は、写真の表現力を増進するに役立つ。

Photo. of A Street in a ruined city, showing the effect of different exposures.

見りよ所高の橋京



震後直ちに京橋區山城町に起つた火は西南の強風に煽られつ、日吉町方面へ向つた。更に宗十郎町の花街に擧がつた火の手は新橋
際を経て北方南鍋町へ進んだ。日本橋區は本石町、室町の二個所から大震中に火災が起り、下谷、淺草、を燃盡した猛火が之に加
はり、火龍の如き勢を以て南下京橋に向つた。深川區は安宅、東大工、西平井、猿江、西森等の各町より殆ど同時に火を發し、
隣區本所より延焼した火が之を補けて、たちまち全区を燄の裡に包んだ。火は相離れ相合し、夜を徹して猛威を振ひ、日本橋區は

White roofs barracks are speedily built.

日 本 橋 深 川 方 面 の 惨 状



Disastrous scene at Kyobashi, Nihonbashi, and Fukagawa Wards seen

橋 京 高 所 見 たり 橋 京 橋



from up near Kyobashi Bridge. White roofs barracks are speedily built.

川 方 面 の 惨 状



寸土も餘さず燒盡し京橋、淺草の兩區を殆ど全滅せしめて終熄した。遷信、農商務の兩省、精養軒、海軍造兵廠、水交社、海軍大學、築地本願寺、歌舞伎、新富、明治の三劇場、三越、白木、高島屋の三呉服店、丸善書店、日本、三井、村井、森村等の諸銀行、織練廠、商船學校、深川八幡及び不動尊、相生、永代の二橋、洲崎遊廓等はかくして何れも炬火に附された。圖中白く見ゆるはバラツクである。

Disastrous scene at Kyobashi, Niho

觀盛の前災都帝

大地震から餘震の數

今回の大地震から餘震の數に就き中央氣象臺地震室の中村博士は左の如く發表して

「九月一日以來の地震は千三百七十回以上で一日は午前十一時五十八分の初震から二百二十二回最大振幅四寸、二日には三百五十六回、三日には二百八十九回、四日には百七十三回とひつきり無しに搖れたが、十月に入つてからは二日の十回、十五日の七回が一番多く、十一、十二、十九の三日は皆無であつた。斯様に日増しに餘震は減退しつゝあるのである、振幅の如きも、九月二日午前十一時二十四分のは三十五耗（一寸一分五厘五毛）であつたが、廿三日朝のは僅に〇、八耗（二厘六毛四）に過ぎず、四十四分の一に減退してゐる、此の調子で行くものとして今後の餘震を豫想すると此後百六十七日目（十三年二月十日頃）には二日に一回二百四十九日目（十三年五月六日頃）には三日に一回、五百七十四日目（十四年三月廿七日頃）には七日に一回の割合になる、同時に振幅も減少して行くのだから、日が経つに従つて益々安全になる譯である。」

大島異状なし

今回の震源地で一時全島陥没したと稱せられた伊豆大島の模様は第十四驅逐隊司令官の報告に依るに被害さまで甚だしくないが、最初の強震は島民全體が三原山の爆發の前兆と思ひ、之れでは迎も脱出できないと多大の恐怖に襲はれたが噴火が無いので平靜に歸した、大島周圍の海岸線は野増村海岸は二丁餘と園田村海岸崩壊して家屋が崩潰した外格別の異状なく、利島、新島も大島から見た處では異様の現象を認めない。

南伊豆は平穩

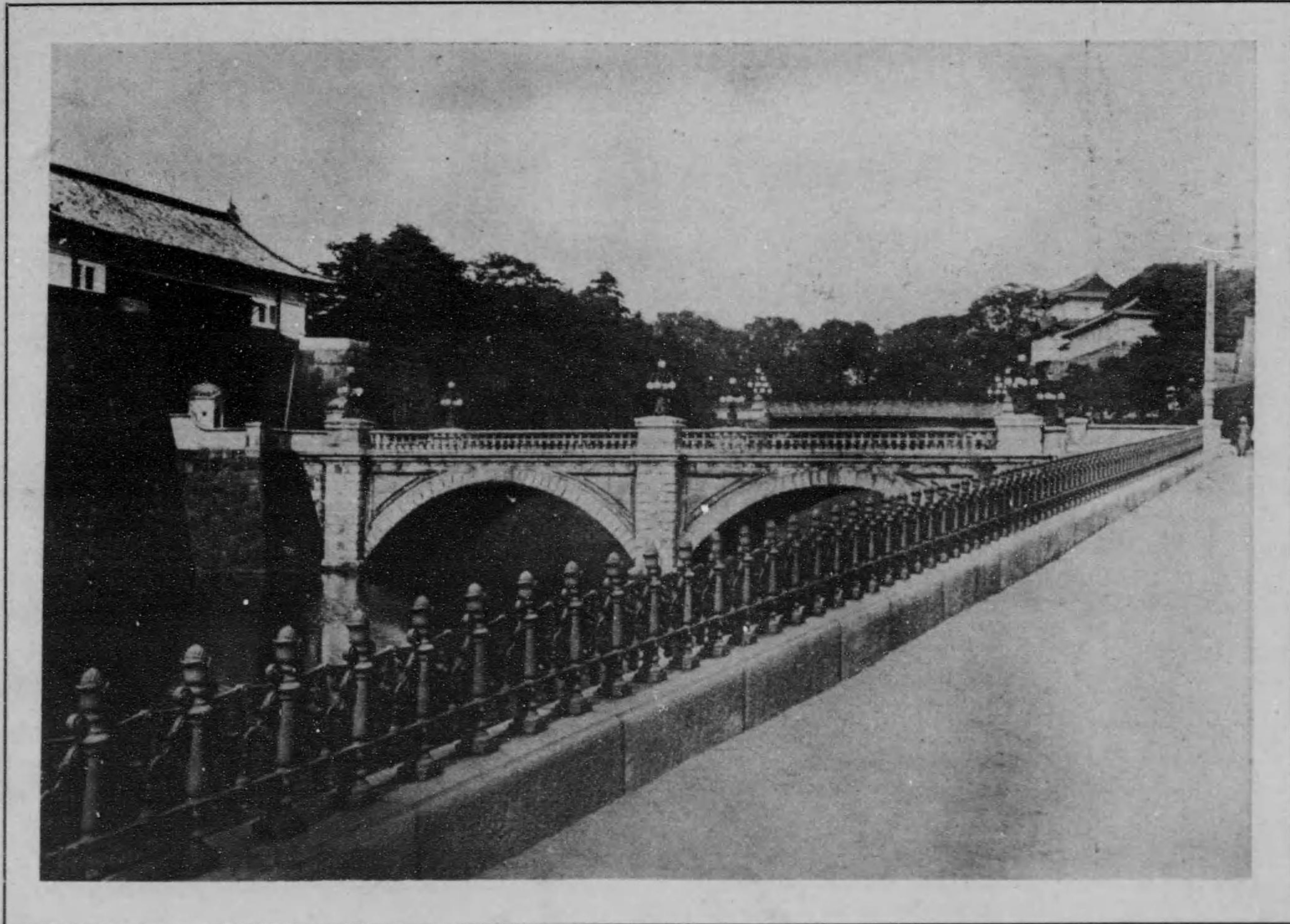
被害甚大と想像されて居た南伊豆地方は案外に平穩で、稻取では家根瓦落下した外に被害なく、津浪に就いても警戒した爲め流失家屋二十一戸あつたのみ人畜に死傷なく、食料品は清水港に供給を仰いで居り、下田は家屋の全潰一半潰三に過ぎず死傷者は無いが津浪のため般船の破壊百二十に上つた、長津呂や湊は皆安全である。



宮城二重橋

(1)

宮城は昔江戸城と稱し代々將軍の居城であつたが、明治維新、幕府は政權と共に朝廷に返上し、爾來皇居は是に奠められたのである。城壁悉く這次大震大火に在つて崇高に儼存し、大内山の翠微依然として尊い。圖は其正門二重橋である。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 1.

Nijubashi (bridges), the entrance of the Imperial Palace.

經つに從つて益す安全になる請である。』

驛 京 東

(2)



東京驛は皇居馬場先及び和野合門外の中間にある間口南北二丁餘に互々大停車場、貴賓乗降口、乗車口、降車口及び電車乗降口等夫々に分れてゐる。設備に於ては東洋一と稱され、二百八十七萬圓の工費と七年の歳月を要して竣成した。其壯觀に就て大東京の驛たるに耻ぢない。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 2.

Tokyo Station.



東 京 驛 前

(3)

街路の壯麗都に冠たるは大東京驛前である。その廣場は和田倉門前の電車通に達する大路の外、鍛冶橋、永樂町方面への三路に岐れ、丸の内ビルディング、郵船ビルディング、海上ビルディング等の大層が此處に集中して雄觀を極めて居る。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 3.

Marunouchi Building, in front of Tokyo Station.



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 4.



馬場先より見たる災前の帝國劇場と警視廳である。白亜の帝國劇場と、煉瓦造の警視廳の二大廈が、日比谷公園外の一角、宮城の
 漆に面して並び立つて居た光景は正に帝都の一美觀たるを失はなかつた。世人競れて之を地獄極樂と稱した。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No: 4.

Imperial Theatre and Metropolitan Police Office at Marunouchi.



place.

(5)

り 通 町 洲 重 八

馬場先門より鍛冶橋に至る純西洋風の道路で、兩側は大廈高樓無比し、大路坦々として大東京の盛衰を示して居る。東京商業會議所、東京府廳及び東京市役所、明治保險、三菱銀行等は何れも此地域にある。この街路は幸にして震災の侵す處とならなかつた。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 5.

Yaesucho-dori, foreign-style building street before the Palace.

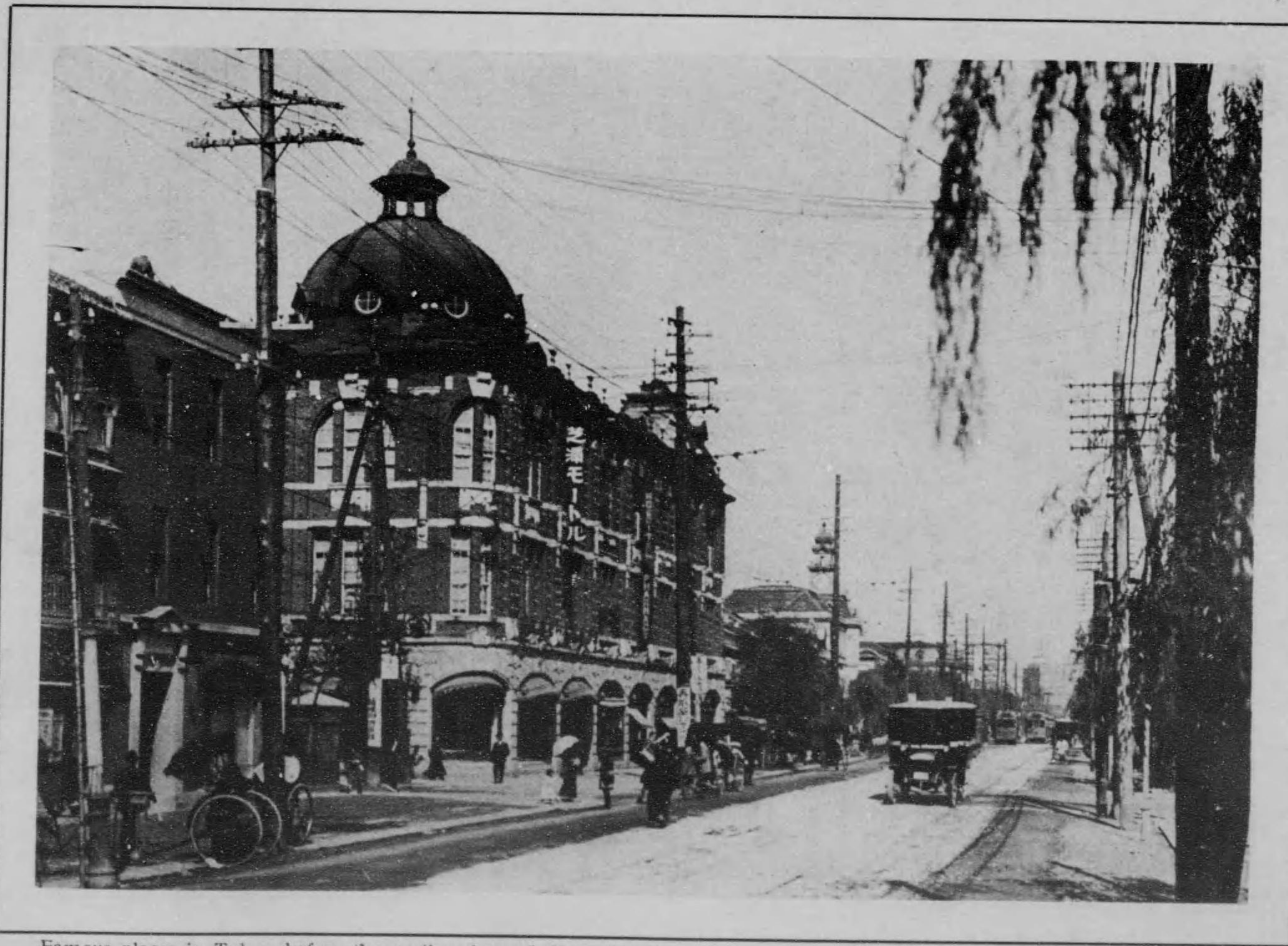


Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 6.

Imperial Palace

銀座通

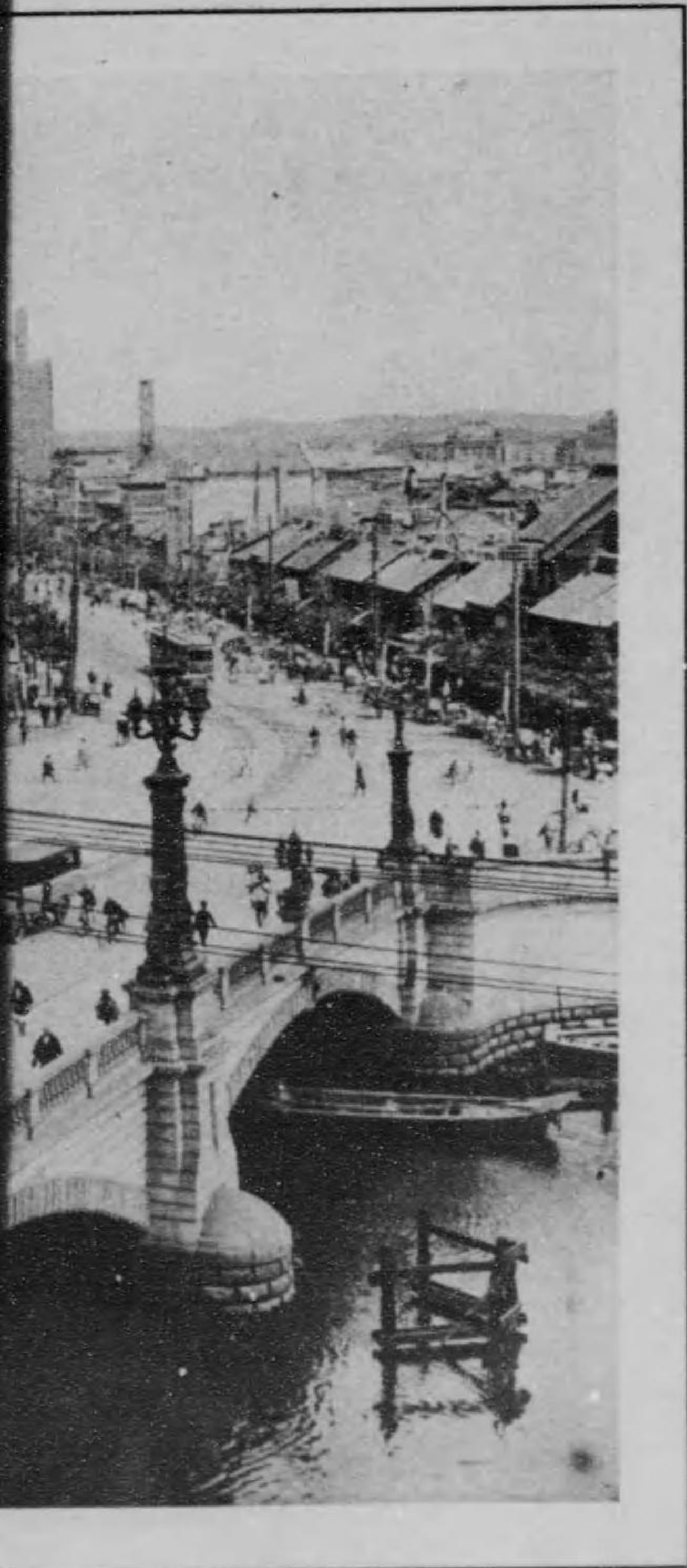
(6)



京橋以南、新橋に至るまでの間が所謂銀座通りであり、京橋一丁の商店街である。明治七年火災の後、政府は市街經營の計畫を樹て、左の敷町と併せて煉瓦家に改造せしめたので街容一變し、爾來近時の繁盛を來したのであると言ふ。園は竹川町附近である。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 6.

Ginza-dori, a busiest street in Tokyo.



橋 本 日

(7)

日本橋は慶長八年初めて架せられ、徳川幕府以来、全国への里目元標と定められて居る。現在の橋梁は明治四十三年の新設で、工費五十萬圓を要し、橋材は全部花崗岩を用ひ、其の美観は他に比すべきものがなかつた。此橋より江戸橋までの北側が日本橋魚市場である。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 7.

Nihonbashi Bridge.



Famous places in Tokyo

園 公 谷 比 日

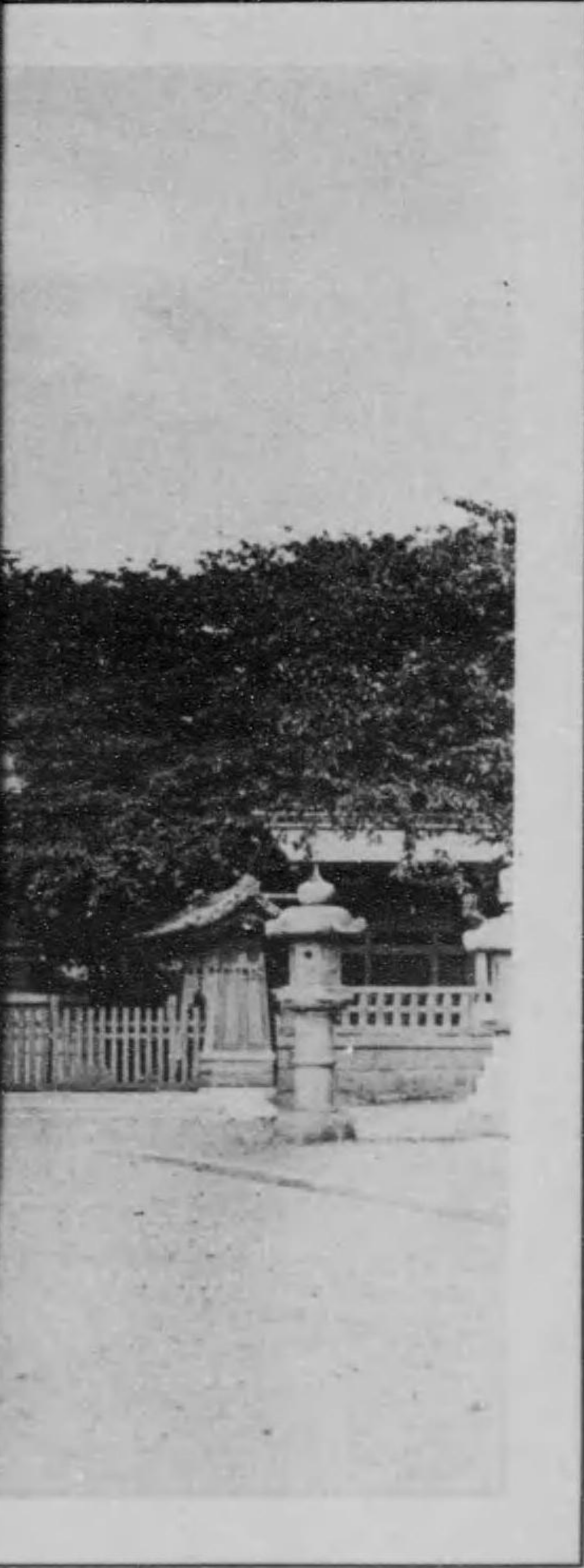
(8)



日比谷公園は舊幕府時代には外櫻田と稱し、諸藩の邸宅がもつた處である。其後、兵營及び練兵場等の變遷を経て、明治三十六年に公園と成つた。面積五萬五千坪、運動場、音樂堂、花壇等設備完全にして四時遊歩の人は絶ゆることがない。園は其處形池である。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 8.

Hibiya Park.



(9)

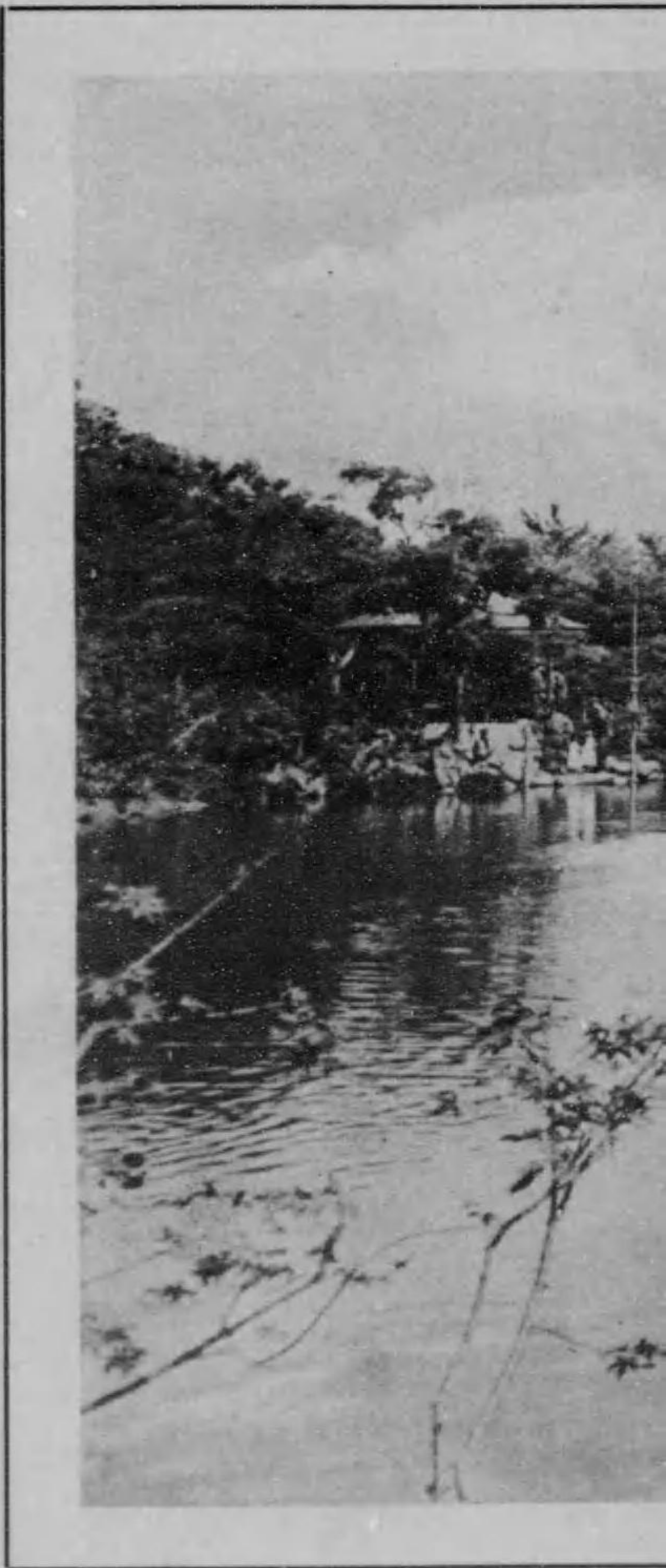
靖 國 神 社

嘉永以降國難に殉じた人々を合祀した處で明治二年の創建である。初め招魂社と稱したが、明治十二年別官幣社に列し、靖國神社と改められた。春秋二回の大祭には物使が参向して莊嚴の式が行はれる。境内頗る廣く、大村益次郎の銅像、遊就館等がある。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 9.

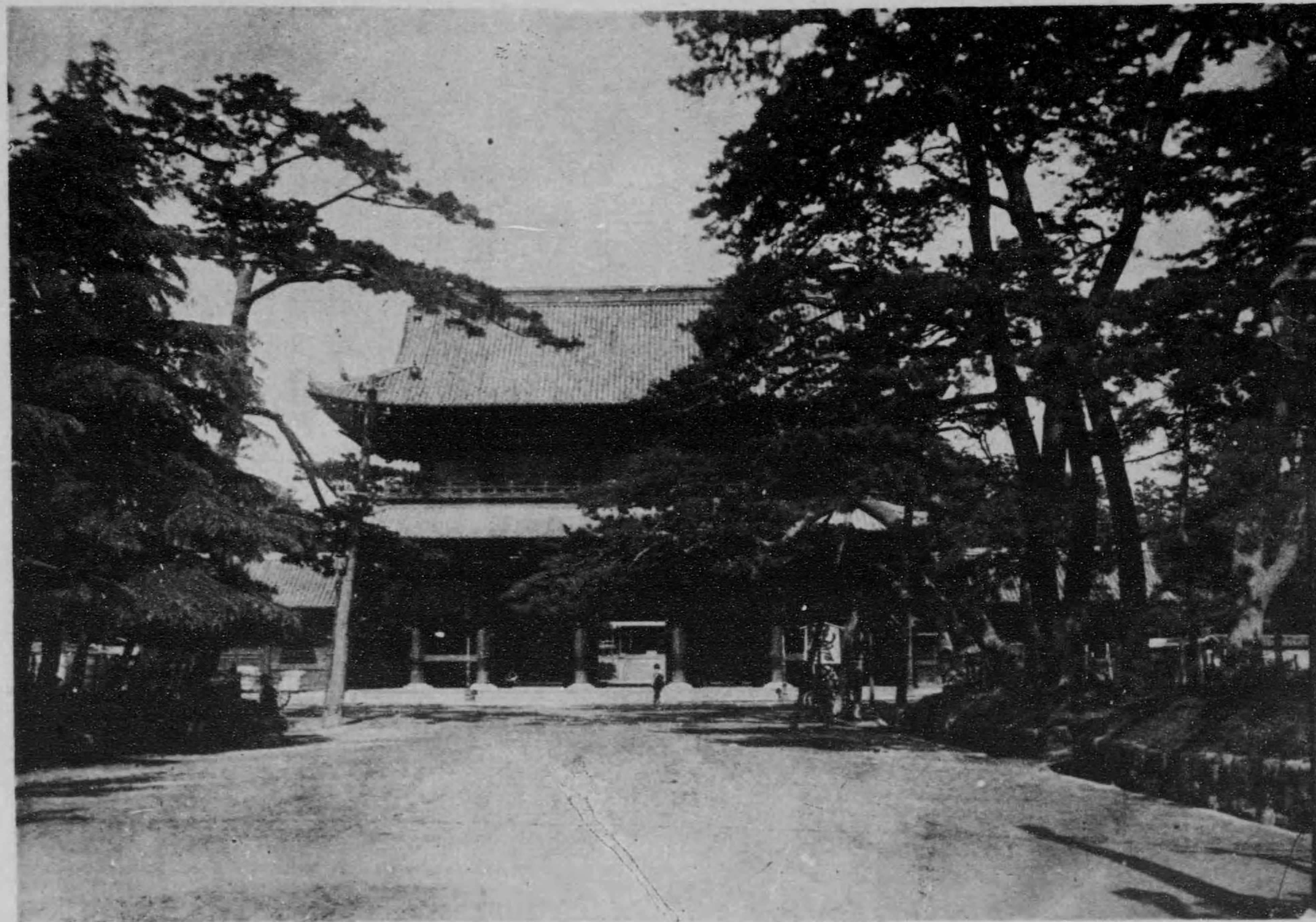
Yasukuni Shrine, Kudan.



Famous places in Tokyo before the



Shiba.



關東淨土宗の總本山増上寺の三門で、扁額には三緣山廣皮院とある。同寺は徳川家の菩提所として聞え、明治四十二年再度の災により此三門のみを残して悉く烏有に歸したが、其後舊態の儘に再建された。震火の厄は幸に免れ、猶芝公園に其盛觀を存して居る。

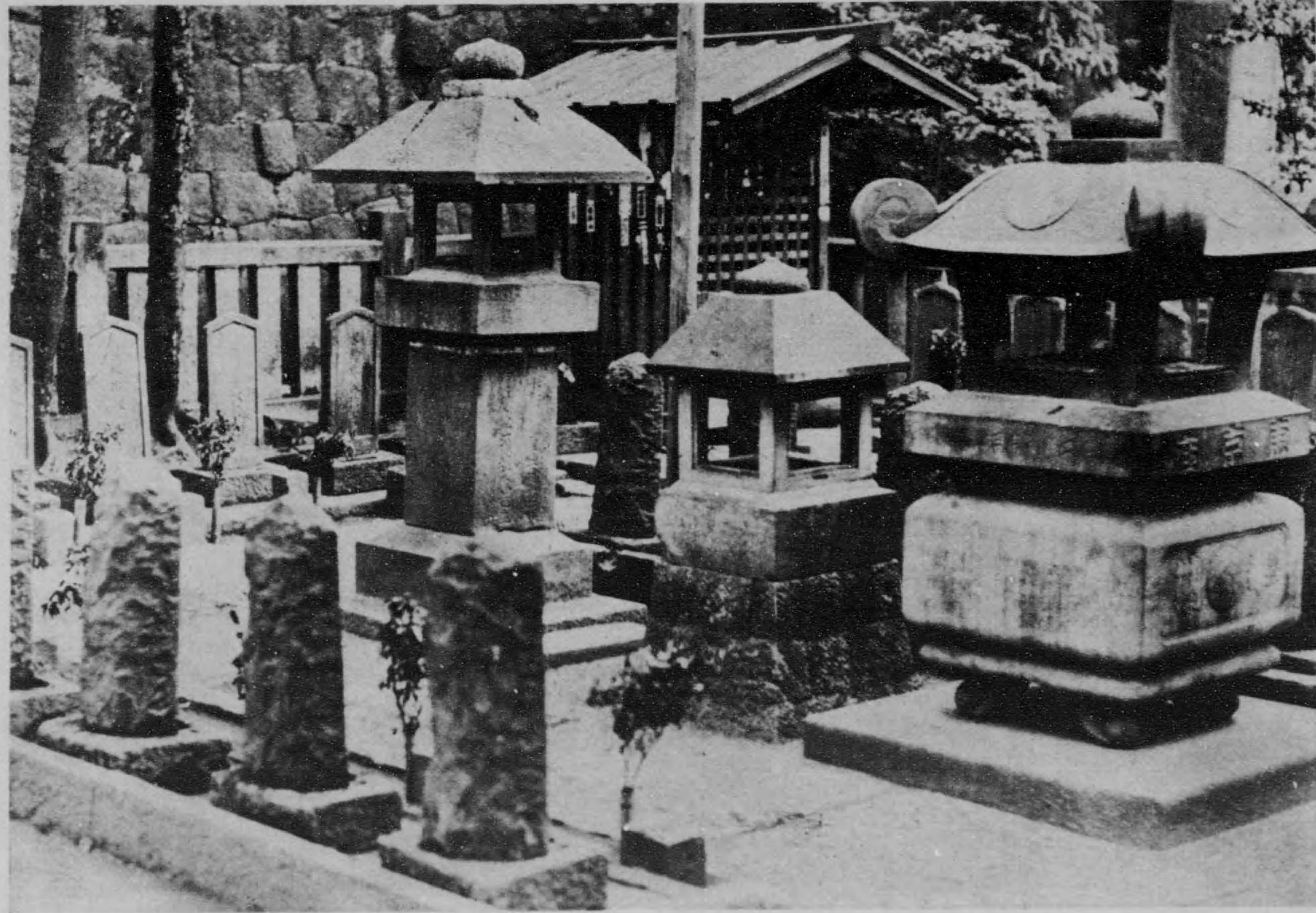
Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 10.

The gate of Zojoji Temple, Shiba.

(11)

墓の士義寺岳泉

芝罘の萬松山泉岳寺は、元禄快挙の大石良雄以下四十七士の墓があるので、通人知られて居る。同寺は曹洞宗に属し、寛永十八年、外櫻田より此處に移つたものであると言ふ。義士の墓域は樓門の南にあつて、香煙常に絶ゆることがない。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 11.

Tombs of the 47 Samurai at Sengakuji Temple, Shiba.



Famous places in Tokyo before

櫻の園公野上

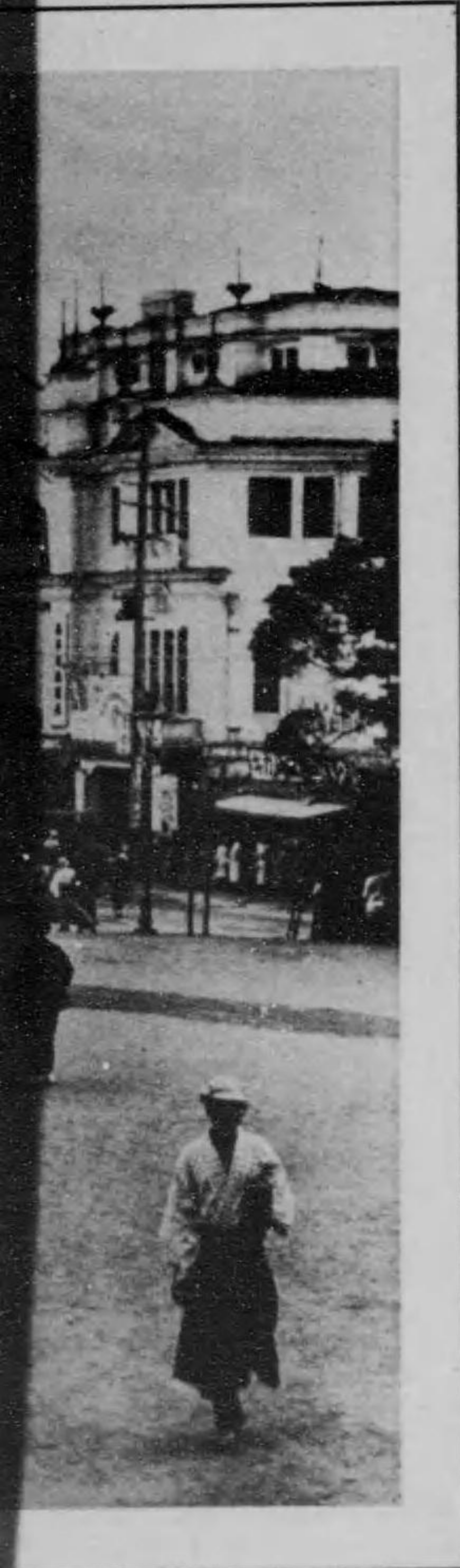
(12)



上野公園は忍ヶ岡とも稱し、櫻花を以て古來著名の勝地である。入口の正面の坦々たる大路を黒門と言ひ、その街當りが竹の臺と呼ばれて、毎秋各美術展覽會が此處で開かれてゐた。櫻樹は此處に最も多く、花時燎爛の美観は山内第一の名勝にして居る。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 12.

Ueno Park in cherry blossoms.



(13)

上野廣小路

上野廣小路は南に東北本線の起點上野驛を控へ、北は神田に至り、東は淺草に通じ、西は本郷に接する四通の要街に當り、商舖櫛比し般盛を誇つた街衢である。市内より上野へ赴く人は多く此道によるので、春花秋葉の節には殊に雜沓を極めた。

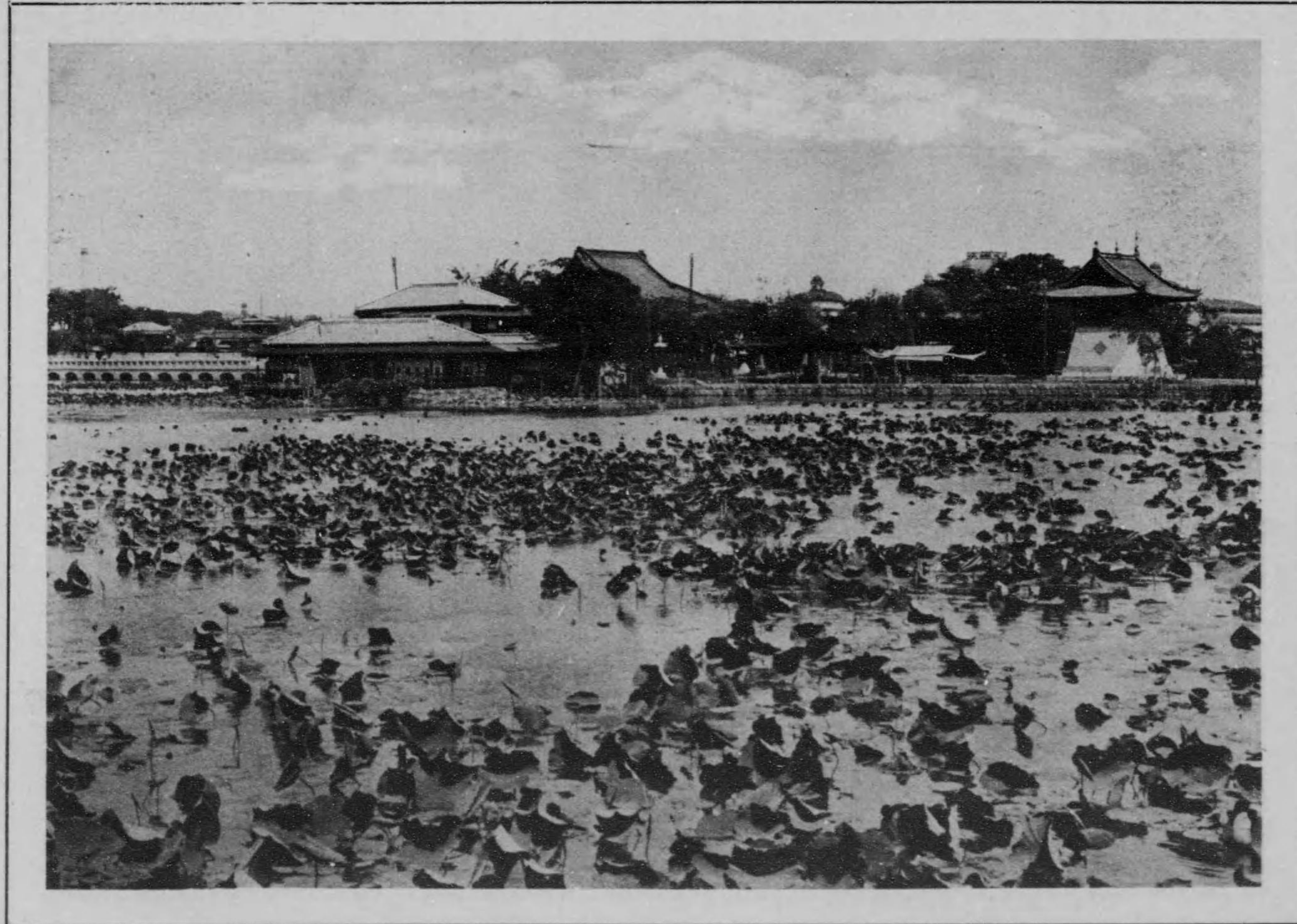


Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 13.

Ueno-hirokoji, a larg avenue before Ueno Park.



Famous places in Tokyo before



不
忍
池
は
上
野
公
園
の
西
南
に
位
し
た
一
大
地
で、
観
月
橋、
辨
天
祠
等
が
あ
り、
蓮
花
の
名
所
と
し
て
も
古
來
名
高
い、
池
畔
は
俗
に
池
の
端
と
稱
し、
忍
ヶ
岡、
本
郷
湯
島
の
臺
地
を
三
方
に
繞
ら
し
て、
四
時
の
風
趣
何
れ
も
掬
す
べ
き
景
晴
の
地
で
あ
る。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 14.

Shinobazu Pond in Ueno Park.



(15)

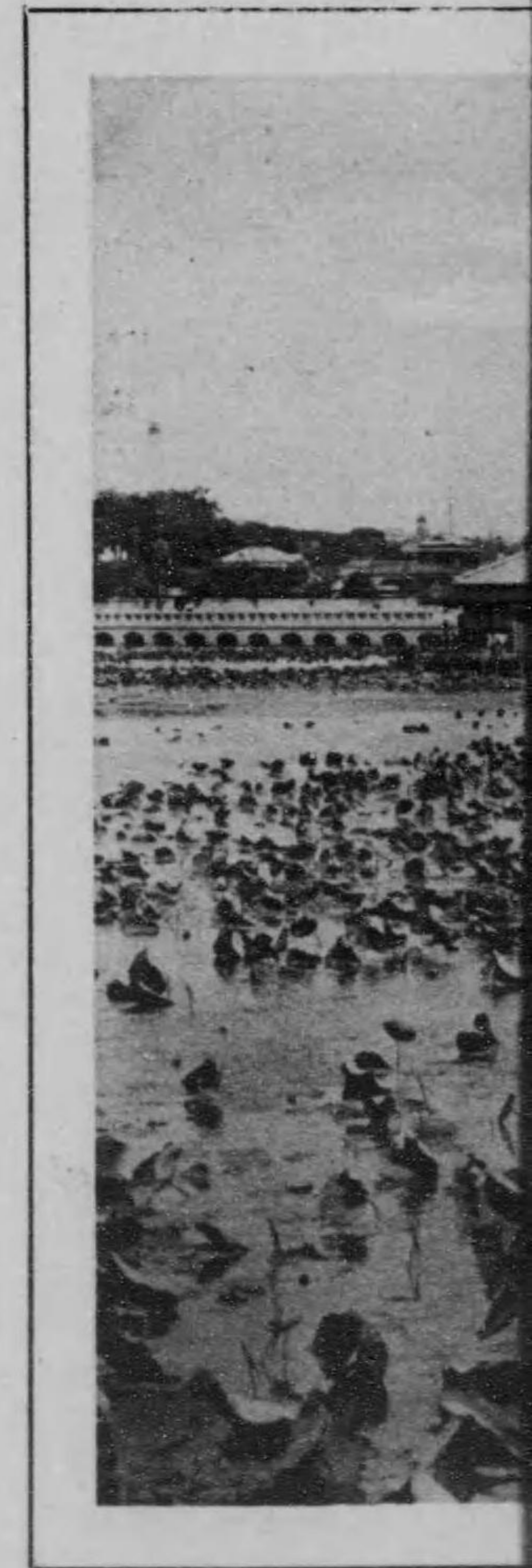
世見仲草淺

淺草雷門址より仁王門に至るまでの間か即ち仲見世で、淺草公園七區の中の第二區である。兩側は商店並比して、雑沓頗る甚しく、左右の妻側には大小の旗亭が軒を垂へて、更に來往の混雜を助成して居た。仁王門を入った處から音堂である。

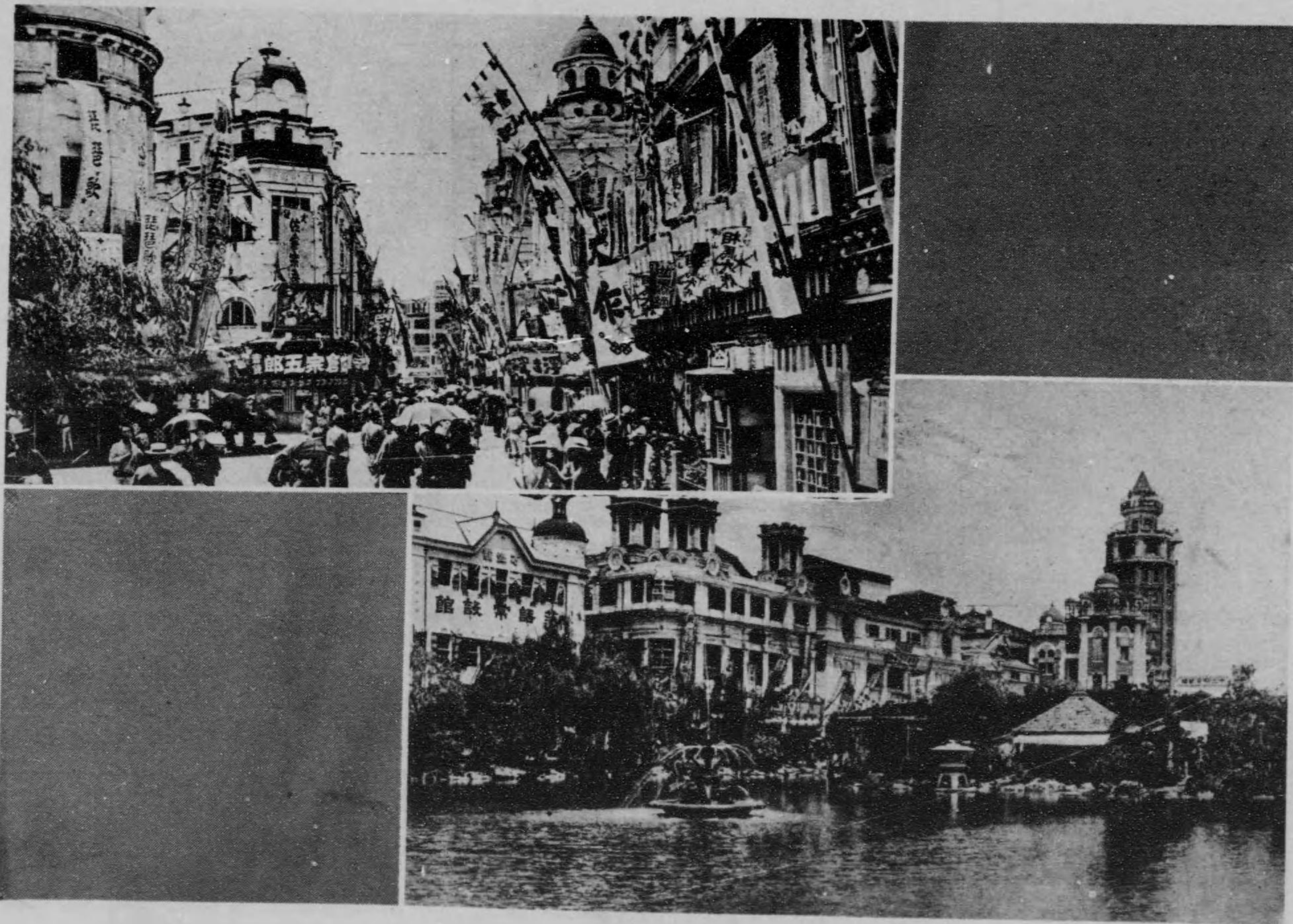


Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 15.

Nakamise at Asakusa.



Famous places in Tokyo b



淺草公園 雑沓は、飄燈池を中心とした第六區が其最たるものであつた。池の三方を繞る一帯は活動寫眞其他各種の觀覽物に満たされ、東京第一の歡樂場が出現して居た。上岡は其興行街、下岡は飄燈池で、池畔に天を摩して立てる十二階である。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 16,

Asakusa Park.

(17)

堂音觀草淺

關東最古の佛堂の一である。今の伽藍は慶長三年の造営で、南面して十八間、内陣の正面須彌壇上に寶篋が安置され居る。参詣の人は四季晝夜を分つことがない。本尊の觀世音は推古天皇の御宇、宮戸川の漁夫が網を下して水中に得たものだと傳へられて居る。



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 17,

Kannon Temple at Asakusa Park.



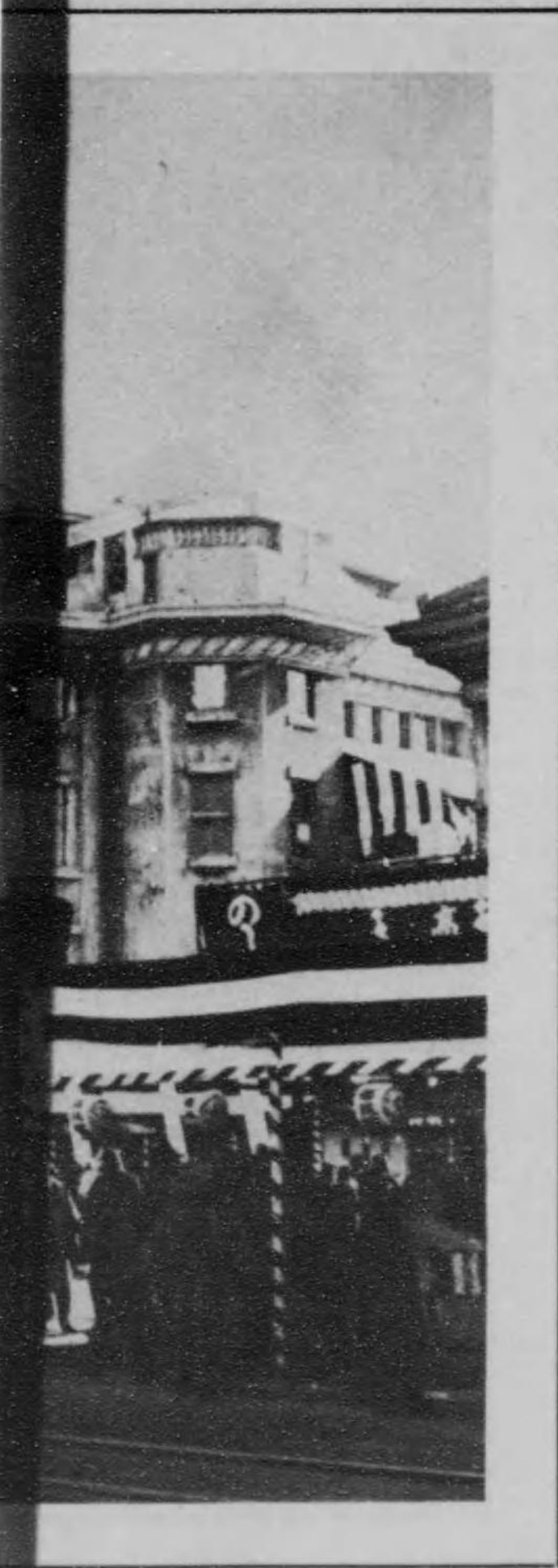
Famous places in Tokyo before the earthquake and fire.



東洋第一の稱ある白亜の高樓三越呉服店(上)は、日本橋駿河町に天を摩して立ち、梁川星巖が日本橋頭第一花と賦した白木屋呉服店(中)は日本橋通一丁目に、又、松阪屋呉服店(下)は上野廣小路に其精華を誇り、何れも婦人渴仰の的となつて居た大百貨店である。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 18.

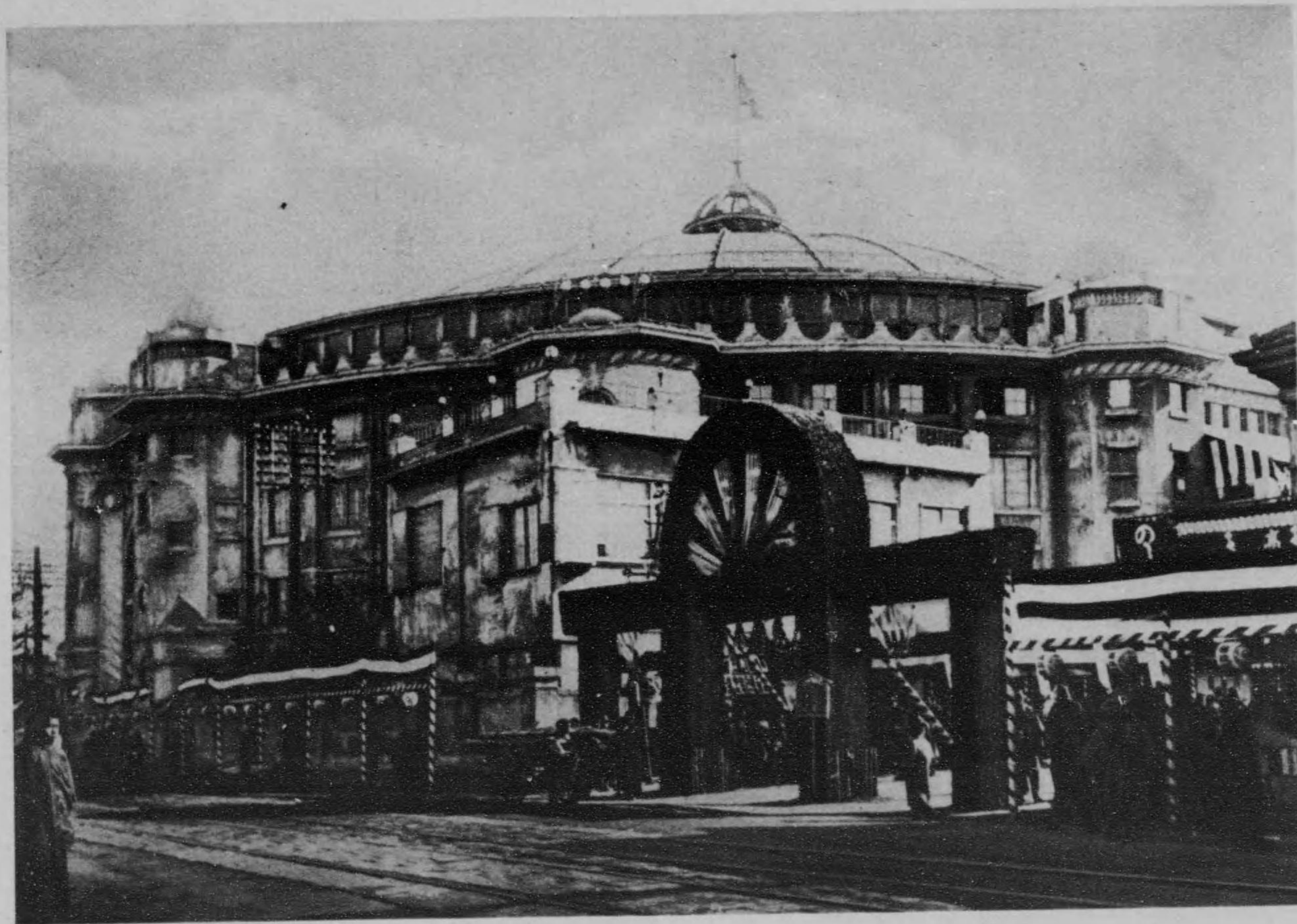
Three department stores. *Upper:* Mitsukoshi. *Right:* Shirokiya. *Left:* Matsusakaya.



館 技 國

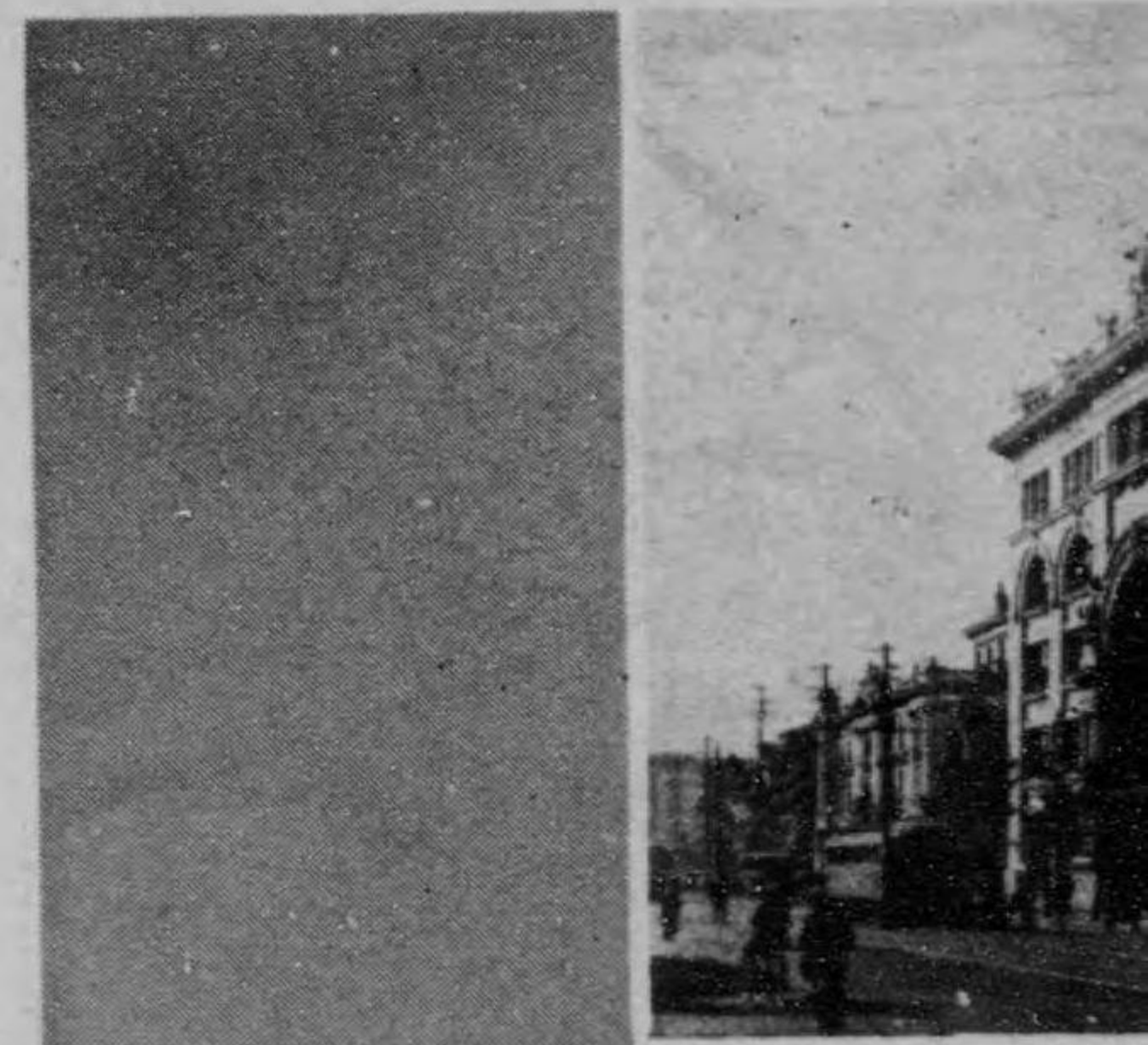
(19)

一度火災に罹り再築したものである。鐵骨圓形、四周を觀覽席とし、一萬六千人を容るゝに足ると言ふ大建築で、兩國橋畔に其雄偉を誇つて居る。相撲は古來の習慣によつて晴天十日の露天興行であつたが、國技館の設置により晴雨に拘らず興行されることゝ成つた。



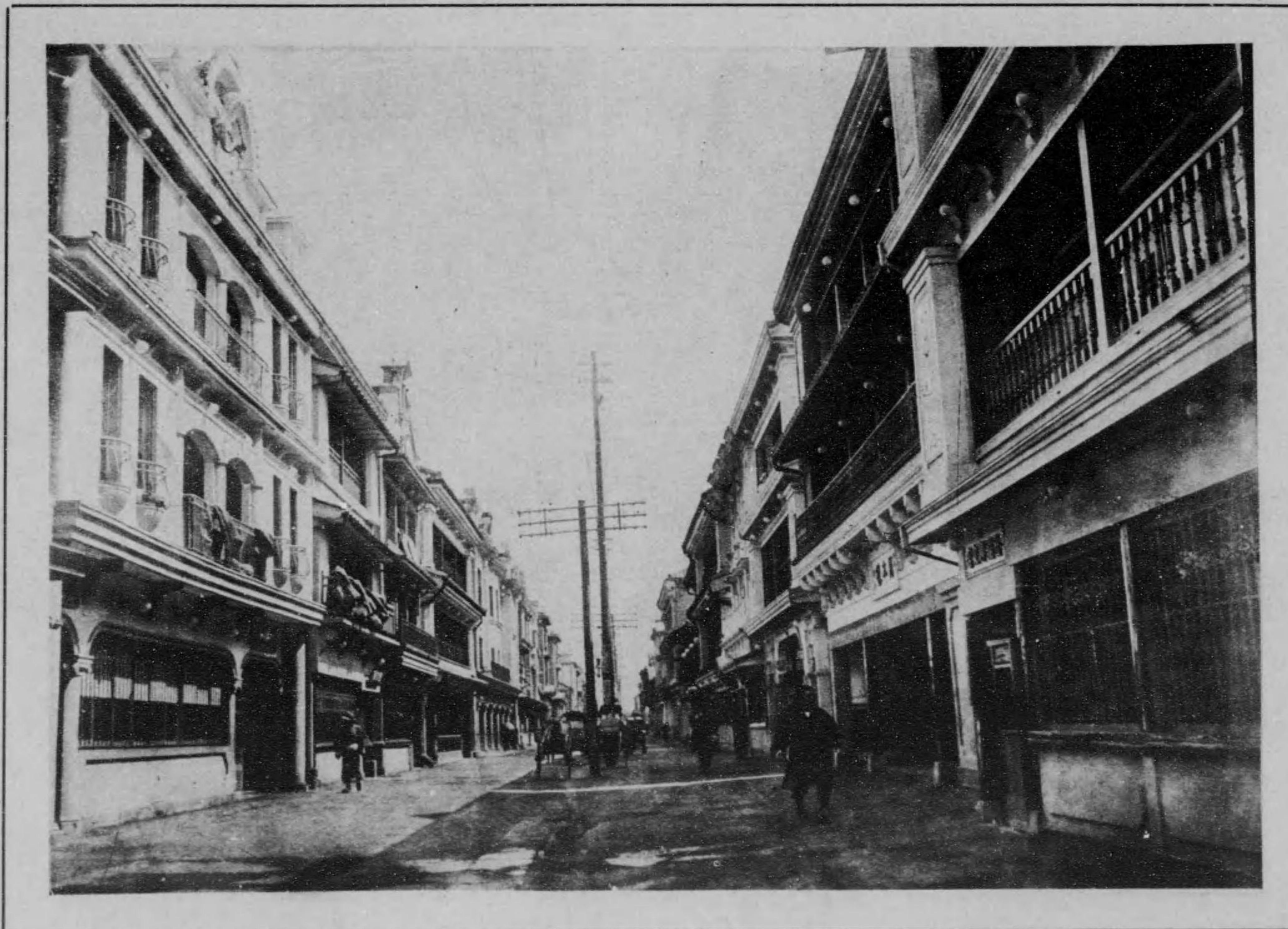
Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 19.

Kokugikan, the National Grand at Ryogoku Amphitheatre.



Famous places in Tokyo before the earthquake and fire.

Three department



帝都第一の遊廓である。初め日本橋の東方葎原(今の葎町附近)にあったのを明暦二年、此處に移したものであると言ふ。廓内を江戸町一、二丁目、揚屋町、角町、京町一、二丁目の六坊に分ち、妓樓娼館軒を連ねて居た。

Famous places in Tokyo before the earthquake and fire. No. 20.

Yoshiware, the largest prostitute quarter in Tokyo.

近附其及京東



Famous places in Tokyo

警官の機轉で

助つた新大橋

新大橋々上に火の子を浴びて一夜をあかした遭難者語る「日本橋人形町方面の猛火に退はれて新大橋まで逃げ延びて来ると、川向ひも一面の火で進退谷まつて了つた、橋の袂に頑張つた十七八名の警官が抜劍して命の惜い者は荷を捨て橋へ入れ、と怒鳴つてゐた、既に有つた荷も大川へ放り込んで其處へ人を入れた、続いて本所深川方面からの避難者も陸續と橋上に集つたので橋の上は立錐の餘地もなく人をもつて埋られた、その一夜の不安と恐怖といふものは全く言語に絶してゐたが、幸ひ一萬近くの人間の命が助けられた、これといふのも警官が一切の荷物を奪ひ取つて、川に投げ入れた機轉のお蔭である」と急に處した警官の態度を賞揚し感涙に咽んでゐた。

倒潰した燈臺

東京灣の海堡は第一は無事第二は北岸が崩潰、家屋も崩潰し第三は全然破壊し燈竿は傾斜し家屋亦粉砕された、燈臺では觀音崎は北東に向つて傾斜し脚下の土は海中に墜落し旗竿倒れ、城ヶ島は倒れて形なく、劍ヶ崎の燈臺龜裂を生じ家屋の一部破壊し、洲の崎は異状はないが點火出来ない。

傳書鳩の殊勳

凶變當代のことであつた總ての交通機關は杜絶して、帝都の消息は更に分らぬので千葉方面では其の消息を得るのに非常に苦しんだ、然るに四街道から教育總監部に派遣されて居た野戰砲兵學校連絡將校は直に通信文書を認めて傳書鳩を放つた、鳩は猛火を冒して直に四街道に着いたので初めて帝都の大慘狀を知り直に應急の策を取つた。

大正大震災焼失詳細圖

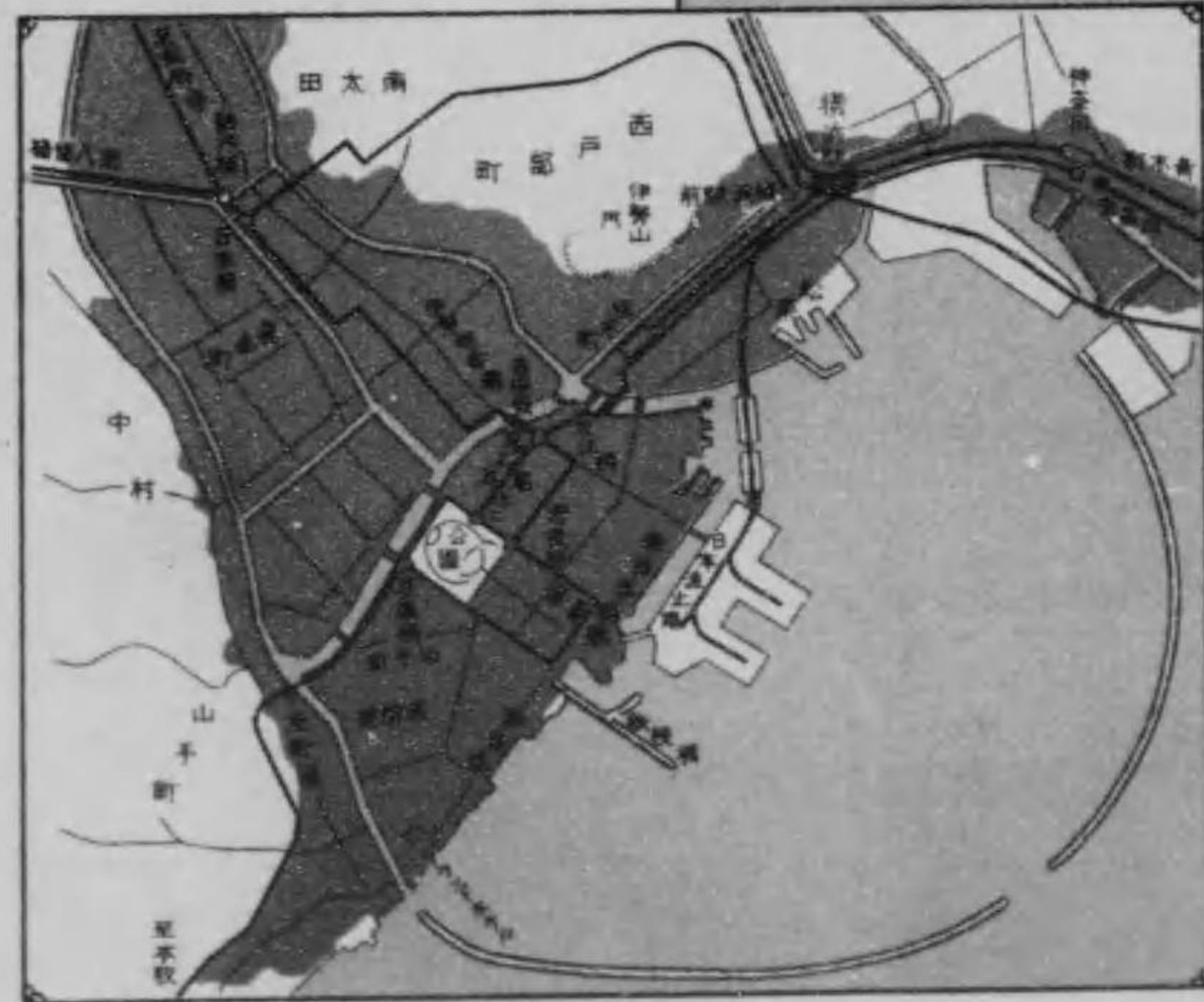


露光量違いの為重複撮影

大正大震災焼失詳細圖



▽上圖………東京市
▽下圖………横濱市

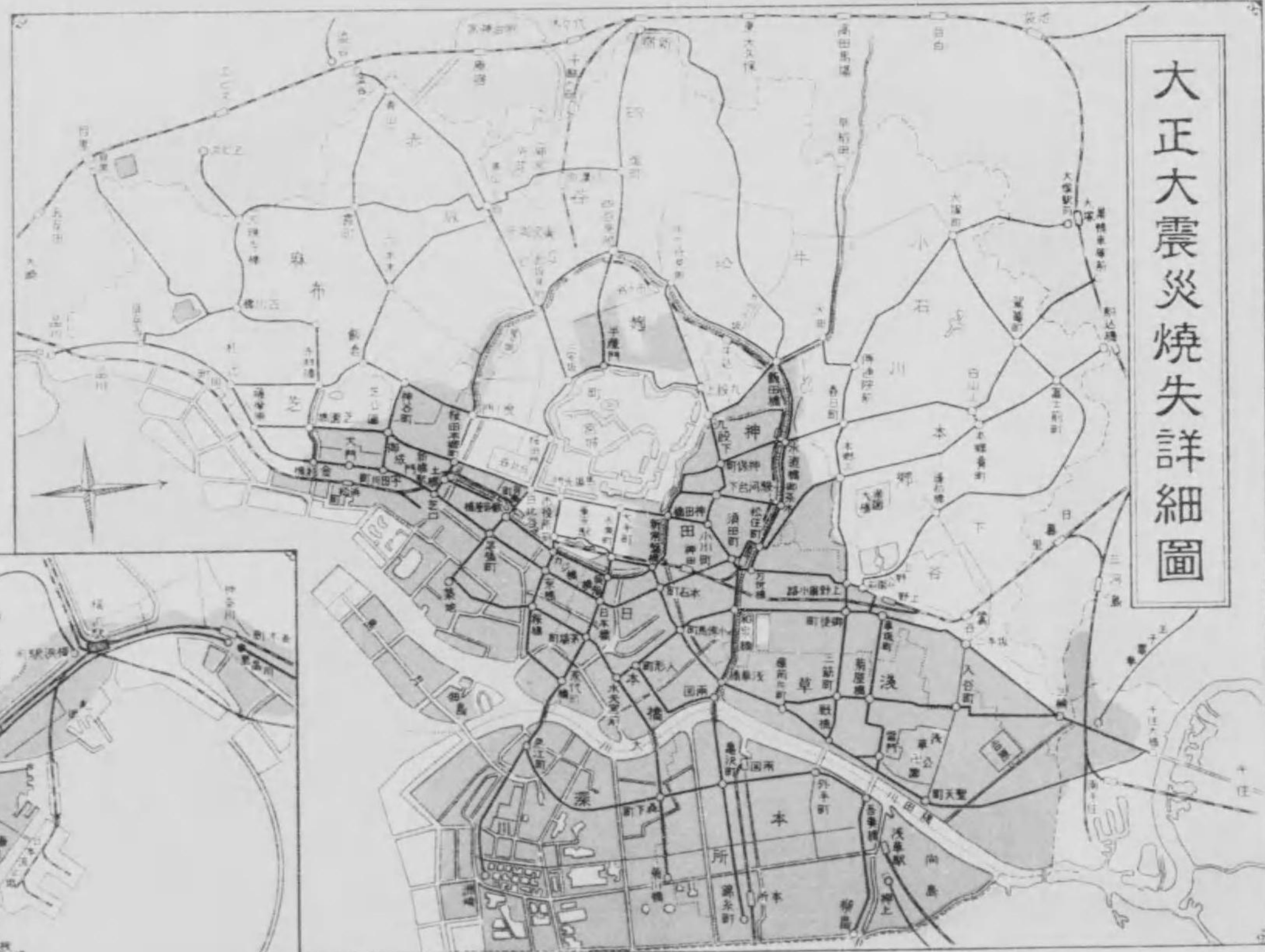


を賞揚し感涙に咽んでゐた。

大惨状を知り直に悲愴の鎮座地
た。

露光量違いの為重複撮影

▽上圖……………東京市
▽下圖……………横浜市



を賞揚し感涙に咽んでゐた。

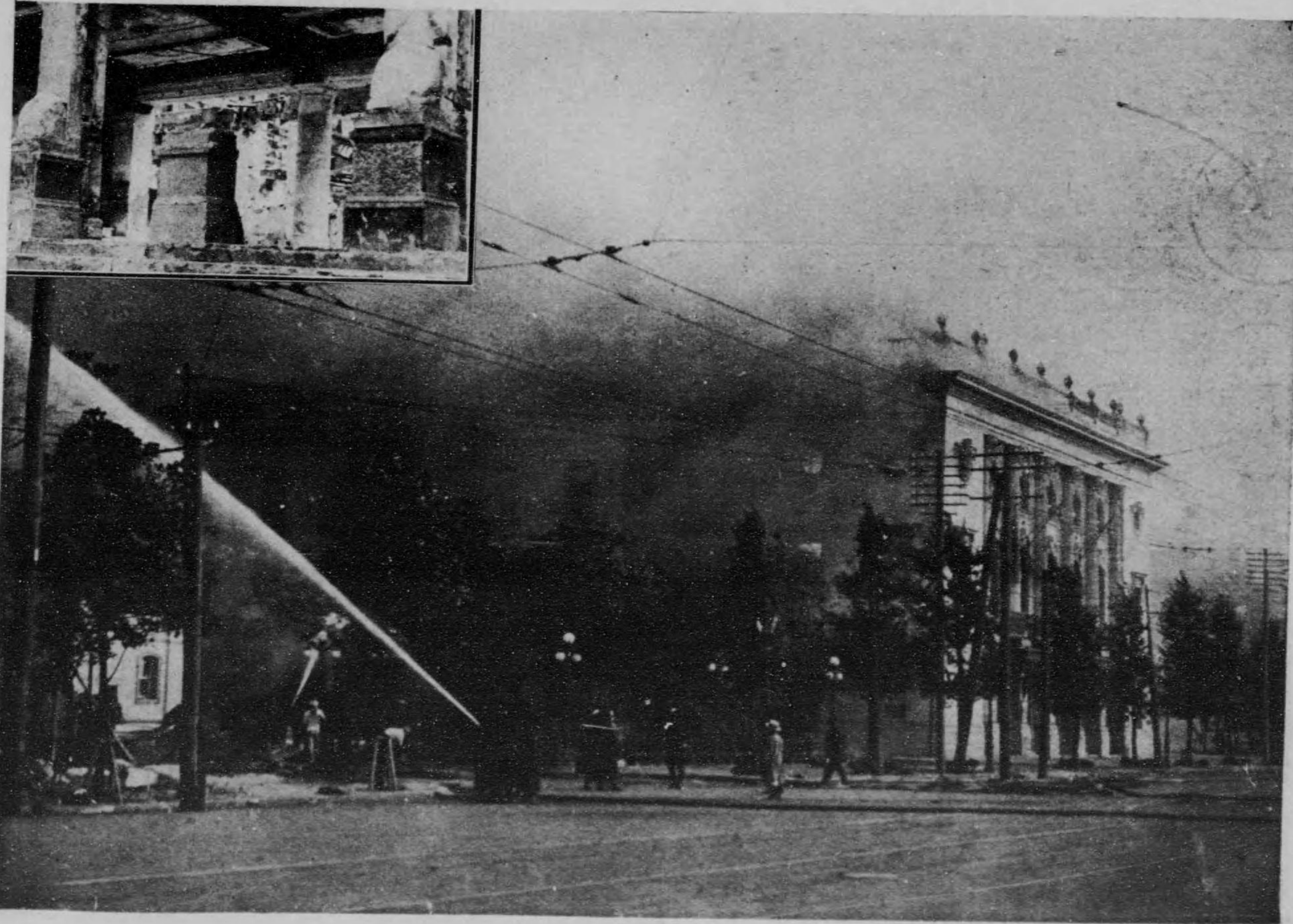
大惨状を知り直に感涙の筆を取つた。

丸の内火災の中警視廳

災後間もなく有楽町二丁目から發した火は、直ちに警視廳官舎を焼いて、警視廳、帝國劇場の二大建物を襲ひ、更に一方電車線路を超えて、日比谷大神宮、大松閣及び其附近一帯を焼拂つた。此間、毎日新聞社附近、日比谷公園松本樓等からも別箇の火災が起つた。圖は敷寄屋橋から見た其猛火である。小圖は警視廳。



Raging fire on Marunouchi and Metropolitan Police Office in flame near Hibiya Park.

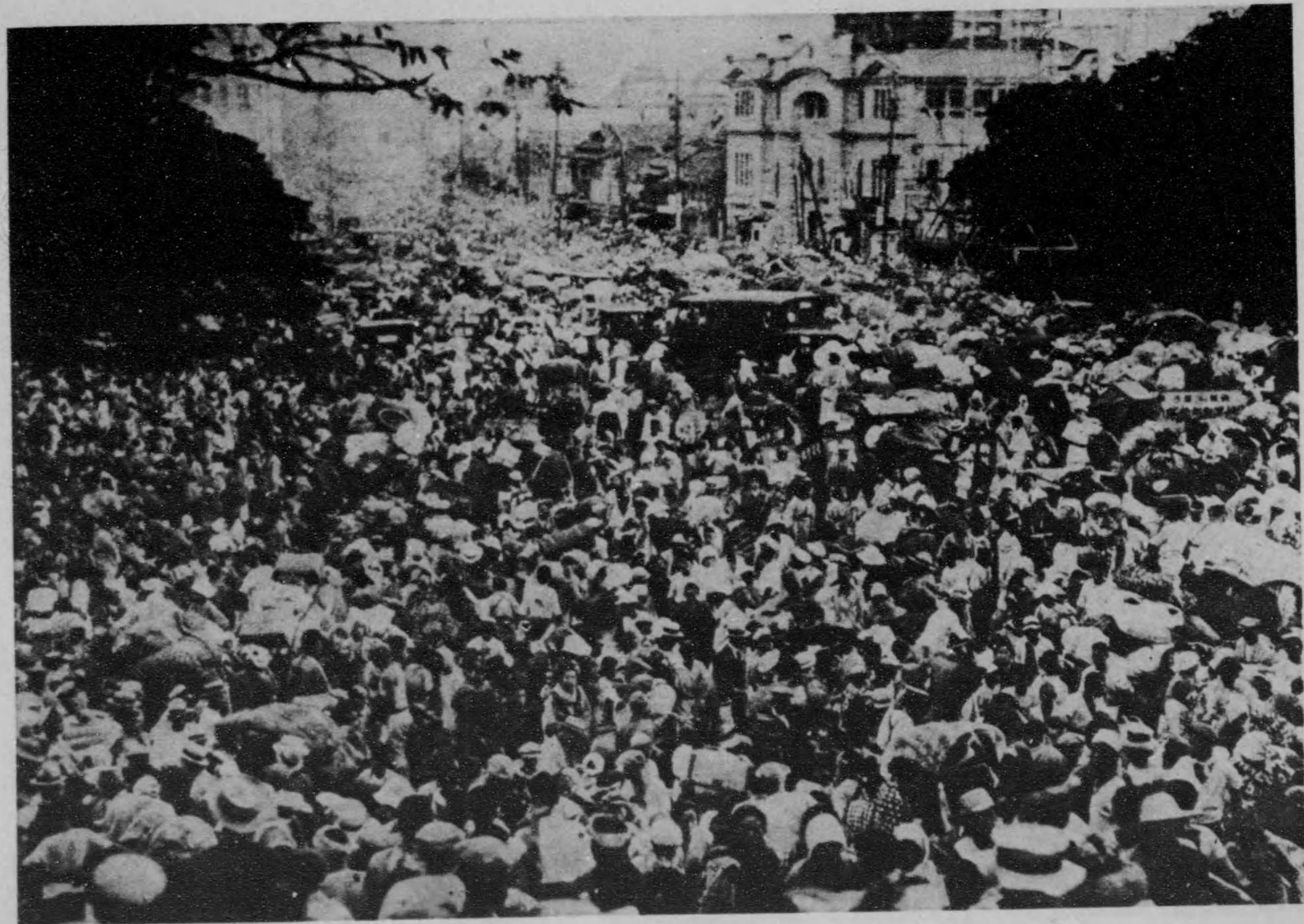


皇居外濠の松翠を前にし、日比谷交又點附近に警視廳と相並んで美觀を語られた帝國劇場は、九月一日警視廳と相共に燒失した。華麗比ぶべきものない金壁の殿堂も、今は醜い形骸を残して居るのみである。小圖は焼廢せる其内部の燒跡である。

Imperial Theatre neighbouring Metropolitan Police Office on fire and remains of its interior after the accident.

火に追はるる群衆

(23)



九月一日より二日に亙り、神田、淺草、本郷方面は夫に沖する猛火の裡に在る。其三方面の人々は一踏上野公園へ逃れたので、山下はたちまち人車で埋められて何れも自由を失ひ人々は遂に車を置き荷を捨て、僅かに身を以て山上へ辿つた。寫眞右方に見ゆるは不忍池畔の建物、左方は廣小路松坂屋附近であるが、之も二日の夜半に到つて灰燼に歸した。

Crowds of refugees chased by fires.



Imperial Th

内



here was a innumerable damage

雲の夕のそ

(24)



一瞥に澄み抜つた空は、見る間に濃々たる黄塵に覆はれ、日輪が赤く中天に深つた。やがて火の都の空には、雲の裾が銀色に光る不思議な雲が湧き立つた。日の暮れ方に雲は黄金を燃した様な色に變つた。大火はその雲を真紅に彩りながら夜に移つた。上圖は東京、下圖は横浜で撮したものである。この不気味な雲には黒煙に咽ぶ幾十萬人の悲鳴がこもつて居るのだ。

Strange clouds appeared over burning cities toward evening of the day of terrible earthquake.
Upper; in Tokyo. Lower; in Yokohama.

内務省の焼跡

(25)

神田橋を超えた猛火と東京瓦斯電気工業會社から發した火が相合し、内務、大藏の兩省、會計検査院、印刷局等大手町一帯の官衙は九月一日の夜に至つて悉く焼失した。幾多の國家記録を藏して居た内務省十數棟の倉庫の如きも全く灰燼に歸して何物をも留めなかつた。寫眞右方上部の黒點は陸軍の偵察飛行船である。



What remains of Department of Home Affairs. Burning of National Records here was a innumerable damage



Strang

文 部 省 の 焼 跡

(26)



神田今川小路及び錦町方面に響がった火の手は三崎町、猿樂町、神保町一帯を挟撃し、其一手は南蓮一ツ橋の濠を越えて遂に文部省附近を襲った。文教の司府文部省はかくて九月一月の夜半烏有に歸し、其損害は約九千萬圓と稱せられる。火は翌る二日の午前まで燃えつゞけて一ツ橋も焼落ちた。

Department of Education after the fire.

鐵道省とその附近

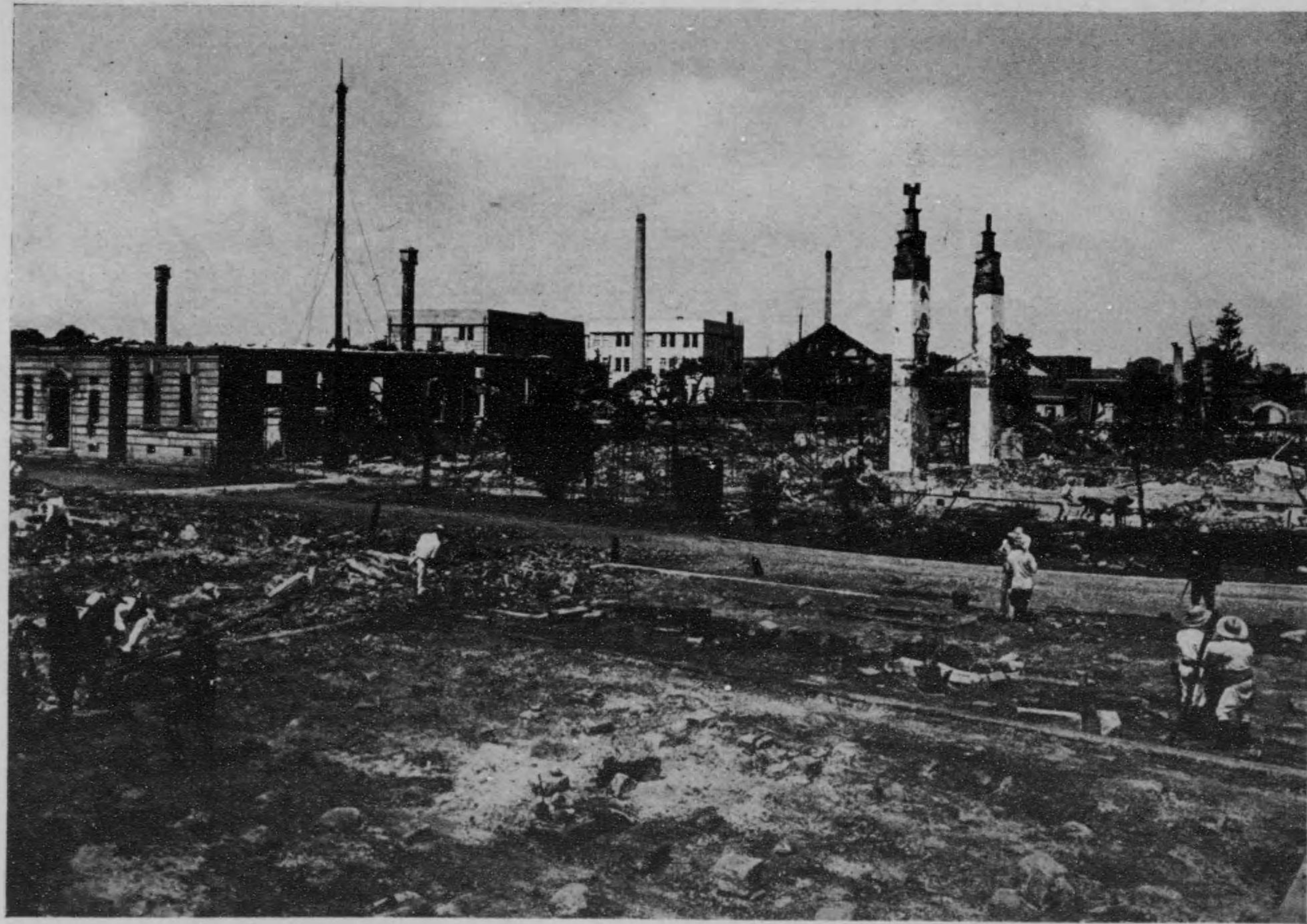
(27)

九月一日夜半十二時、東方日本橋を燃盡した猛火は丸の内に入つた。鐵道省は忽ちにして焼落ち、火は更に勢を逞うして東京驛に向つたが、遂に高架線軌道の爲めに阻まれて終熄した。因に鐵道省の損害は直控間接を合して一億圓に上るを言ふ。



Remains of Department of Railway and its neighbourhood.





大蔵省は隣接せる内務省と時を同じうして焼失した。明治以来の財政史、幕府時代の財政調査原簿をはじめ、如何なる方法を以てするも再び得難い幾多のナショナルレコードを火中に委ねたのは千秋の痛恨事である。

Department of Finance and its vicinity. Hundreds of volumes of National Records on finance were burnt here.

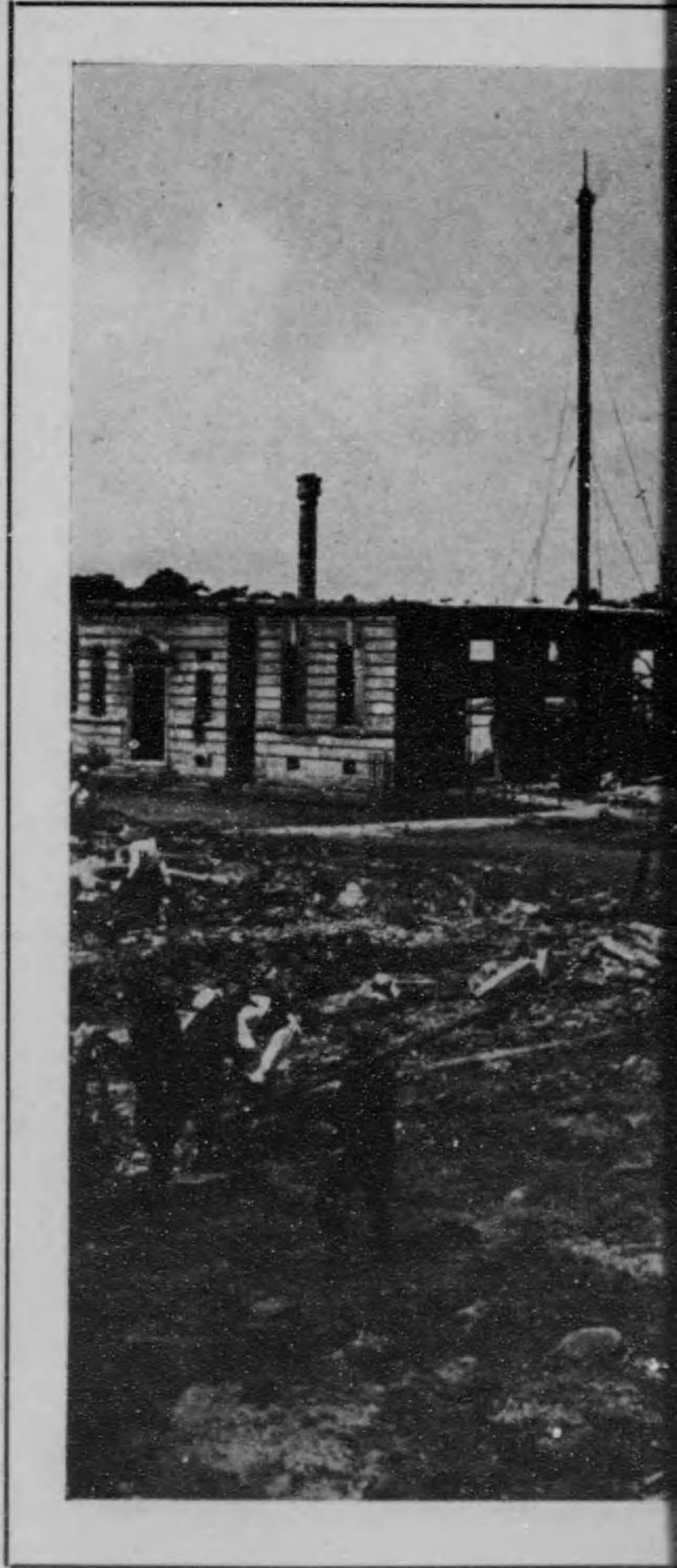
(29)

農 商 省 務 の 残 骸

農商務省は京橋區采女町にあつた。一町を焼く毎に勢を加へ、銀座通りを牛夜にして文字通りの曠野と化し、更に銀座東角を突破した。猛火の爲め九月二日の拂曉に及んで包圍されたのである。貿易振興の爲に開つた商品陳列館も焼失した。



Ruins of Department of Agriculture and Commerce at Unemecho, Kyobashi.



Department of Finance and



京橋區木挽町の遞信省は、九月二日の拂曉農商省と相前後して猛火の重圍に陥つた。火は更に二手に分れて横養軒附近と河を隔てた汐留驛方面とへ向つた。汐留驛は舊新橋驛で、貨物専用の大停車場である。構内及び附屬倉庫に在つた山の如き貯貨は言ふまでもなく焼失した。

Ruins of Department of Communication and Devastation in the vicinity of Shiodome Station.

(31)

局 刷 印

印刷局の火災のために印紙切手の原紙が焼失したので、其補給に頗る困難を來した。一時焼失を傳へられた原紙が、焼跡から何等の破損を受けないで發見されたので、兌換券の發行には支障を生じなかつた。圖は焼原と成つた東京大林區附近より見た其遺骸である。



Remains of Local Forestry Office in Marunouchi, burnt Printing Bureau in background.





Imperial Forestry Bureau, situated very near the Imperial Palace, burnt.

帝室林野管理局の出火は最も早く、其全く焼落ちたのは強烈な震動が頻断續してゐる九月一日午後三時頃であつた。皇居に近い和田倉門内の事として、死力を盡して消防に努め、他へ延焼せしめずして鎮火し得たのは非常なる幸であつた。



Damage of Ote

皇居の被害は極めて輕微であつたが、西園に繞らした御濠、城壁の各所には猶相當の被害を免れなかつた。寫眞の上圖は井伊大老事件によつて著名な櫻田門外の道路龜裂、中圖は三百年の佛を災後補修不能の爲取壊さるゝさいふ大手門の破損、下圖は二重櫓近傍に於ける石垣の崩壞である。



Damages around the Imperial Palace; *Upper*; Fissure in front of Sakurada gate. *Middle*; Damage of Ote gate. *Lower*; Stone wall facing the Palace crumbled.





日比谷公園有樂門外の電車交又點附近で、所謂山かん橋町の名に騙され、別に食傷新道の名もあり一種の銷金窟を以て目された處である。無残に焼滅した建物は警視廳の礎石である。之は其後陸軍工兵隊の手に依つて爆破された。

Devastation near Hibiya junction. Remains of Metropolitan Police Office are visible on the left.

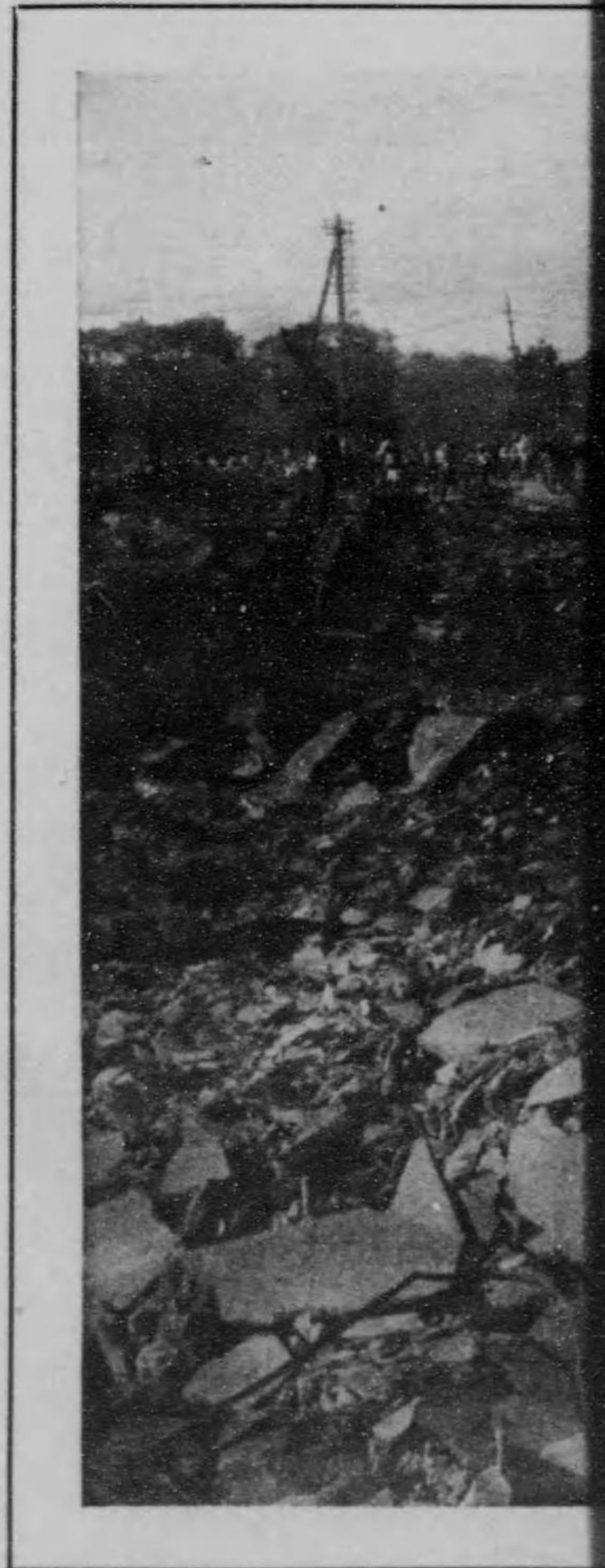


of the Russo-Japanese War

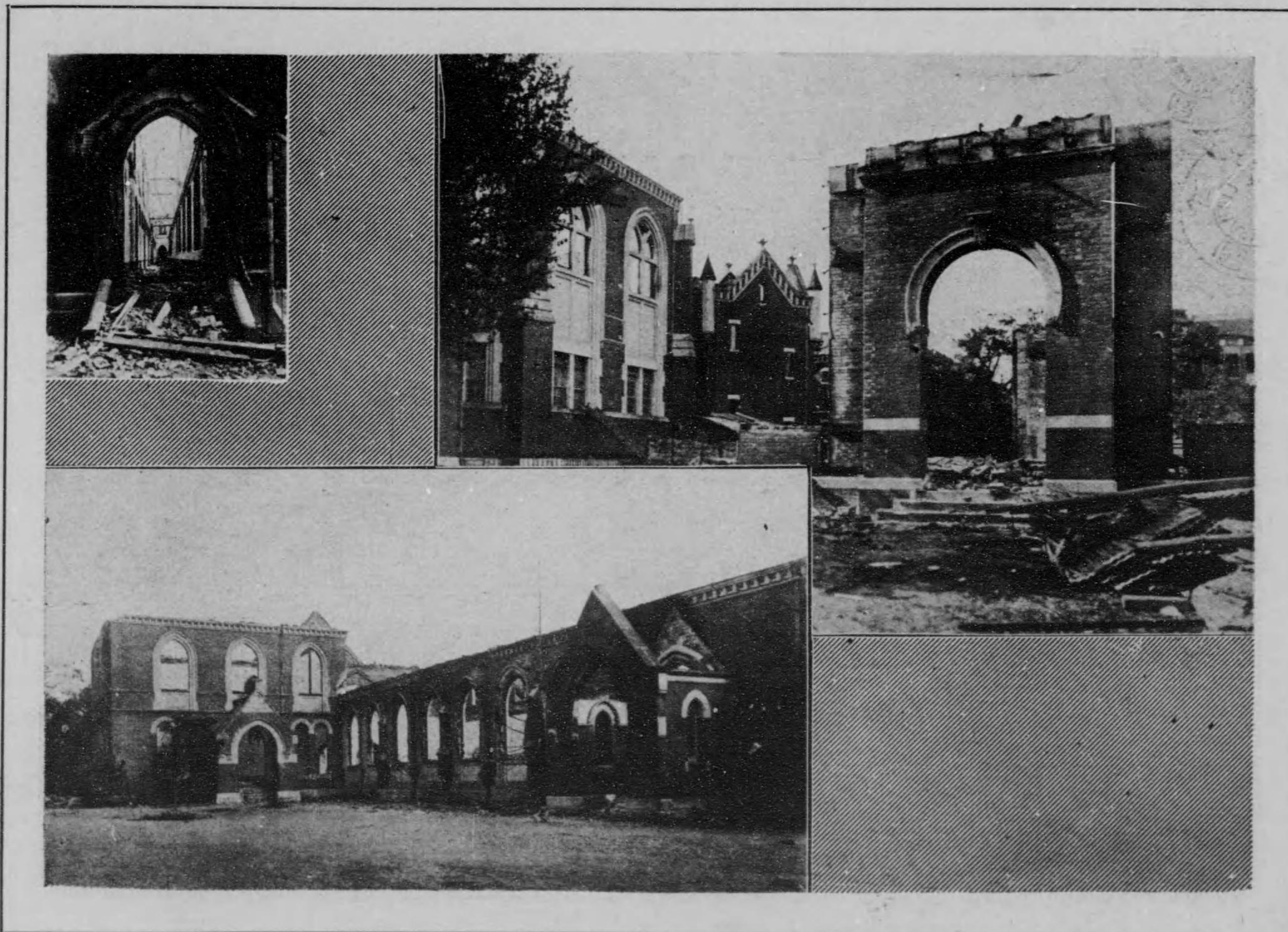
一は須田町の一角に、一は土橋附近にあり、何れも間に一驛を置いて東京驛と連絡し、東海道線と中央線の各最初の主要驛として帝都の美観に数へられた市内高架線の壯麗な停車場である。上圖は萬世橋驛、下圖は新橋驛であるが、何れも無慘に焼果てた。内部の光景は更に甚しい。



Upper; Remains of Shimbashi Station. Lower; Manseibashi Station and statue of L. Col. Hirose, a hero of the Russo-Japanese War



Devastation near



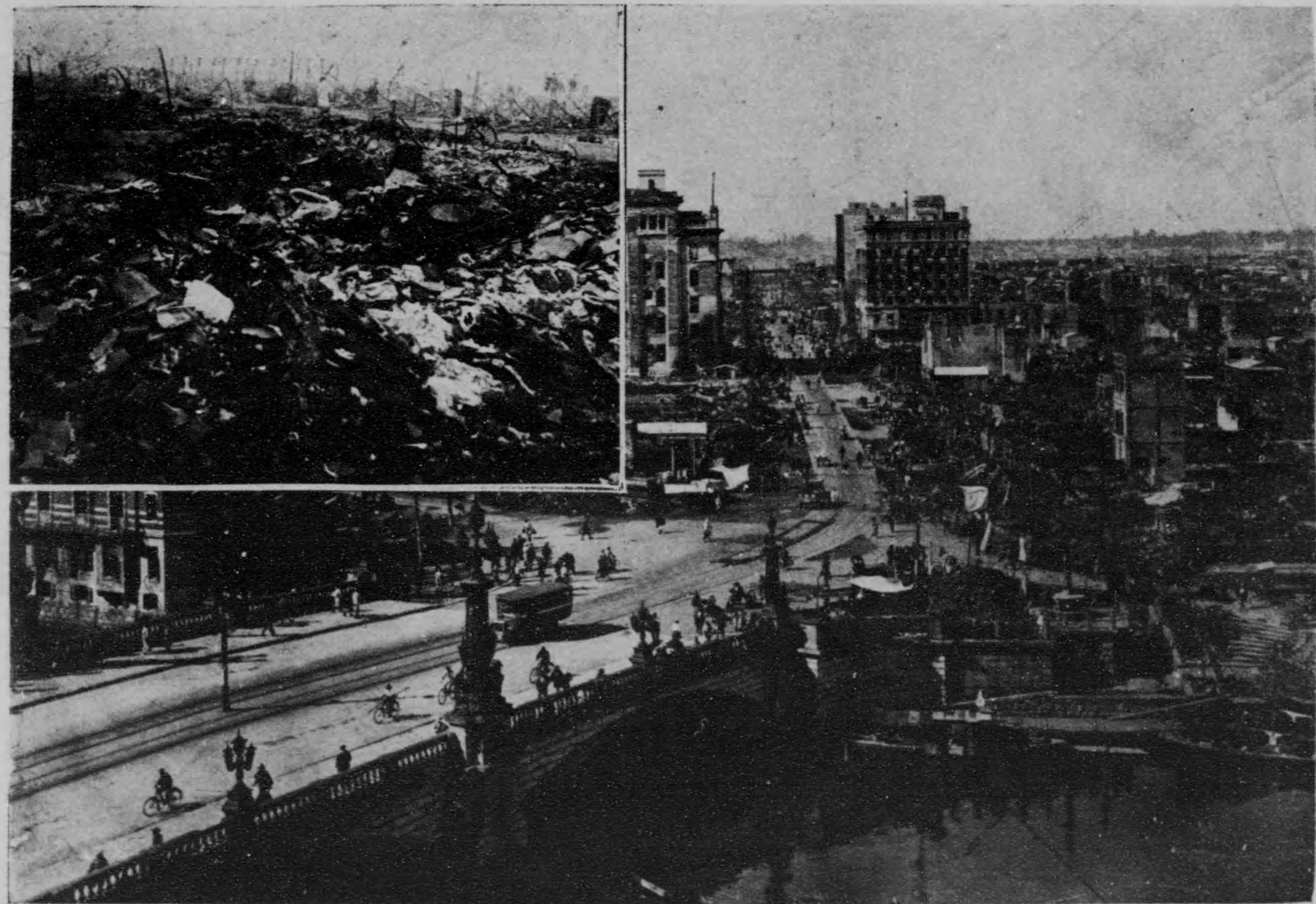
東京帝國大學は醫學部の大部分と附屬病院を除くの外殆ど全部を灰燼に歸した。其最大なる痛恨事は圖書館の焼失で、マクスミュ
ーラ文庫、エンゲル文庫、群村史類、寺社奉行記録、評定所記録、幕末史料、アルンブルヒ文庫、欽定古今圖書集成、西蔵文一切
經等の得難い研究資料をはじめ七十五萬冊の圖書を失つた事である。中央が圖書館。下圖が法科教室、小圖は其内部である。

Damages of Tokyo Imperial University. *Middle*; remains of library burning all valuable books in it
Lower; remains of school rooms of Law Department. *Upper*; the interior of the school room

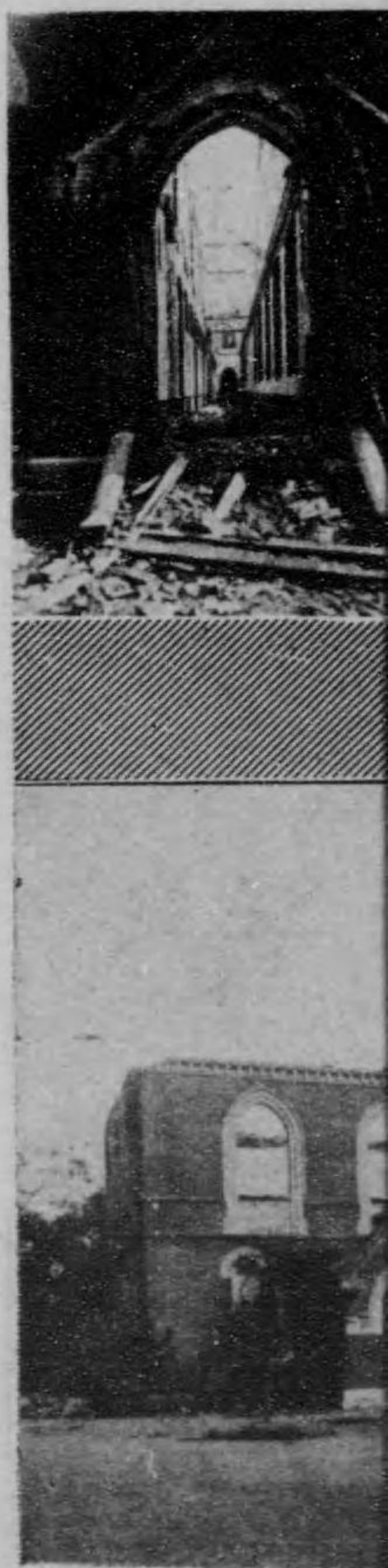


Nihonbashi Bridge.

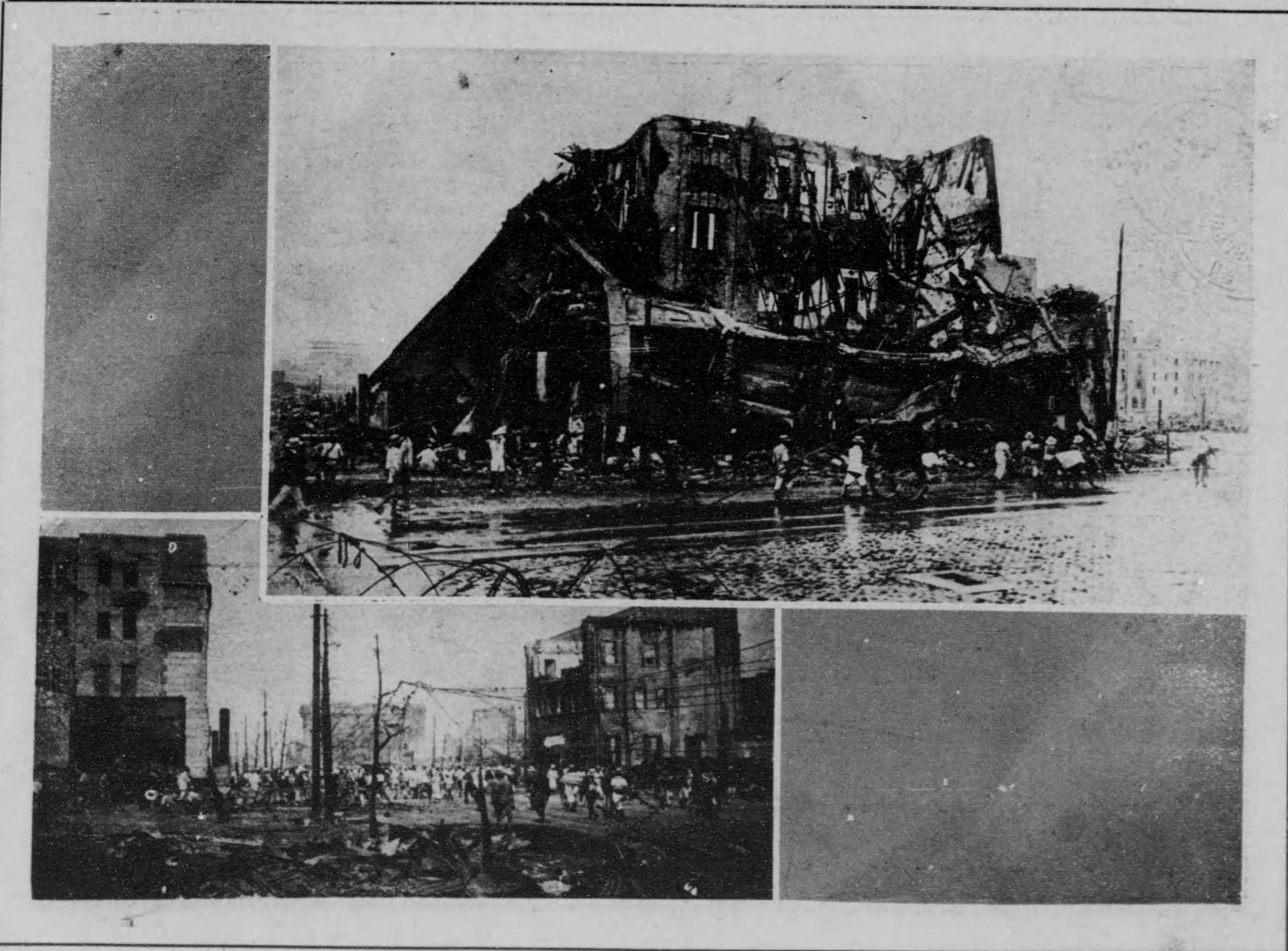
大夏高樓櫛比したる日本橋畔、車馬の絡驛は依然たるものであるが、今見る物は山積した瓦灰と大建築の残骸のみである。魚河岸は災後芝浦に移り「越後屋にさぬさく音や初鯉」の江戸情景は遂に昔日の夢と成つた。小圖は魚河岸の地跡である。



Devastation at Nihonbashi, the center of Tokyo. Uogashi, the only market of fishes in Tokyo, near Nihonbashi Bridge.



Damaged
Loot



九月一日の薄暮より二日の拂曉に及んで、縦横に馳ふ狂ふ猛火の爲に、東京に於ける富の心臓と稱せられる日本橋區は殆ど全滅して了つた。下圖が其の日本橋通り丸善の惨状で、上圖は震火の暴威を最も激しく蒙り、四壁は崩れ、鐵骨は鉛の如く曲つた書肆丸善の慘状である。

Ruins along the Nihonbashi street. Remains of Maruzen Co, largest store of foreign books.

(39)

京橋より銀座方面を望む

東側は銀座一丁目より四丁目、三十間堀、尾張町、西側は同じく銀座一丁目より四丁目、南紺屋町、西紺屋町、弓町、鍛屋町、新
着町、彌左衛門町等一帯の焼跡である。讀賣、萬朝の兩新聞社、新築中の銀座ビルディング、大根河岸の青物市場等がこの園内に
ある。



Devastation at Ginza, the commercial centre of Tokyo, seen from near Kyobashi Bridge.



近きは京橋南傳馬町附近、遠きは南日本橋上横町附より京橋南鍛冶町に至る外濠一帯の焦土で、南北横町、桶町、南大上町等の諸街はいづれも此間にある。遠く見ゆるは八重洲河岸を隔て、焼残つた東京驛である。

Burned ground seen from Kyobashi; Tokyo Station in background.

(41)

街 座 銀 き 如 の 墟 廢

東京隨一の市街地たる銀座通りは半夜にして焼け失せた。其残跡には壯麗な商舖の残骸が哀れに林立して、ボンベイ廢墟の光景を
髣髴と思はせ、夜々漫步の士女に降り濺いだ月光は淋しく死灰の埃に咽んで居る。



Ginza street, once the fashionable shopping centre in Tokyo.

む

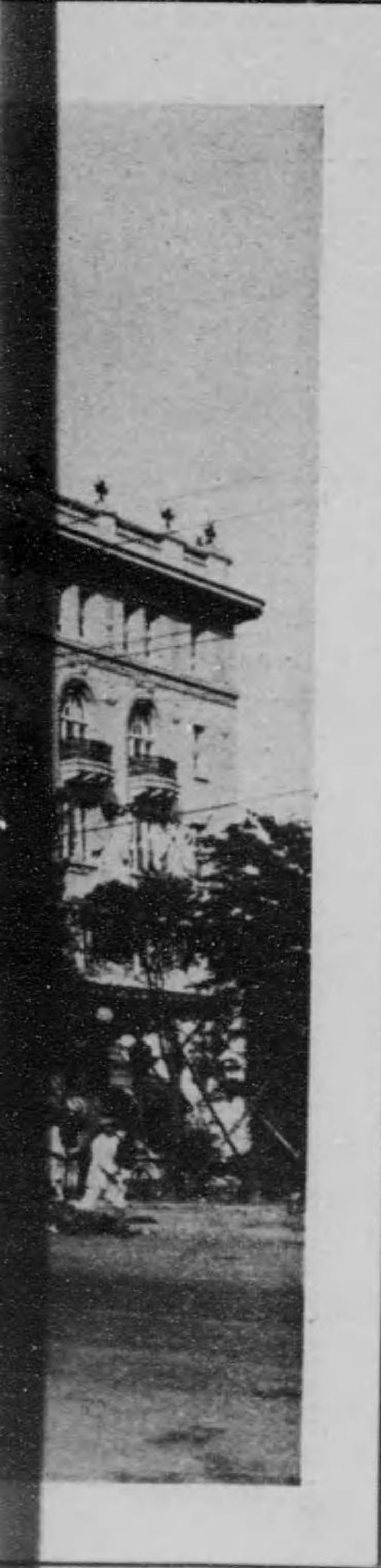


B



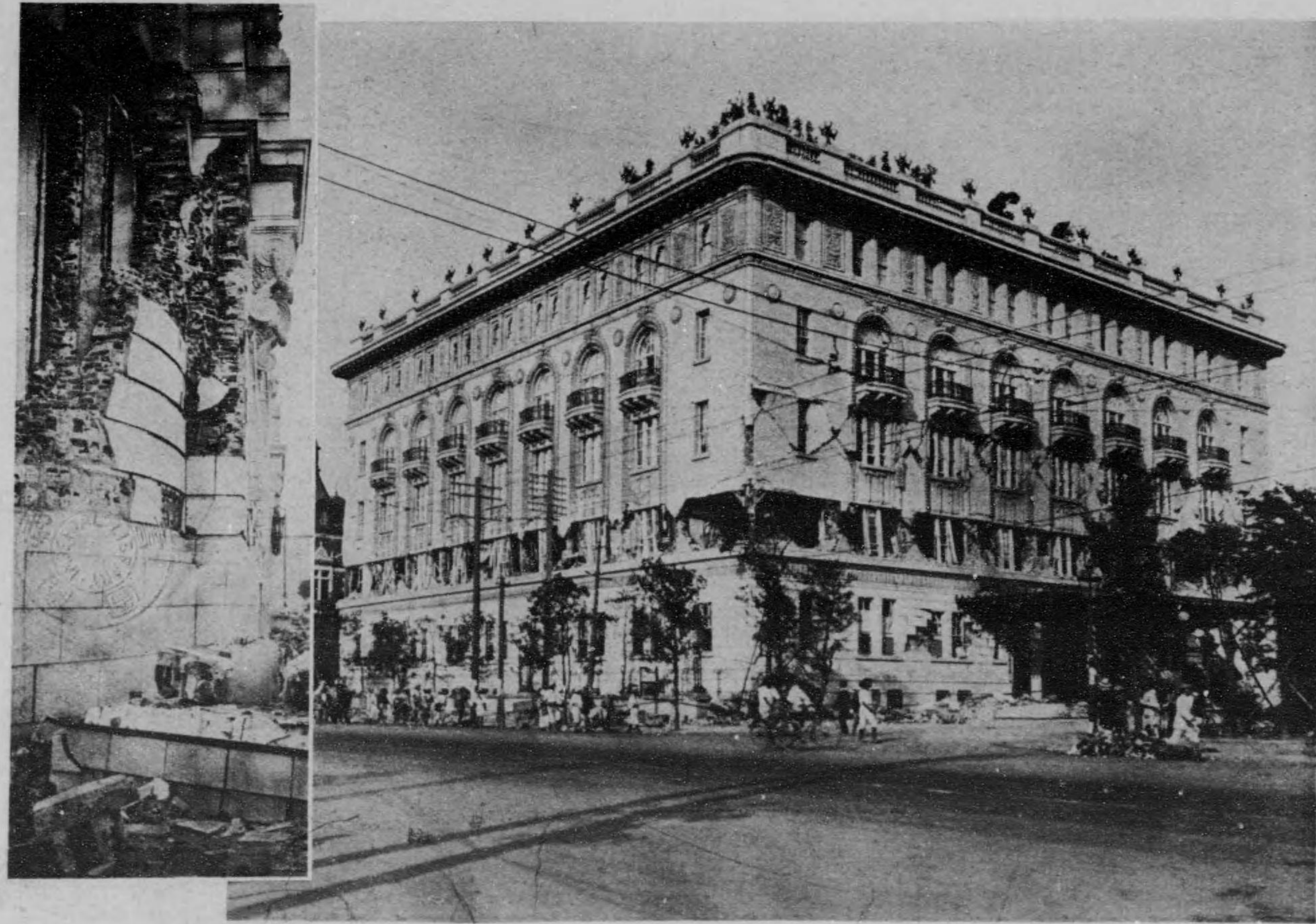
有樂町二丁目を焼拂つた火は有樂町驛を焼き、更にガードを超えて内数寄屋河岸に延び、有樂座、邦樂座を焼き、東京市電氣局を
烏有に歸せしめ有樂橋の袂に到つて終熄した。其焦土は濠を隔て、銀座の焼原と相對して居る。報知、東京日々、兩新聞社は辛く
も焼失を免れた。

Devastation at Kojimachi; seeing in the direction of Marunouchi from Ginza.



kan,

上圖は郵船ビルディング下圖は東京會館である。共に落成後間のない建物で、丸の内の雄説をなして居たのであるが、激震の爲に
 圖の如き破損を蒙つた。東洋一の設備と誇つてゐた東京會館は到底修理の見込なく、遂に取崩しと決定したが、附近が火害を免れ
 て居るので爆破作業が不可能なため、解体工事には建築費と同額の費用を要するさうである。



Damages of two large building lately established. Upper: N. Y. K. Building. Lower: Tokyo Kaikan, the assembly-hall of Tokyo.



Devastation



丸の内ビルディングに隣し、和田倉門外の電車通りに面して建築中の内外ビルディングは、鉄筋コンクリートの七層樓で落成の間際であつたが、激震と同時に脆くも崩壊し、多数の大工左官等は無慘にも生埋さなり其殆どが壓死した。圖は凄愴を極むる崩壊後の光景である。

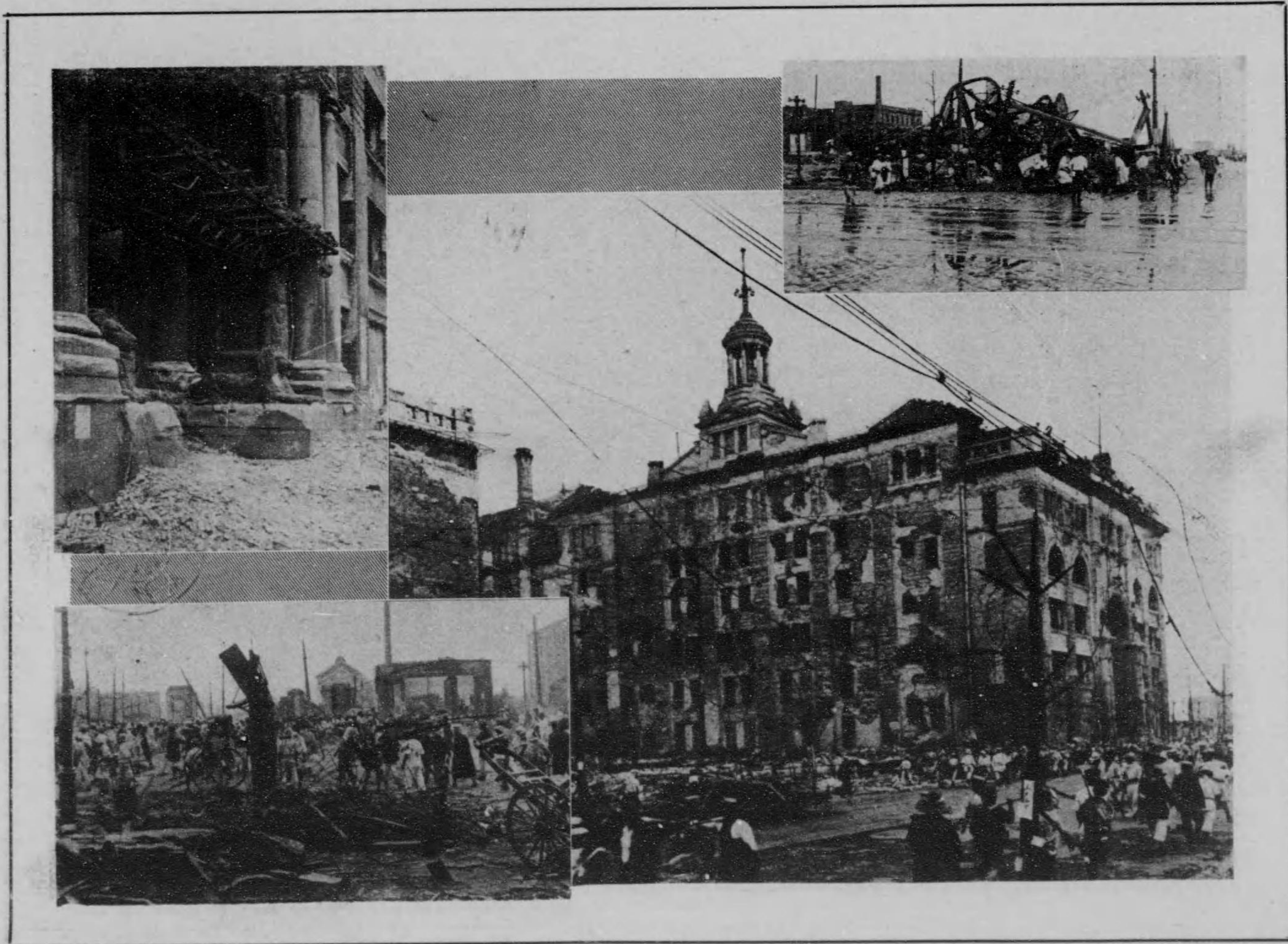
Destruction of Naigai Building at Marunouchi, which was under construction. A large number of workers buried here.



kaya, nothing
tsukoshi.

店 服 吳 大 三 三 せ 失 焼

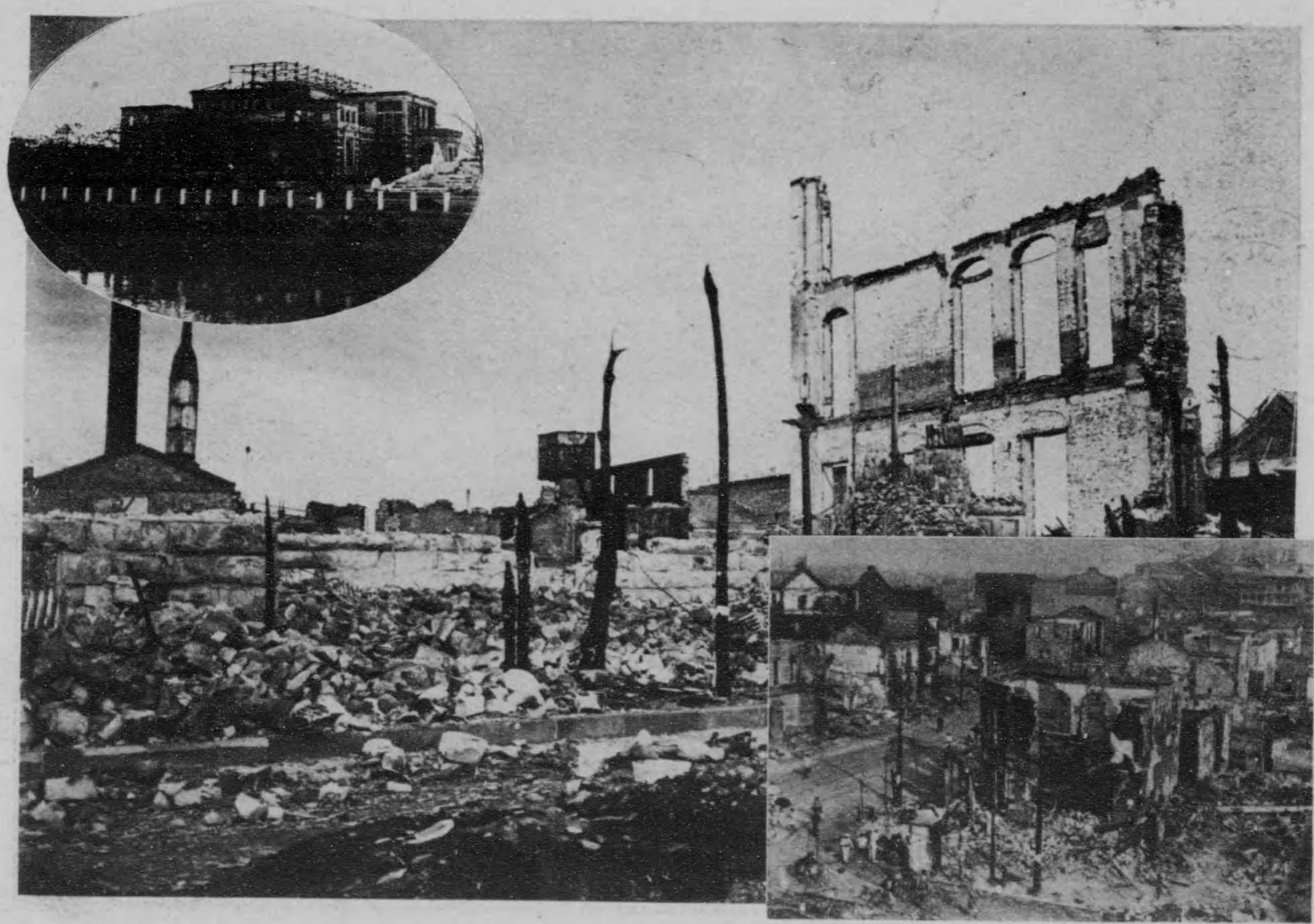
三越白木の兩吳服店は九月一日夜半、松坂屋吳服店は三日午前一時に何れも猛火の襲ふ處となり、綾羅錦繡悉く一片の灰と化し畢つた。上圖は白木屋、下圖は松坂屋の焼跡、大圖は三越の残骸、小圖は其正面入口ライオンの巨像である。此外高島屋・松屋の大吳服店も焼失した。



Remains of three Department store in Tokyo. Upper: Shirokiya, nothing remained. Lower: Matsuzakaya, nothing except the lattice-door of entrance. largest: Carcass of Mitsukoshi. smallest: Locked entrance of Mitsukoshi.



Destruction of Naigai Building



中央の寫眞は第三次日露交渉の記憶猶新なる築地橋養軒及び其附近の焼跡、上圖は木挽町附近、破風造りの屋根は歌舞伎座で、觀
 筋コンクリートの外部だけが残つた。之は基礎工事が完全であるので、内部の設備を施せば使用に堪え得るさうである。下圖は對
 岸、海軍大學校の殘骸である。

Lower Vicinity of Kobikicho, remains of Kabukiza Theatre is seen on the right. Middle: Tsukiji, Seiyoken Hotel. Upper: Naval Staff College.

(47)

新川より見たる越中島方面

本所と共に全滅した深川の住民は、震後たちまち全區を燄に包まれて逃るに道なく、其大部分は、越中島、月島、洲崎の埋立地へ難を避けたが、其處も猛火の襲ふところと成り半ば死を決して何れも海へ奔った。折柄、幸に引汐であつたので微管水中にありながら此附近では死傷者が極めて少かつた。圖は酒庫並立した新川附近より見た越中島方面の燒跡である。



Desolation of Fukagawa Ward seen from opposite bank.



Lower Vicini



茅場町附近より遠く日本橋を隔て、室町、裏河岸方面を望んだ光景である。岡中近き部分は坂本町の一角より本村木町、青物町、元四日市町、萬町附近に互る一帯の焼跡で、中央電信局、第百、東京貯蔵、村井等の諸銀行が此區域にあり、株式仲買店の大部分が軒を並べて居た處である。

Vicinity of Kayabacho, Nihonbashi. Mitsukoshi department store in background.

茅場町より坂本町及び兜町方面を望んだ光景である。第一銀行、東京株式取引所等の大建築が今は見る影もなく、鹿も焼落ちた鐘の對岸には遠く末廣河岸より鐘河岸に互り小網町一帯の焦土が手に取る如く指呼されるのも悲惨である。



Devastation at Kabutocho, the Tokyo Stock Exchange and the First Bank situated here.





築地本願寺をはじめ其附近一帯を焼拂つた猛火は、築地川を超えて先づ新富座を襲ひ、新富町、八丁堀を悉く焼盡した後、霞岸島を漁土と化して終熄した。此火勢は極めて鋭く、逃げ場を失つた人々は死體を成てつ築地川に浮流し、其他多数の傷者を出す等新富座附近の光景は、京橋區に於て最も惨憺たるものであつた。

Shintomiza Theatre burnt to ashes and its neighbourhood.



macentical
pany.

寫眞右上圖は麹町永樂町の朝鮮銀行東京支店、同下圖は京橋電車交又點角の摩天樓星製藥株式會社、左上圖は日本橋室町の三井銀行、同下圖は麹町永樂町の高田商會である、何れも内部を悉く燒盡され、殘骸徒に災前の盛觀を偲ばせて居るのも哀れである。そしてかゝる状態は枚舉に遑がない。



Damages of four big buildings. Upper right: branch of the Bank of Korea. Kojimachi. Lower right: Hoshi pharmaceutical Company at Kyobashi junction. Upper left, Mitsui Bank. Lower left: Takata Shekai, one of the noted Trading company.





赤坂池附近は地震の處にて被害殊に甚しく、大部分の家屋は激震と同時に倒壊し、無慘の壓死を遂げた者が少くなかつた、如ふるに田町四丁目より火を發し、溜池の花柳界を焼拂ひ、葵町より靈南坂に伸び、米國大使館、大倉男爵邸、大藏商業學校等を烏有に歸せしめた。圖は焼残つた田町一丁目附近の倒壊家屋である。

Collapsed houses at Tamachi, Akasaka.



半込區は火害は殆んど免れたが、震害は頗る激甚であつた。家屋の倒潰傾斜したものが甚だ多く、江戸川畔の如きは大曲より東五軒町へ至る間の護岸が三四尺も低下して、各所に物凄い龜裂を生じた。圖は市ヶ谷本村町附近護岸路面の龜裂である圖中の人物と比較しても如何に其大龜裂であるかを相像し得るであらう。



Fissures on the road at Ichigayamitsuke. Note the depth of it comparing with a man.





東京名所に數へられた芝愛宕山の塔は激震と同時に倒潰し、泉岳寺の赤穂義士の墓石は殆んど轉倒した。火は赤坂方面と京橋方面の二手が合し、新櫻田町、今入町の一角を掠り、四久保明船町、同巴町、愛宕町、愛宕下町、芝口等芝區の主要街を悉く焼拂つた。圖は愛宕下の焼跡と泉岳寺内義士墓の光景である。

Devastation at Shiba looking down from Atagoyama Hill. Upset tombs of the Samurai at Sengakuji Temple.

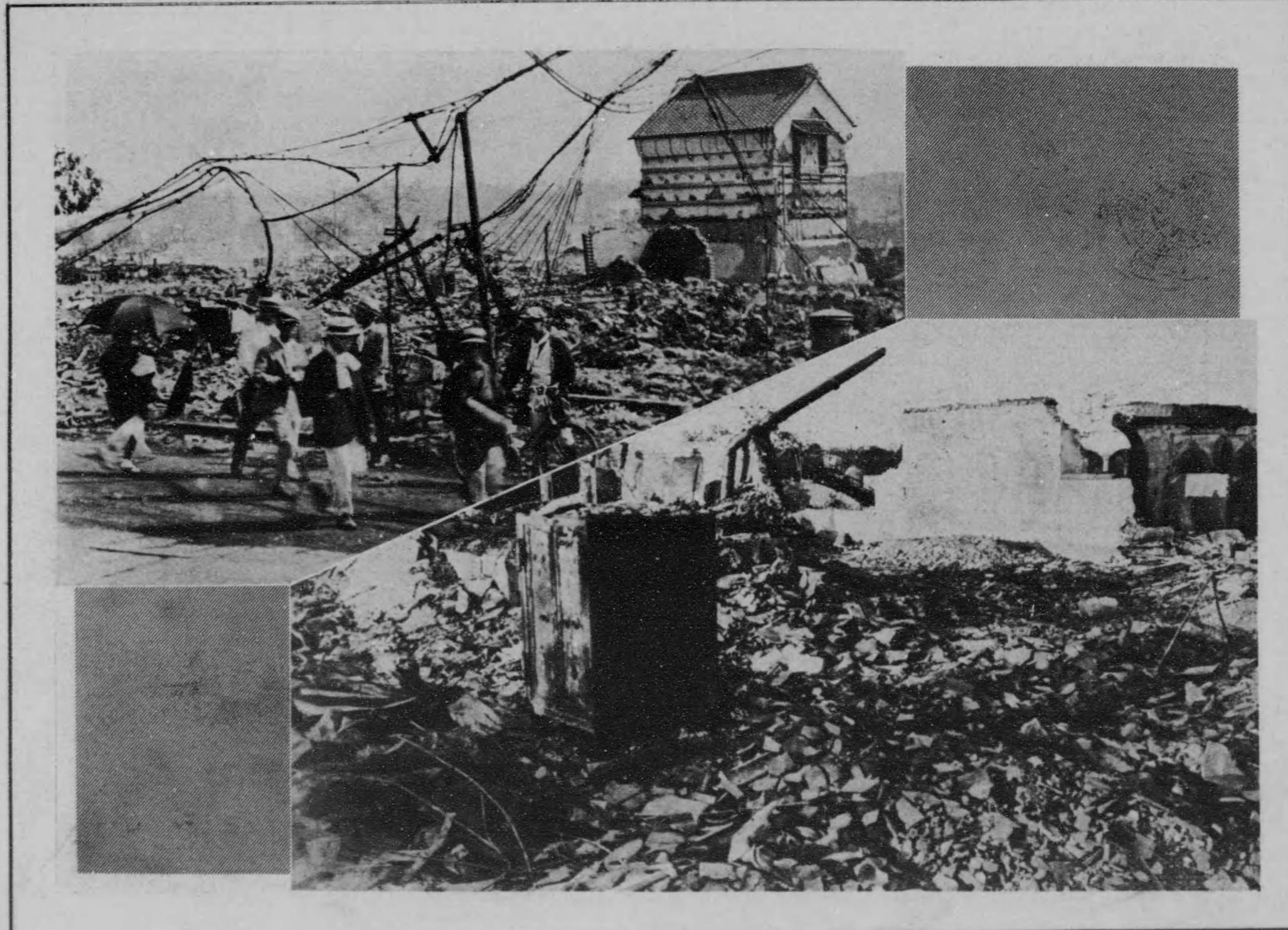


Temples in front collapsed.

靖國神社は地震の爲め、社前廣場の石燈籠が悉く倒壊し、四周の空地は大破し。遊就館は潰裂したが、本社は安泰である。川上操六、大村益次郎の銅像は恒事であったが、品川彌次郎の銅像は無残に轉落して身首を異にした。上圖は九段坂上より見たる一望曠野と化した神田市街、右圖は社前、左圖は遊就館である。



Upper: Brunel ground in the vicinity of Kanda seen from Kudan Hill. Right: the dedicatory lanterns in front of the Yasukuni Shrine trumbled down. Left: Yushukan, the military museum near the Shrine, collapsed.



神田今小路に起つた火は直ちに濠を越えて九段下を襲ひ、九段上では宮七見町、中六番町の二個所から同時に發火して宮城の四
 北を燄の海と化した。かくて北は飯田町方面、西は市ヶ谷見附へ進み、更に破れて五番町へ向ひ元園町附近の火と相合して神田の
 大部を焼拂つた。上圖は九段下、下圖が三番町附近の燒跡である。

Upper: Burned ground below Kudan Hill. Lower: Devastation at Bancho upon the Hill.



神田神保町の火が延びて駿河臺は一大猛火の裡に置かれた。有名なニコライ堂の如き、塔は壊れ屋根の圓蓋は燃飛び、樅檜たる姿と變じて了つた。それに前後して明治大學をはじめ佐々木病院、濱田病院、金杉病院、瀨川病院、井上病院、其他の大小醫院、及西園寺公爵、戸田伯爵、岩崎家、薩摩家、其他名家の邸宅悉く焼失し翌朝に至つて名橋お茶の水橋も遂に落ちた。



Remains of Nikorai Cathedral at Surugadai, Kanda.



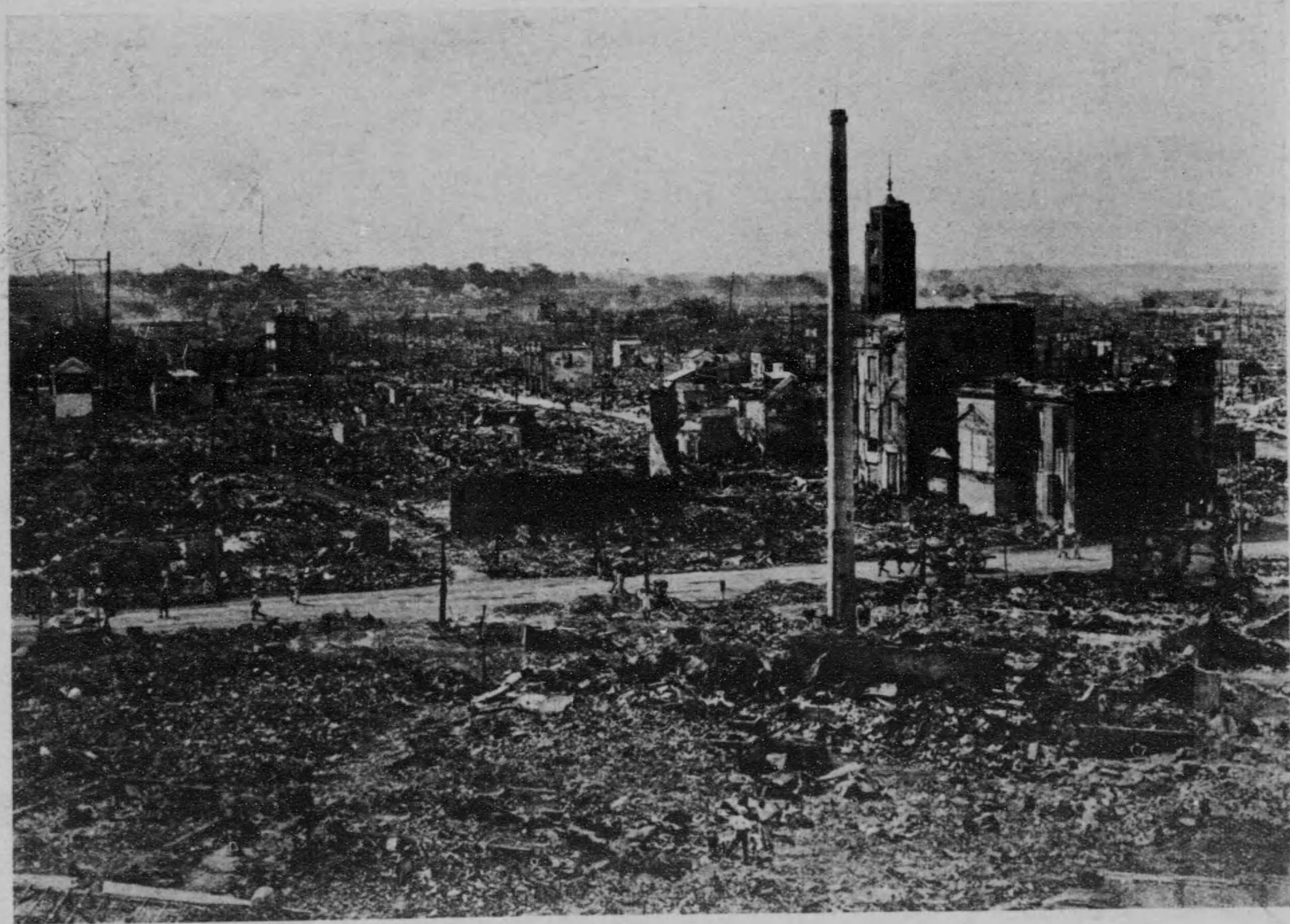


東は須田町に通じ、西は駿河臺下に曲折して神保町と連絡し、神田區第一の繁華を誇つてゐた。小川町通りの雄跡である。著名の
 建物はなかつたが、銀座に次ぐの商業街として店舗が櫛比並立し、堅實な飲食店なども介在して市内稀に見る處のものであつた。
 災後バラックを建てたのも此附近が最も早い様である。

Devastation at Ogawamachi, Kanda, one of the busiest street in Tokyo.

ed and burnt to death.

學校と學生とに依つて發達し、所謂神田學生街の中心と稱された神保町一帯の焼跡である、此附近の震災は頗る激しく、従つて多數の犠死者を生じたのであるが、其死體を引出す間もなく猛火に包まれたので、電車交又點附近には夫れ等の死骸が算を亂して焼かれると言ふ慘狀を呈し、軒を並べた書肆は残らず焼失し灰と化した稱書跡からすまある。



Vicinity of Jinbocho, Kanda. The disaster was great near here, hundreds of men being crushed and burnt to death.





神田錦町の大通りと麴町大手町を連絡する神田橋は、兩岸より迫る猛火のため見るも無残に焼落ち、多くの死體が橋下に浮流した。呉後陸軍工兵隊の手に依つて敏速に木橋が架設されたが、夫れまでは圖に示す如く橋側僅かに残つた水道鐵管の上を危くも渡つて交通が續けられたのである。

Kanda-bashi Bridge, main entrance to Marunouchi from Kanja burnt down.



Kanda-ba

よ 跡 焼 神 明 田 神



神田區は一日午後零時三十分、一つ橋附近及び三崎町より火を發し、下谷、日本橋の隣接地より襲來せる猛火と合して僅かに神田河神和泉町の一角を残したのみである。下谷區は初め、神田、湯島、淺草三方面の火に包まれて一部を焼失し一旦鎮火した。然るに二日夜松坂屋附近より再び出火し、火勢は車坂より更に坂本淺草方面に伸びて大半を焦上と化した。淺草區は激震と同時に十二階が半部より倒潰した爲め、其下敷と成つた民家より出火し須臾にして六區の觀樂境を焼拂ひ、火は四方に分れ、地方今戸、田中光月、淺草、玉姬、須賀の諸町、藏前、新吉原等より起つた火の手と共に觀音境内、橋場河岸の猫額の地を剩したのみにて全區を

ill of Myojin Shrine which was also burnt.

下谷 . 浅草 . 本所 方面 を 望む



Devastation at Kanda, Shitaya, Asakusa and Hōnjo

神田 明神 跡 焼 跡 神田



Wards seen from the hill of Myojin Shrine which was also burnt.

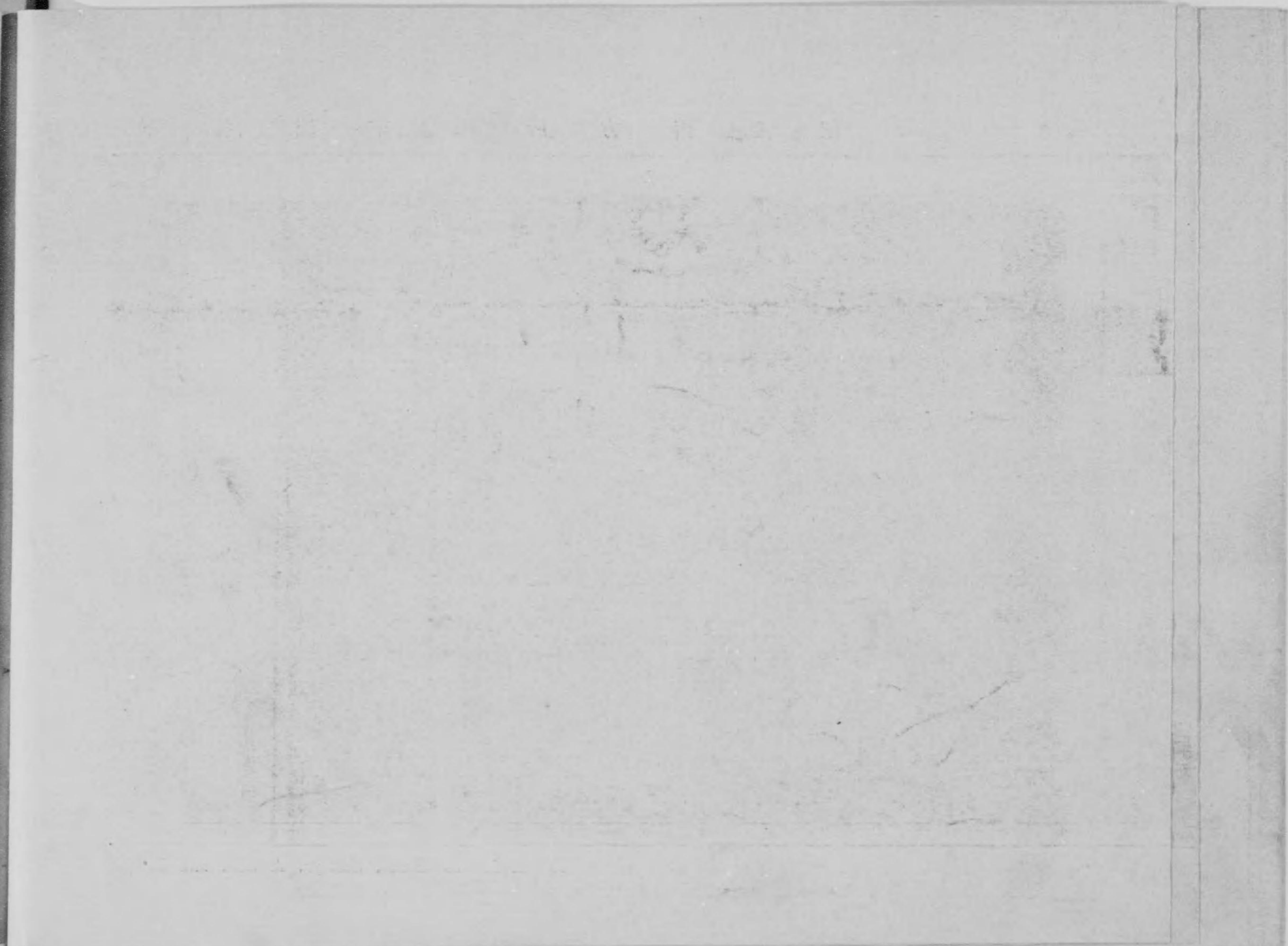


殆ど滅盡せしめた。本所區に到つては慘中の慘と謂ふべく、激震と同時に若宮町、森下町其他各所より發火して瞬く間に全區は火の海と化した。被服廠跡の大慘事は此夜の出来事である。斯くして本所は其區民と共に全滅した。以上四區の燒失建造物で著名なものはニコライ會堂、萬世橋驛、神田明神、松坂屋呉服店、市村座、秋葉驛、淺草本願寺、新吉原遊廓、お茶の水、神田、吾妻、厩の四橋、商科大學、高等工業其他私立諸大學である。

Devastation at Kanda, S



catastrophe.



神田明神は大己貴尊、少古毘名尊を祀り、社内に將門の祠もあつて、其祭禮は古來日枝神社の山王祭と共に有名である。社地は神田宮本町の東京半部を下敷する高丘に在つたが、お茶の水方面より追つた猛火の爲に社殿、社務所共全部灰燼に歸した。圖は其燒跡より賤鐘箱を發掘して居る光景である。

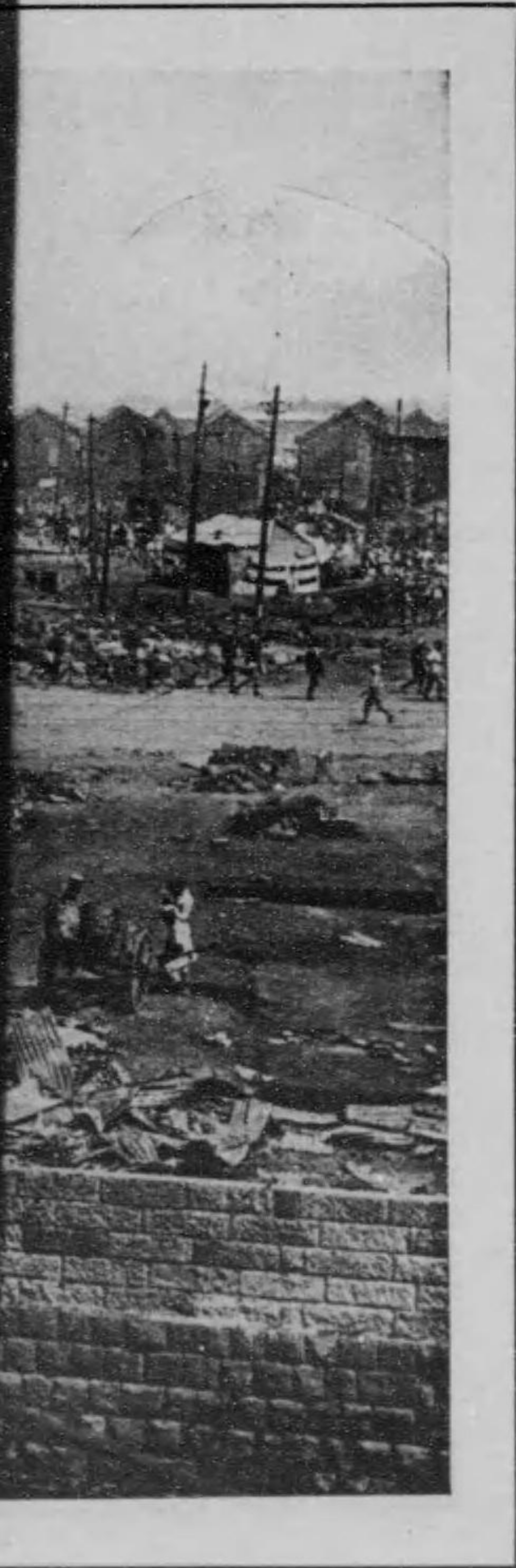


Digging the offertory-chest out of remains of Kanda Myojin Shrine after the catastrophe.



九月一日の午後各方面の街路から逃れ来た人々の爲めに、須田町附近は名状し難い混乱を來したが、更に其處も猛火に包まれて逃げ遅れた人々は、或は附近の電車の中に、或は高架線のガードの下に、何れも無残な最後を遂げた。圖は須田町より連雀町一帯の焦土で、堆い砂灰が今更ながらに酸鼻を極めた其夜の光景を偲ばせて居る。

Devastation of Sudscho, one of the busiest quarter in Tokyo, near Manseibashi Station.



ge.